第三條　酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面並ニ酒造用容器器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同ヲ

第四條　酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ其容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ毎酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其仕込數ヲ記載シ其酒造年度開始前ニ地方長官ニ申告スヘシ

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條　酒類製造主ノ相續人ニ於テ其ノ製造事業ヲ繼續セムトスルトキハ其旨地方長官ニ申出製造繼續ノ免許ヲ受クヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カントスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第七條　酒類ノ造石稅ハ其製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條　酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條　酒類ノ造石數ヲ査定スルトキハ其ノ石數ヨリ百分ノ二ヲ滓引減量トシテ控除スヘシ

但シ犯則ニ係ル清酒ハ滓引減量ヲ控除スルノ限ニ在ラス

第十條　酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル醪又ハ酒類ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十一條　酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノトキ之ヲ檢査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ヲ製造場內ニ移入シタルトキ亦同シ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第十二條　酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費スルトキ若クハ公賣セラルヽトキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其造石數ヲ査定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此限ニ在ラス

第十三條　酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其數量時期等ヲ地方長官ニ申告スヘシ

第十四條　酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條　酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條　酒類製造主其製造用ニ供スル醪ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十七條　酒母醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十八條　酒造稅法第十二條ニ依リ未納造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ地方長官ニ申請スヘシ

第十九條　前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ腐敗ノ爲メ使用ノ途ナキヲ認ムルトキハ未納稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

腐敗酒ヲ以テ蒸溜酒ノ製造用ニ供セムトスルモノハ未納稅金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ノ燒酎又ハ酒精ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十條　地方長官酒類ノ造石數ヲ査定シタルトキハ其ノ際酒類製造主ヲシテ酒造稅法第十三條ニ依リ保證物ヲ提供セシムヘシ但シ酒類製造主ハ見込造石數ニ依リ豫メ保證物ノ提供ヲ申請スルコトヲ得

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造稅法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一條　保證物ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　金錢

二　利付國債證券地方債證券

三　政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券

四　土地

五　酒類製造場內ノ建物但シ火災保險ニ付シタルモノニ限ル

第二十二條　保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格土地ハ稅務管理局長ノ認メタル地價十分ノ八建物ハ被保險額ニ依ル

第二十三條　酒類製造主保證物ヲ提供スルトキハ金錢有價證券ハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ地方長官ニ提出シ土地建物ハ書入ノ登記ヲ爲スヘシ第三者ニ於テ酒類製造主ノ爲メ保證物ヲ提供スルトキハ亦同シ

第二十四條　保證物トシテ提供シタル證券債券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ地方長官ノ指定期限內ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ

第二十五條　酒造稅法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、賣入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條　納稅保證人ハ地方長官ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル

第二十七條　地方長官ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條　收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條　地方長官ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條　酒類製造主ハ地方長官ニ申出保證物納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ

變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條　酒類製造主稅金ヲ納メサルトキハ納稅保證人ニ通知シ其ノ稅金ヲ納メシメ又ハ滯納處分ノ手續ニ依リ其保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣スヘシ

納稅保證人稅金ヲ完納セサルトキ又ハ保證物若ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シ尙ホ稅金ニ不足アルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後尙ホ稅金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條　同一製造場內ニ於テ淸酒並ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ醸造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條　地方長官容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

第三十四條　收稅官吏ハ隨時酒類製造場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ

第三十五條　收稅官吏ハ搾器械、蒸溜器械ノ使用停止中之ニ封緘ヲ附スヘシ但シ理修其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收稅官吏ハ必要ト認ル場合ニ於テハ原料用酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第三十六條　自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條　製造用原料品中酒母又ハ醪ノ檢査ハ熟成ノ時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成シタル酒母又ハ醪ヲ製造場內ニ移入シタルトキハ其ノ移入ノ時ニ於テスヘシ

酒母、醪以外ノ原料品ハ其ノ使用前便宜之ヲ檢査スヘシ其ノ檢査後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十八條　酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル每ニ、並ニ一仕込每ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條　酒類製造主左ニ揭クル事項ヲ行ハムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一　熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込ムコト

二　熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲スコト

三　酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換スルコト

四　仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和スルコト

五　原料用酒類ノ用途ヲ變更スルコト

六　藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲スコト

第四十條　酒類製造場外ヨリ酒類製造場內ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第四十一條　二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ淸酒ヲ搾リ揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條　酒粕ハ其搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

酒類製造主ハ前項檢査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト

混合スルコトヲ得ス

第四十三條　酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出、受拂、增減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第四十四條　酒造稅法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造稅法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面目錄ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ

第四十五條　酒造稅法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ地方長官ニ免許ヲ申請スヘシ

而シテ酒造容器ノ測算方法ニ就テハ舊酒造稅則施行細則中ニ之ヲ規定シタリト雖モ新施行規則ニ於テハ之ニ關スル事項ヲ規定セス其測算方法ハ依然舊ニ仍ラシムルコトヽ爲セリ然ルニ從來ノ測算法ハ煩雜ニシテ誤謬ヲ生シ易キノミナラス時間ヲ空費シ却テ主要ノ檢査ヲ疎略ニスルノ虞アルヲ以テ明治二十九年十一月二日大藏省內訓第二〇四二號ヲ以テ左ノ如キ簡便ナル測算方法ヲ示シタリ

酒造容器測算方法

一　測度方法

口徑（口頭コリ一寸下リタル箇所）第一胴徑（口徑ヨリ全深四分ノ一下リタル箇所）第二胴徑（口底徑ノ中央）第三胴徑（第二胴徑コリ全深四分ノ一下リタル箇所）底徑（底板面ノ箇所）何レモ內測リニテ縱橫⊕圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其容器ノ前後左右中心等何レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ム

一　全量算則

(一)　第二胴徑以上ノ容量

口徑ト第一胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

第一胴徑ト第二胴徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト第二胴徑ノ和ヘ第一胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、一〇一ヲ乘シ其容量ヲ得ル但石數ハ合位ニ止ム第二胴徑以下ノ場合モ亦同シ

(二)　第二胴徑以下ノ容量

第二胴徑以上ノ例ニ準據スヘシ

右(一)(二)ヲ合算シ全量ヲ得ル

一　端石算則

入實深第一胴徑以上ニ在ルトキハ全深ヨリ減シ空深ヲ定ム入實深第一胴徑以下ニ在ルトキハ全深二分ノ一ヲ減シ其入實深ヲ定ム此場合ニ於テ厘位アルトキハ之ヲ存スルモノトス

入實水面第一胴徑以上ニアルトキハ其入實水面ヲ底徑ト假定ス（此假定徑ヲ求ムルニハ口徑ト第一胴徑ノ差ヲ四倍シ全深ニテ空深ヲ乘シ差分ヲ得之ヲ口徑ニコリ減シテ假定ノ底徑トス但シ差分ハ分位ニ止ム假口徑ヲ求ムル場合モ亦同シ）

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空深及〇、四〇四ヲ乘シ得ル數ヲ檢定容器全量ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル但石數ハ合位ニ止ム第二胴徑以下ノ場合モ亦同シ

入實水面第一胴徑以下ニアルトキハ其入實水面ヲ口徑ト假定ス（此假口徑ヲ求ムルニハ第一胴徑ト第二胴徑トノ差ヲ四倍シ全深ニテ除シ入實深ヲ乘シテ得之ヲ第二胴徑ニ和シ假定ノ口徑トス）

假定ノ口徑ト第二胴徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト第二胴徑トヲ相乘シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ第二胴徑以上ノ入實深サ及ヒ〇、四〇四ヲ乘シ其石數ヲ得テ之ニ第二胴徑以下ノ容量ヲ加ヘ現在ノ石數ヲ得ル

入實第二胴徑以下ニアルトキハ前例ニ準據スヘシ

本測算法ニ據リ容量ヲ得難シト認ムル容器ハ便宜ノ方法ヲ以テ測算スルヲ得

明治三十年九月七日酒母醪及酒類造石數ヲ計量スルニ石度ヲ入實ニ沒入シテ寸尺ヲ計量スルノ法ヲ廢シ製成酒ノ外ハ凡テ空積ノ寸尺ニ因リテ入實ヲ測定スルコトヽ爲シ大藏省主稅局ヨリ各稅務管理局ニ通牒セリ蓋シ之カ爲メニ後日酒類腐敗ヲ招クノ虞アルヲ以テナリ又酒造稅法施行規則第二十二條ニ依レハ保證物ノ價格ヲ定ムルニハ土地ハ土地臺帳ニ登記シタル地價ニ依ルヘキ旨ヲ明示セルモ歲月ヲ經ルニ伴ヒテ土地ノ狀況ニ變動ヲ生シ隨テ土地臺帳登記ノ地價ヲ以テ唯一ノ標準ト爲スハ甚タ當ヲ得サルノミナラス同則第二十一條第五號ニ酒類製造場內ノ建物トアルハ範圍狹少ニ失スルノ虞アルヲ以テ十月二十七日勅令第三百八十四號ヲ以テ同則第二十一條第五中「酒類製造場內ノ」ノ七字ヲ削除シ第二十二條「土地臺帳ニ登記シタル地價」ヲ「稅務管理局長ノ認メタル時價十分ノ八」ニ改正セリ

然ルニ明治三十二年度ノ歲計ニ於テ更ニ歲入增加ノ必要アリ其財源ヲ再ヒ酒造稅ニ向テ求メサルヲ得サルニ至リタルヲ以テ酒造稅法中ニ改正ヲ加ヘ酒造々石稅率ヲ增加シ各酒種類一石ニ付五圓ヲ高ムルコトヽセリ然ルニ先キニ造石稅ノ增加以來酒精ヲ竊ニ酒類中ニ混和シテ造石稅ノ負擔ヲ免カルヽノ弊漸ク增進シタルヲ以テ單ニ稅率ヲ增加スルノミニテハ豫期ノ收入ヲ得ル能ハサルヘキヲ以テ此改正ニ於テハ外國酒類トノ權衡ヲ計リ又一般課稅ノ基礎ヲ明確ナラシムルカ爲メニ酒精ヲ標準トシ其容量ノ多少ニ依テ稅額ヲ確定セリ而シテ又稅率ヲ增加スルト仝時ニ製造免許ニ制限ヲ設ケ或ハ稅金ノ納付期限ヲ繰下ケ或ハ納稅保證物ノ提供方法ニ便宜ヲ與フル等主トシテ酒類製造者ヲ保護スルヲ以テ其要旨トナシ且又稅源ノ涵養ヲ扶掖センカ爲メ之ニ關聯スル法律即チ自家用酒ニ對スル輕稅ノ特典ヲ廢シ又ハ混成酒稅法ヲ改正シテ混成酒ノ定義ヲ明確ニシテ脫稅ノ弊ヲ防遏シ併テ稅率ヲ增加シ一般酒稅ト權衡ヲ保タシメ若クハ關稅率ヲ增加シテ輸入酒精ノ取締ヲ厲行シ其他酒造組合ニ關スル規定ヲ設ケテ以テ酒造業ノ發達ヲ講シタリ今改正法文ヲ揭クレハ左ノ如シ

法律第二十三號（明治三十一年十二月二十七日）

明治二十九年法律第二十八號酒造稅法中左ノ通改正ス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其造石數ニ應シ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ課ス

第一種 清酒 濁酒 白酒 味淋 一石 金十二圓

第二種 燒酎酒精 一石 金十三圓

攝氏驗溫器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量第一種ニ在テハ二十第二種ニ在テハ五十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ增ス每ニ前項ノ金額ニ一圓ヲ加フ

第五條 政府ハ一酒造年度間清酒ハ百石濁酒ハ五十石燒酎酒精ハ五石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セス

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サヽリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其製造セサリシ石數ニ對シテハ其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテニ查定シタルモノト看做シ第四條第一項ノ稅率ニ依リ其造石稅ヲ徵收ス

第六條 造石稅ノ納期ヲ分チ左ノ四期トス

第一期 七月十六日ヨリ同三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ查定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期 十月十六日ヨリ同三十一日限

同上

第三期 翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ查定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期 翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第七條中「逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ」ノ下ニ「若ハ納稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲サヽルトキ」ヲ加フ

第十二條 左ノ酒類ハ其造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ第二種ノ酒類ノ製造ニ供スルモノ

四 容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫シメ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數查定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得

每酒造年度ノ見込造石數又ハ查定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上增加シタルトキハ其

ノ石數ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ增補スヘシ

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ヲ製造スルモノ此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ造石稅ニ關シテ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後三年間政府ハ造石稅全額マテノ保證物提供ヲ命スルコトヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ增減ヲ爲サス

保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四　ニ左ノ一號ヲ加フ

四、酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納稅ヲ擔保シタルトキ

第十五條　酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徵收スヘキ稅金額及ヒ滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財產ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十六條　酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ハ納稅者トシテ其義務ヲ負擔スルモノトス

第二十一條　酒類ヲ製造セサル者ノ製造シタル醪ハ他人ニ讓渡シ質入シ飲料トシテ消費シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第二十二條　免許ヲ受ケスシテ酒類又ハ酒類製造ノ酒母若ハ醪ヲ製造シタル者ハ二十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者又ハ間接國稅犯則者處分法第十一條ニ依リ處分セラレタル者ニハ其ノ造石數ニ應シ造石稅ヲ課ス但シ酒母醪第四條第一種ノ稅率ニ從フ

前項ノ造石稅ハ其ノ際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十三條中「百圓」ヲ「二百圓」ニ改ム

第二十三條ノ二　酒類ヲ製造セサル者第二十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條ノ三　前二條ニ依リ處罰セラレタル者又ハ間接國稅犯則者處分法第十一條ニ依リ處分セラレタル者ハ濁酒ヲ製造シタル者トシ其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ其際直ニ　ヲ納ムヘシ

第二十七條中「受ケサル」ヲ「免レ又ハ免レントシタル」ニ改ム

第三十五條　府縣及市町村ハ此法律ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類造石數若ハ造石稅ヲ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス

第三十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三十九條　沖繩縣ヲ除クノ外此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此法律施行地ニ輸出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其酒類ノ石數ニ應シ第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其酒類ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第四十條　酒類ヲ製造スル者ハ府縣若ハ稅務署管內ヲ一區域トシテ酒造組合ヲ設クヘシ組合ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

此ノ法律ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行シ同日以後製成ニ係ル酒類ニハ其ノ製造著手ノ時期ニ拘ハラス此ノ法律ヲ適用ス

此ノ法律施行前既ニ免許ヲ受ケタル者ニハ三十一年度及三十二年度分ニ限リ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

前掲酒造稅法ノ改正ニ伴ヒ從來ノ酒造稅法施行規則中改正ノ必要ヲ生シ明治三十一年十二月二十九日勅令第三百六十二號ヲ以テ左ノ如ク改正セリ

勅令第三百六十二號（明治三十一年十二月二十九日）

酒造稅法施行規則中左ノ通改正ス

第一條第一項中但書ヲ削ル

第五條　一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ

第十八條中「未納」ヲ削ル

第十九條　前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務管理局長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ以テ燒酎又ハ酒精ノ製造用ニ供セムトスルモノハ稅金ノ免除處分ヲ爲シ其酒類ハ燒酎又ハ酒精ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十條　酒類製造主ハ酒類製造著手前ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ酒造稅法第十三條第一項但書ニ依リ造石數査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造著手前ニ其ノ旨稅務管理局長ニ申請スヘシ

保證物ヲ增補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造稅法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十二條　保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格土地建物ハ稅務管理局長ノ認メタル時價ヨリ十分ノ二ヲ控除シタルモノニ依ル但シ建物ニ付テハ時價ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シタルモノ被保險額ヨリ多キトキハ被保險額ニ依ル

第三十一條　酒類製造主稅金ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其稅金ヲ納メシムヘシ

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後仍稅金ニ不足アルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

本則中「地方長官」ヲ總テ「稅務管理局長」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十一年法律第二十三號實施ノ日ヨリ施行ス

酒造稅法第十三條ニ依リ增補スヘキ保證物ハ明治三十二年一月一日以後製成スヘキ酒類ノ見込石數ニ依リ提供スヘシ

酒精ノ製造又ハ輸入ニ對シ課稅スルトキハ其價格ノ騰貴スルハ必然ニシテ此等高價ノ酒精ヲ醫藥又ハ工業用ニ使用セシムルハ衞生ノ普及工業ノ發達ヲ阻害スルノ虞アルヲ以テ是等ノ消費者ハ其稅金ノ下戾ヲ請求スルコトヲ得セシムルノ必要アルヲ以テ明治三十一年十二月法律第二十七號ヲ以テ之ニ關スル規定ヲ左ノ如ク定メタリ

法律第二十七號（明治三十一年十二月二十七日）

酒造稅法ニ依リ造石稅ヲ課セラレタル酒精又ハ從價二倍半若クハ之ヲ從量ニ換算シタル輸入稅ヲ課セラレタル酒精ヲ醫藥用ニ供スルモノ又ハ酒類製造ヲ除ク外工業用ニ供スル者ニシテ政府ノ承認ヲ得テ每回一石以上ノ酒精ヲ使用スル者ハ其造石稅ニ相當スル金額ノ下戾ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

附則

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右醫藥用工業用酒精ノ稅金下戾ニ關スル法律ハ明治三十二年三月二十二日勅令第五十七號ヲ以テ明治三十二年八月十五日ヨリ施行スルコトヽ爲セリ尋テ翌三十二年六月九日勅令第二百四十號ヲ以テ更ニ右下戾請求ノ手續ヲ定メタリ卽チ左ノ如シ

明治三十一年法律第二十七號ニ依リ酒精造石稅ニ相當スル金額ノ下戾ヲ請求セントスル者ハ收稅官吏若クハ稅關官吏ノ證明書ヲ得テ酒造稅法ニ依リ造石稅ヲ課セラレタル酒精又ハ從價二倍半若ハ之ヲ從量ニ換算シタル輸入稅ヲ課セラレタル酒精ナルコトヲ證明シ使用ノ都度收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

次テ同月十二日大藏省令第四十六號ヲ以テ右ニ關スル取扱方ヲ規定セリ左ノ如シ

收稅官吏酒造稅法ニ依リ酒精ノ造石數ヲ査定シタル場合ニ於テ其査定年月日査定造石數ノ證明ヲ請求スルモノアルトキハ之ニ證明書ヲ交付スヘシ但證明書ヲ交付シタル後同法第十二條ニ依リ酒精ノ造石稅ヲ免除シタルトキハ既ニ交付シタル證明書ニ其年月日及造石稅ヲ免除シタル石數ヲ記載スヘシ

斯クテ明治三十二年七月八日勅令第三百四十號ヲ以テ改定稅法第四十條ニ基キ酒造組合規則ヲ制定シ府縣並ニ稅務管理局ニ訓示シテ規則第三條ニ依リ組合契約書又ハ組合契約書變更ノ認可ヲ申請シタルトキハ地方長官ハ所轄稅務管理局長ヘ協議シ其不都合ナキヲ認メタル上認可ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ命セリ酒造組合規則左ノ如シ

勅令第三百四十號（明治三十二年七月八日）

酒造組合規則

第一條　酒類製造者酒造稅法第四十條ニ依リ設クヘキ酒造組合ニ關スル規定ハ本令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的トス

第三條　酒類製造者組合ヲ設置セントスルトキハ組合契約書ヲ作成シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ組合契約書ヲ變更シタルトキモ亦同シ

第四條　組合契約書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　組合ノ名稱
二　組合設置ノ區域
三　組合事務所ノ所在地
四　組合ノ事業
五　組合役員ノ選任方法任期及其ノ權限
六　組合總會召集ノ方法
七　組合ニ於ケル會議ノ方法
八　組合經費ノ負擔及其取立方法
九　組合契約違反者處分ノ方法
十　契約書ノ變更ニ關スル手續
十一　組合ニ於ケル酒類製造者ノ造石稅納付ヲ擔保スル場合ニ於ケル決議方法
十二　酒造稅法施行規則第三十一條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキノ處分方法

組合契約書ニハ前各號ニ掲クルモノノ外組合ニ於テ必要トスル事項ヲ記載スルコトヲ得

第五條　酒造組合ハ諸般ノ事務ヲ處理スル爲メ左ノ役員ヲ置クヘシ

一　組合長　一名
二　組合評議員　若干名

組合員多數ナルトキハ便宜組合副長又ハ組合支部長ヲ置クコトヲ得

役員ハ組合總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス

第六條　組合長ハ組合員ヲ代表ス

組合長ノ代理者ハ組合契約書ノ定ムル所ニ依ル

第七條　組合役員ノ選任及解任アリタルトキハ酒造組合ヨリ其ノ氏名ヲ地方長官及稅務管理局長ニ報告スヘシ

第八條　酒造組合ハ毎年少クトモ一回其ノ經費ノ決算ヲ爲シ各組合員ニ報告スヘシ

第九條　酒造組合ハ營利ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　地方長官ハ酒造組合ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法令ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其決議ヲ取消シ又ハ役員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

明治三十二年九月二十二日大藏省令第四十一號ヲ以テ明治二十一年大藏省令第八號輸出酒類戾稅規則中改正ヲ加フ蓋シ從來ノ規定ニ依レハ輸出酒類ノ造石稅下戾ヲ請求スルニハ必ス輸入港稅關ノ陸揚免狀ヲ提出スヘキ旨ヲ定ムト雖モ國ニヨリテハ陸揚免狀ヲ交付セサル稅關アルヲ以テ實際上不都合ヲ生スレハナリ改正ノ條文左ノ如シ

第二條　酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ帝國領事官貿易事務官又ハ名譽領事ノ輸入證明書ヲ

受ケ輸出港稅關ノ證明書ト共ニ之ヲ當初輸出ノ稅關ニ提出シ造石稅ノ下戾ヲ請求スヘシ

酒造稅法第四十條ニ依レハ酒造組合ハ府縣郡市若ハ稅務署管內ヲ一區域トシテ設クヘキモノト定メタルモ土地ノ狀況ニ依リ此區域ニ據リ難キ場合アルヲ以テ之カ例外ヲ設ケ數郡市又ハ數稅務署管內ヲ一區域ト爲スヲ得ルコトトセリ改正ノ條文左ノ如シ

第四十條　酒類ヲ製造スルモノハ府縣郡市若ハ稅務署管內ヲ一區域トシテ酒造組合ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ數郡市若ハ數稅務署管內ヲ一區域ト爲スコトヲ得

組合ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

清國事件ノ爲ニ要スル經費ノ支辨ニ充テタル軍艦水雷艇補充基金災害準備基金ノ三基金ヲ補充シ引續キ清國ニ於テ要スル臨時費ノ支辨ニ充テ且ツ從來公債支辨ニ屬セシメタル計畫ヲ變更シテ租稅收入ノ支辨ニ屬セシムル等ノ爲ニ歲入ノ增加ヲ要シタルヲ以テ明治三十四年三月三十日法律第七號ヲ以テ更ニ酒造稅法ヲ改正シ課稅標準及稅率ヲ變更シ一石ニ付凡三圓ヲ增率シ其他罰金額ヲ增加スル等改正スル處少ナカラス今其全文ヲ揭クレハ左ノ如シ

法律第七號（明治三十四年三月三十日）

酒造稅法中左ノ通リ改正ス

第一條中「酒精ノ六種トス」ヲ「ノ五種トス」ニ改ム

第四條　酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第一種　酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒、味淋及甘藷ノ原料トシテ製造シタル燒酎ニシテ酒精分三十度以下ナルモノ　一石ニ付　金拾五圓

第二種　酒精分四十五度以下ノ燒酎　一石ニ付　金拾六圓

第三種　酒精分二十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎　一石ニ付　金七十五錢

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

第五條第一項中「酒精」ヲ削ル

第七條中「徵收スルコトヲ得」ヲ「徵收ス此場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得」ニ改ム

第十九條　收稅官吏ハ酒類ヲ製スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物材料器械其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　免許ヲ受ケスシテ酒母、醪又ハ酒類ヲ製造シタル者ハ五拾圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ直ニ造石稅ヲ賦課徵收スルコトヲ妨ケス

第二十三條　酒類ヲ製造セサル者第二十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ濁酒ヲ製造シタル者トシ其ノ製造ニ係ル酒母醪ノ總石數ニ對シ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ第六條ノ納期ニ依ラス直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十三條ノ三　削除

第二十四條中「三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス」ヲ「五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス」ニ改ム

第二十五條中「三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス」ヲ「五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ

下ルコトヲ得ス」ニ改ム

第二十六條中「三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス」ヲ「五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス」ニ改ム

第二十七條中「十圓」ヲ「三十圓」ニ「三百圓」ヲ「五百圓」ニ改ム

第二十八條中「五圓」ヲ「十圓」ニ「五十圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第二十九條　酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ稅法ヲ犯シタルトキハ其製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第三十九條中「三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ酒類ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス」ヲ「五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ酒類ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附則

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製造シタル酒類ニハ舊稅率ヲ適用ス

右法律ノ改正ニ伴ヒ施行規則改正ノ必要ヲ生シ明治三十四年八月二十三日勅令第百六十四號ヲ以テ左ノ如ク改正セリ

勅令第百六十四號（明治三十四年八月二十三日）

酒造稅法施行規則中左ノ通改正ス

第一條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三條　第一項ニ左ノ如ク加フ

但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此限リニ在ラス

第六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條　酒造稅法第八條第二項但書ニ依リ滓引減量トシテ控除スルハ査定石數ノ百分ノ二トス

犯則ニ係ル清酒ニ關シテハ滓引減量ヲ控除セス

第十條中「醪又ハ酒類」ヲ「酒類又ハ醪、酒精、酒精含有飲料」ニ改ム

第十九條第二項中「又ハ酒精」ヲ削ル

第二十三條　保證物中金錢、有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出シ土地建物ニ關シテハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第三十四條中「酒類製造場」ノ下ニ「又ハ酒類販賣場」ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒類及酒精課稅ニ關スル法律ノ改正ニ伴ヒ其稅金下戻ニ關スル法律ヲ改正スルノ必要アリ明治三十四年三月法律第十號ヲ以テ外國輸出酒類ノ戻稅方ニ關シ左ノ如ク規定シ以テ明治二十一年勅令第五十四號ヲ廢止セリ

法律第十號（明治三十四年三月三十日）

第一條　帝國內ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ外國ニ輸出シタル者ハ左ノ割合ニ依ル金額ノ下附ヲ政府ニ請求スルコトヲ得但葡萄酒ハ此ノ限リニ在ラス

一　清酒、濁酒、味淋、及甘藷ヲ原料トシテ製造シタル燒酎	一石ニ付	金十五圓
一　燒酎	一石ニ付	金十六圓
一　麥酒（ビール）	一石ニ付	金七圓
一　酒精ヲ含有スル飲料ニシテ前各號ニ揭ケサルモノ及酒精	一石ニ付（原容量一百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ）	金七十五錢

輸出後一年ヲ經過シタル前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ金額ノ下附ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ輸出港稅關ニ提出スルコトヲ要ス

一　製造場所轄稅務署ノ交附シタル納稅濟證明書

二　輸出免狀

三　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第三條　納稅濟ニ至ラサル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出シタル者ハ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ以テ前條納稅濟證明書ニ代フルコトヲ得

附　則

第四條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後製造シタル酒精又ハ酒類其他ノ酒精ヲ含有スル飲料ニ之ヲ適用ス

第五條　明治二十一年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ關シテハ仍該勅令ヲ適用ス

右法律第十號酒精酒類其他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル規定ノ改定ニ伴ヒ同年八月勅令第百六十六號ヲ以テ其施行規則ヲ左ノ如ク定メタリ

勅令第百六十六號（明治三十四年八月二十三日）

明治三十四年法律第十號施行規則

第一條　酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付納稅濟證明書又ハ擔保提供證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ其種類數量含有純酒精ノ容量、査定ノ日製造場請求者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セムトスル者ハ其ノ種類數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場擔保ノ種類價格及稅金不納ノ場合ニ於テハ其ノ擔保物ヲ以テ稅金ノ納付ニ充ツヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ製造場所轄稅務署ニ提

出スヘシ

第三條 擔保ハ金錢又ハ有價證券ヲ以テ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第四條 外國ニ輸出スル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條ニ依リ金額下付ヲ請求セムトスル者ハ其輸出申告書ニ少クトモ其種類數量、含有純酒精ノ容量査定ノ日、製造場及輸出先ヲ記載スヘシ

第五條 前條ノ申告アリタルトキハ稅關ハ酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ノ種類、數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定スヘシ

第六條 第一條、第二條、第四條及第五條ノ場合ニ於テ清酒、濁酒、白酒、味淋、麥酒ニ限リ含有純酒精ノ容量ヲ記載シ又ハ檢定スルコトヲ要セス

而シテ酒造稅ニ關シテハ爾後別段ノ變更ヲ來サス但シ麥酒、酒精及酒精含有飲料等特種酒類ニ關シテハ各其稅法ノ部ニ讓ル

酒造稅收入額

年度	釀造酒稅	蒸溜酒稅	再製酒稅	酒造免許稅	自家製酒料	礼料	受賣營業稅	合計
第五期	—	—	—	—	—	—	—	円 一六、二〇七、八三
第六期	—	—	—	—	—	—	—	九六一、〇三〇、六二四
第七期	—	—	—	—	—	—	—	一、六八三、五二九、七七一
第八期	—	—	—	—	—	—	—	一、三一〇、三八〇、六六二
明治八年度	—	—	—	—	—	—	—	二、五五五、五九四、九四〇
明治九年度	一、三一八、三五六、六六五	〇	〇	三〇五、六三六、四〇〇	〇	二八七、六四六、一〇〇	一、九一一、六三九、二六五
明治十年度	二、二四六、六八〇、一八二	〇	〇	三一七、八六四、一六五	〇	四八五、七七三、三三〇	三、〇五〇、三一七、七六七
明治十一年度	四、〇〇六、〇五七、六九三	〇	〇	三三六、二〇二、八〇〇	〇	七五七、八〇二、一五三	五、一〇〇、〇六二、四五六
明治十二年度	五、二五一、五三二、六〇四	〇	〇	三七九、二一三、二八八	〇	八三三、一四八、八四〇	六、四六三、八九三、七三二
明治十三年度	四、六七五、八四六、五四九	〇	〇	八三五、四八八、九二〇	〇	〇	五、五一一、三五三、四六九
明治十四年度	九、八三五、九四二、八二八	〇	〇	八一〇、二二〇、四九	〇	〇	一〇、六四六、一六三、二七四
明治十五年度	一五、二九九、五一一、四六九	〇	〇	七六一、三二七、五一〇	二六八、七八四、六〇〇	〇	一六、三二九、六二三、五七九
明治十六年度	一二、三〇一、七五一、四四一	〇	〇	六五一、一四八、〇八二	五三七、八三〇、九三七	〇	一三、四九〇、七三〇、四六〇
明治十七年度	一二、九九一、四四三、三四一	〇	〇	五四七、九五九、五三六	五二八、七二九、八六三	〇	一四、〇六八、一三二、七四〇
明治十八年度	一五、三〇九、〇四六	〇	〇	四八四、六五二、九四二	五五三、五〇三、一〇〇	〇	一、〇五三、四六五、〇八八
明治十九年度	一〇、三八〇、五二一、八五四	二一三、〇一一、七〇六	一一七、一四九、三八五	四四五、一六二、七五七	五八七、九三一、九〇〇	〇	一一、七四三、七七七、六〇二
明治二十年度	一一、五〇九、八八三、六七五	二四二、五六六、六五八	一七九、九三二、三〇六	四五六、七三五、五九六	六八〇、六八九、六〇〇	〇	一三、〇六九、八〇七、八三五
明治二十一年度	一五、三三八、八九八、〇〇〇	三一〇、一四四、〇〇〇	二一三、四二五、〇〇〇	四六三、二二七、〇〇〇	七三八、四四三、〇〇〇	〇	一七、〇六三、一三七、〇〇〇
明治二十二年度	一四、七三九、八七六、〇〇〇	二六五、八八二、〇〇〇	二一八、六七四、〇〇〇	四五四、八八六、〇〇〇	七六〇、四〇二、〇〇〇	〇	一六、四三九、七二〇、〇〇〇
明治二十三年度	一二、三〇二、八四六、八六三	二二一、五六二、九七三	一八三、三〇三、九一九	四四一、一七二、五七六	七五九、一七五、八〇〇	〇	一三、九〇九、一六二、一二九
明治二十四年度	一三、〇二九、〇一二、六八八	二五六、二七七、五七九	一八三、八九九、四七一	四四一、一二四、六三六	七七六、四八五、六〇〇	〇	一四、六八六、九一九、七四
明治二十五年度	一四、一二九、〇四六、九二四	二五八、一七七、五六九	一九一、八四一、三九九	四四一、四三四、四五六	八〇二、三八七、六〇〇	〇	一五、八一二、八八七、六四八
明治二十六年度	一四、九一〇、七〇〇、九八四	二六九、九〇八、三〇六	二三〇、四三〇、五八三	四三八、六〇八、四五六	七八七、七八七、四一一	〇	一六、六三七、四三五、七四〇

明治二十七年度	一四、三九九、四九一、四七九	〇	二五九、二三四、五八九	二三五、〇五六、六一七	四三三、三七二、四五六	八〇三、三一五、八二九	〇	〇	〇	一六、一三〇、四七〇、九七〇
明治二十八年度	一五、八九二、一五八、一三一	〇	二九七、四九三、六〇二	二五三、二七八、四七二	四三四、四八六、四五六	八七一、三一八、二〇〇	〇	〇	〇	一七、七四八、七三四、八六〇
明治二十九年度	一八、四九五、三九〇、七九二	〇	三一九、二一八、四〇八	三〇三、五二三、四四三	三、三五二、四五六	三、六八〇、八〇〇	〇	〇	〇	一九、一二五、一六五、八九九
明治三十年度	三〇、二九〇、三二五、四四七	〇			二、九三〇、四五六		〇	〇	〇	三〇、二九三、二五五、九〇三
明治三十一年度	三一、八六五、四五九、二七五	〇			二、九三八、四五六		〇	〇	〇	三一、八六八、三九八、一八一
明治三十二年度	四八、八四六、九二四、七四六	〇			三、〇二六、四五六		〇	〇	〇	四八、八四九、九五一、二〇二
明治三十三年度	五〇、二二〇、八〇五、四八三	〇			三、一三四、三四二		〇	〇	〇	五〇、二二三、九三九、八二五
明治三十四年度	五七、八六六、一〇三、九六七	〇			三、二四六、四五六		〇	〇	〇	五七、八六九、三五〇、四二三
明治三十五年度	六二、九七二、六四〇、六二〇	〇			二、七六八、〇〇〇		〇	〇	〇	六二、九七五、四〇八、六二〇

（備考）

一 第四期以前ニ於ケル本税收入額ハ運上諸冥加中ニ混入シ其數額ヲ知ル能ハス

一 第五期ヨリ明治八年度ニ至ル本税收入額ノ細別不明ナルヲ以テ其合計額ノミヲ示ス

一 明治二十九年度以降酒造免許税ハ明治二十九年法律第二十八號酒造税法ノ規定ニ依リ内地ノ酒造免許税ヲ廢止シタルヲ以テ舊慣ニ依ル沖繩縣酒造免許税ノ收入額ノミヲ示ス

第二款 自家用酒税

細民農桑ノ辛苦ヲ醫スルカ爲メニ用フル濁酒又ハ燒酎ノ負擔ヲ免レシムルノ旨趣ヨリ自家用ノ酒類ニ付テハ全然之ヲ税法ノ外ニ置キ別ニ何等ノ檢束ヲ設クルコトナカリシモ一般酒税ノ增加セラレ取締ノ嚴密トナルニ隨ヒ自家用料酒ノ醸造者日ニ月ニ增加シ勢ヒ之カ制限ヲ設クサルヲ得サルニ至レリ依テ明治十三年九月布告第四十號酒造税則制定ノ際特ニ之ニ附則ヲ設ケ酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ一箇年各種ヲ通シテ一石ヲ超過スルヲ得ス若シ一石ヲ超ルトキハ總テ同法ニ依リ課税スルコトヽ爲セリ越ヘテ明治十五年布告第六十一號ヲ以テ酒造税則中改正セラルヽヤ附則モ亦大ニ改正追加ヲ施シ自家用料酒醸造高制限ヲ置キタルノ外其製造者ニハ免許鑑札ヲ與ヘ鑑札料金八十錢ヲ徵シ其販賣ヲ禁シ禁令違反ノ者ニ科スル制裁ハ本則處罰ノ例ニ據ルヘキコトヽシ大ニ其取締ヲ嚴ニセリ

右明治十五年布告第六十一號ヲ以テ改正セル酒造税則中自家用料酒類ニ關スル規定左ノ如シ

酒造税則附則

第一條 自家用料ノ酒類（飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ）ヲ製造スル者ハ管廳ヘ屆出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石（二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス）ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條　自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條　自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條　第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第九條　此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

自家用料酒類ニ關スル規定漸ク嚴密トナレルヲ以テ其檢査手續ヲ定ムルノ必要アリ是ニ於テ明治十六年十月大藏省租稅局達ヲ以テ自家用料酒類檢査手續ヲ定メ檢査執行上準據スル所アラシメタリ

客年第六十一號布告ヲ以テ酒造稅則附則更正相成候ニ付テハ自家用料酒類檢査手續概畧別紙ノ通相心得府縣官ニ協議シ地方ニ據リ便宜斟酌ヲ加ヘ檢査行屆候樣致スヘク此旨相達候事

但監査規程ハ本年當局甲第七號達賣藥稅監査規程ニ準據スヘシ

自家用料酒類檢査手續

第一條　自家用料酒類ノ檢査ハ十五年第六十一號布告酒造稅則附則ニ據リ之ヲ檢査スヘシ

第二條　檢査ハ有稅酒類檢査部劃ニヨリ可成的該檢査員ノ內之ヲ兼務シ隨時點檢スヘシ

第三條　檢査員ハ豫メ製造者ノ姓名簿ヲ作リ酒類ノ種目及見込石數製造方法等ヲ詳記シ之ヲ携帶スヘシ

第四條　檢査員ハ先ツ製造者ニ自己ノ官職姓名及其事由ヲ告ケ而シテ檢査ニ著手スヘシ其手續左ノ如シ

第一項　檢査上ノ尋問應答ハ製造者ニ對シ之ヲ爲スヘシ若シ製造者不在ノ時ハ其代理ノ責任アルノモノニ就テ之ヲ爲シ且免許鑑札ヲ姓名簿ニ照査スヘシ

第二項　製造ニ用フル所ノ原質物ハ勿論汲水ノ分量醸造ノ方法等渾テ帳簿ニ記載シ置カシメ檢査ノ際之ヲ點檢スヘシ

第三項　酒類製造ニ著手ノ月日及製成ノ期日ハ前以屆出サセ置キ成ヘク消糜セサル以前ニ檢査スヘシ既ニ消糜セルモノハ前項ノ帳簿ニ就キ製造法ニ照シ中立石數ノ當否ヲ檢査スヘシ

第四項　酒類製造ニ用ユル桶瓶類ハ製造者ニ於テ豫メ其容量ヲ取調置カシメ檢査ノ際著シク不相當ト視認ルモノハ再調セシメ更ニ檢査ヲナスヘシ

第五項　酒類ノ造石數ハ成ヘク容量調査濟ノ桶瓶類ヲ以テ檢査ヲ爲スヘシ其調査濟桶瓶類ノ石數ニ充タサルモノ及其容量調査濟ノモノハ適宜之ヲ査定スヘシ

第六項　酒類製造ニ用ユル桶瓶類及其他器械ノ員數等ヲ點檢シ製造高ニ參驗スヘシ

第七項　檢査ヲ了シタル帳簿ニハ年月日檢査員官姓名記載ノ上認印スヘシ

第八項　酒類製造元及麴等自製又ハ買入ノ數ヲ取調製造高ニ參驗スヘシ

但買入ニ係ルモノハ其買入先ノ住所姓名ヲモ取調ヘシ

第九項　製成酒類消費高存在高ヲ取調製造高ニ參驗スヘシ

第五條　第四條ノ手續ヲナシ若シ檢査上疑訝アルモノハ倉庫室內タリト雖モ之ヲ檢視スヘシ

此場合ニ於テハ製造者ニ其事由ヲ示シ之レカ案內ヲ爲サシムヘシ

第六條　檢査中擔當部外ノ徵證トナルヘキ事實アルトキハ之ヲ該部檢査員ニ通報スヘシ

但管下ニ係ルモノハ該府縣廳ニ通報ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　犯則者ヲ發見シ告發スヘキ場合ニ於テハ治罪法第九十六條ニ據ルヘシ

第八條　檢査員ハ隨時醫麴營業者ニ就キ醫麴製造高及仕込米等ヲ點檢シ併セテ其帳簿ニ就キ販賣高ヲ取調檢査ノ徵證ニ供スヘシ

第九條　檢査員ハ前條販賣高取調ノ際成ルヘク買得人ノ住所姓名及其員數ヲ筆記シ置キ自家用料酒檢査ノ參照ニ供スヘシ

但買得人擔當部外及他管下ニ係ルモノニテ檢査ノ徵證トナルヘキ事實アルモノハ第六條ノ手續ニヨリ通報スヘシ

第十條　醫麴受賣者モ第八條第九條ニ準シ之ヲ臨檢スヘシ

第十一條　檢査員ハ一箇月間每ニ別紙樣式ノ如ク取調大藏省租稅局出張所派出監査員ニ通知スヘシ

但監査員不在ノ節ハ該出張ニ通報スヘシ

此ノ如ク自家用料酒ノ取締ニ關スル規定稍整アルニ至レリト雖モ一般酒造稅ノ增加ト共ニ其檢束法頗ル嚴密トナリ民間亦一般ニ不景氣ナリシヲ以テ酒類ノ購入ヲ避ケ自家用酒類ヲ製作スル

者一日ニ增加シ酒類營業者ノ數及其造石高ノ減少甚クヘキモノアリ明治十九年三月ノ調査ニ依レハ自家用料酒製造者ノ數六十九萬二千餘人ノ多キヲ見ルニ至レリ是ニ於テ更ニ自家用料酒製造ノ檢束ヲ嚴ニシ酒造業者ヲ保護シ竝ニ國家ノ財源ヲ涵養スルノ必要ヲ認メ明治十九年七月二十八日勅令第六十號ヲ以テ酒造稅則ヲ改正シ自家用料清酒ノ製造ヲ禁シ酒類受賣營業者飲食店旅店營業店又ハ右營業者ト同居者ノ自家用料酒製造ヲ禁止シ其他取締ヲ嚴密ナラシメタリ

酒造稅則附則

第一條　自家用料ノ酒類（飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノヲ製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ屆出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ納ムヘシ

第二條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一期トス

第三條　自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條　左ニ揭クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一　酢類受卸小賣營業者

一　飲食店又ハ旅籠屋營業者

一　前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條　自家用料ノ酒類ハ一家內ニ於テ一期製造高一石（二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス）ヲ超ユルヲ得ス

第六條　自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條　自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條　免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第十條　第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第十一條　第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ

第十二條　此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

右自家用料酒類製造ニ關スル規定改正ニ伴ヒ同年八月大藏省令第二十七號ヲ以テ自家用料酒類製造者心得ヲ左ノ如ク定メタリ

大藏省令第二十七號（明治十九年八月二十四日）

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

第一項　酒造稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出ヘシ

第二項　前項屆出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ增減スルトキハ其時時管廳ヘ屆出ヘシ

第三項　免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ揭出スヘシ

第四項　免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ屆出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第五項　第一項免許屆書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

第六項　第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

斯ノ如クニシテ十餘年ノ歲月ヲ經過シタルカ實際ニ於テハ自家用料酒ヲ製造スルモノハ却テ相當資產アルモノニ多ク爲メニ細民ハ普通造石稅ヲ負擔シ資產アルモノハ却テ法律ノ特典ヲ享有スルノ現象ヲ呈シタリ依テ明治二十九年ニ至リ酒造稅則改正稅率增加ノ結果一方ニ營業者ヲ保護シテ需要者ヲ減セサラシメンカ爲メ同年三月二十七日法律第二十九號ヲ以テ特ニ自家用酒稅法ヲ設ケ製造者ノ資格ヲ限定シ直接國稅十圓以上ヲ納ムルモノハ其製造ヲ許サス製造資格ヲ有スルモノモ其納租額ノ多少ニヨリテ稅率及造石高ニ差等ヲ附シ且一般ニ稅率ヲ高メ取締ニ付テモ亦嚴密ノ規定ヲ爲シタリ是レ實ニ自家用酒稅法カ單獨ニ制定セラレタルノ嚆矢トス其全文ハ左ノ如シ

法律第二十九號（明治二十九年三月二十七日）

自家用酒稅法

第一條　濁酒、白酒、燒酎ニ限リ自家用トシテ製造セントスル者此ノ稅法ニ依リ製造免許ヲ出願スルトキハ政府ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條　自家用酒ノ製造免許ハ一戶一人ニ限ル其造石數ハ各酒類ヲ合セテ一酒造年度間（其年十月ヨリ翌年九月マテ）二石以下トス但シ直接國稅ヲ納メサル者及納額五圓未滿ノ者ハ其造石數一石ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　自家用酒ノ製造ヲ爲ス者ニハ每年度左ノ製造稅ヲ課ス

一　前條但書ニ該當スル者　金二圓

二　直接國稅五圓以上十圓未滿ノ者　金三圓

一石迄　金八圓

二石迄

第四條　製造稅ハ之ヲ二分シ其年十月及翌年四月ヲ以テ納期トス但納期後ニ免許ヲ受クルトキハ即納トス

第五條　左ニ掲クル者及其ノ家族同居者同者ノ雇人ハ自家用酒製造ノ免許ヲ請フコトヲ得ス

一　直接國稅十圓以上ヲ納ムル者

二　酒類製造營業人及酒類販賣人

三　醬油製造營業人及醬油販賣人

四　酒母又ハ醪製造人及酒母販賣人

五　酢製造營業人及酢販賣人

六　料理店飲食店旅人宿營業者

自家用酒製造ノ免許ヲ得タル者前各號ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ其ノ免許ノ効力ヲ失フモノトス

第六條　自家用酒ハ製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ各自ノ居宅域內ニ限リ之ヲ製造スルコトヲ得

第七條　收稅官吏ハ自家用酒製造者ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第八條　自家用酒製造者其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用酒ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　自家用酒製造者免許制限ヲ超過シテ酒類ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ酒造稅法第四條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ卽時之ヲ徵收ス

第十條　自家用酒製造者元用トシテ淸酒味淋酒精ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ酒造稅法ニ依リ處分ス

第十一條　第七條ノ檢査ニ關シテハ酒造稅法第三十條ヲ適用ス

第十二條　此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第十三條　自家用酒製造者ノ家族雇人同居者ニシテ其ノ製造ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此ノ稅法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

附　則

第十四條　此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十九年勅令第六十號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條　沖繩縣東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス

尋テ八月十七日勅令第二百八十九號ヲ以テ自家用酒稅法施行規則ヲ制定セリ其全文左ノ如シ

第一條　自家用酒稅法第一條ニ依リ自家用トシテ酒類ノ製造免許ヲ受ケントスル者ハ其居所氏名及製造スヘキ酒類竝ニ左ノ種別ヲ記シ地方長官ニ申請スヘシ

第一種　造石數二石未滿

第二種　造石數一石未滿

前項申請書ニハ其製造時期及酒類ノ製造方法ニ關スル事項ヲ附記スヘシ附記事項ヲ變更シタルトキハ其際申告スヘシ

第二條　免許ヲ受ケタル酒類又ハ第一條ノ種別ヲ變更セシメントスルトキハ更ニ第一條ノ申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ但一酒造年度中ニ於テハ免許酒類又ハ種別ノ變更ヲ許可セス

第三條　自家用酒造者其ノ居所氏名ヲ變更シタルトキハ更ニ地方長官ニ申告スヘシ

第四條　自家用酒ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其旨地方長官ニ申告シ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

自家用酒製造者死亡若クハ失踪シタルトキハ相續人又ハ其他ノ者ヨリ其ノ旨地方長官ニ申告スヘシ

第五條　此ノ規則ニ依リ地方長官ニ提出スヘキ書類ハ所轄市町村長（特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區戶長又ハ之ニ準スヘキ者）ヲ經由スヘシ

該法律ノ實施ニ依リ自家用酒製造免許者ハ大ニ減少シ改正法律制定前ノ免許者ニ比シテ殆ント其十分ノ一ニ過キス爾後再ヒ酒造稅法ヲ改正シ其造石稅率ヲ增加スルノ必要ヲ見ルニ至リ經ニ再ヒ自家用酒ニ關スル處置ニ附キ考慮セサルヘカラサルノ時機ニ至リタリ元來自家用酒稅法ノ制定ハ酒造營業者ヲ保護シ延テ酒稅ノ根源ヲ害セサラシメントノ旨趣ニ依リ製造石數ヲ制限シ竝ニ輕稅ヲ課スルノ規定ヲ設ケタルモノニシテ明治十三年以前ニ於テハ稅金ヲ免シ自由ノ製造ニ一任シタルモ是レ其當時ニ於ケル山間僻陬ノ村落ニ至テハ封建ノ餘習未タ脫セサルヨリ交通ノ便隨テ閉塞セラレ會々細民農桑ノ勞ヲ醫セントスルニモ數里ノ嶮路ヲ越ヘ以テ漸ク需用ヲ充タスカ如キ境遇ニ在リタルヲ以テナリ爾來星霜ヲ經ルニ從ヒ國運ノ進暢ニ伴ヒ都鄙ノ別ナク交通機關ハ著シク發達シテ全然舊態ヲ一變シタルヨリ時ニ或ハ製造高ニ制限ヲ付シテ免許料ヲ徵シ又ハ輕稅ヲ課スルノ制ヲ設ケタリト雖モ既往ノ實績ニ徵シ稽考スルニ特典附與ハ却テ中等以上ノ資產アル者ノ享クル所トナリ細民ハ自カラ製造スルノ資ニ乏ク止ムヲ得ス課稅酒ヲ購フノ不幸ヲ見ルニ至レリ明治三十二年度財政ノ計畫上再ヒ酒造稅法ヲ改正シ造石稅率ヲ增加スルニ付テハ其稅源ノ保護トシテ勞ヒ斯業ノ發達ヲ妨クヘキ自家用酒ニ對スル輕稅ノ特典ヲ廢セサルヘカラサルノ必要ヲ生シ明治三十一年十二月法律第二十四號ヲ以テ明治三十二年一月一日以後本稅法ヲ廢止スルコトヽナレリ

自家用酒稅法ノ廢止ハ從來ノ習慣ヲ一變スルモノナレハ或ハ幾多ノ犯則者ヲ出タシ民心反動ノ如何ヲ顧慮シタルヲ以テ豫メ稅務管理局長ヲシテ地方官ニ協議セシメ人民ニ對シ普ク訓告ヲ發シテ本稅廢止ノ主旨ヲ體セシメ又一方ニハ監督ヲ周到ナラシメタルノ結果多クノ犯則者ヲ生スルニ至ラス正當ノ手續キヲ踐ミ酒造免許ヲ申請スル者尠カラサルニ至レリ

自家用酒稅收入額

年度	金額
明治三十年度	七三八、二〇八、〇〇〇円
同　三十一年度	八五四、一二一、七八七
同　三十二年度	三六、五〇〇

（備考）

明治二十九年度以前ニ於ケル自家用料酒鑑札料收入額ハ酒造稅ノ部ニ之ヲ揭出ス

第三款 混成酒稅

混成酒ナル名稱ハ明治二十九年法律第三十號混成酒稅法ノ制定ニ始マリ其以前ニ於テハ銘酒ト稱シ混成酒ヨリ其範圍甚狹少ナリ明治四年以前ニアリテハ銘酒ハ其製造額甚タ多カラサリシヲ以テ敢テ特別ノ課稅方法ヲ設クルコトナカリシカ明治四年ニ至リ初メテ淸酒ト區別シ特ニ製酒鑑札ヲ附與シタルモ課稅ニ付テハ凡テ淸酒ニ準セシメタリシカ明治十一年九月布告第二十八號ヲ以テ酒類ノ課稅方法ヲ改メ造石數ニ對シ課稅スルニ及ヒ銘酒一石ノ稅金ヲ三圓ト定メ以テ淸酒ト區別セリ明治十三年布告第四十號酒造稅則ノ制定セラルヽヤ銘酒ハ第三類再製酒中ニ屬シ一石ニ付キ六圓ノ稅額ヲ課セリト雖其檢査取締方法竝ニ納期等ニ付テハ常ニ一般酒造稅則ノ下ニ支配セラレタリシカ爾來酒價ノ高騰ニ伴ヒ銘酒ノ種類非常ニ增加シ其製法モ亦種々ニシテ到底別途ニ取締ノ法ヲ設クルニアラサレハ之ヲ檢束スルヲ得サルニ至レリ特ニ二十九年酒造稅則ノ改正ニヨリ酒造稅率更ニ一層ノ重キヲ加ヘタルヲ以テ愈々特別法制ノ必要ヲ生シ同年三月二十七日法律第三十號ヲ以テ混成酒稅法ヲ制定シ從來銘酒ト稱スルモノ及ヒ酒精燒酎其他ノ酒類ヲ材料トシ之ヲ配倍シテ混成スル各種ノ飲料酒類ヲ綜合シテ混成酒ト名ケ一律ノ下ニ之ヲ檢束シテ造石稅ヲ課スルコトヽセリ混成酒稅ハ汎ク酒類ノ混合ニ依リ製成スル各種ノ飲料ヲ包含スル爲メ第一條ニ於テ混成酒ヲ四種ニ分チ混合ノ材料ヲ標準トシテ其範圍ヲ示セリ而シテ其稅率ハ一石ニ付金六圓ト爲シ其納期ヲ二期ニ分チ尙酒造稅法中一定ノ規定ハ混成酒ノ製造ニ適用スヘキモノト爲セリ法律全文左ノ如シ

法律第三十號（明治二十九年三月二十八日）

混成酒稅法

第一條 此ノ稅法ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一 酒精ト他ノ物品トヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

二 二種以上ノ飲料酒類ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

三 一種又ハ二種以上ノ飲料酒類ト他ノ物品ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

四 飲料酒類ニ酒精若クハ燒酎ト水ヲ混和シタルモノ

第二條 混成酒ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數一石ニ付金六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

混成酒元用トシテ酒造程法ニ揭クル酒類ヲ製造スル者ニハ該稅法ノ造石稅ヲ課ス

第三條 第一條第四號ノ混成酒ヲ製造スルモ別種ノ飲料トナラス單ニ酒造稅法ノ酒類ノ造石稅ヲ增加スルニ止ルモノハ其ノ增加石數ノミニ課稅ス

第四條 造石稅ノ納期ヲ左ノ二期トス但シ廢業シタル者ハ卽納トス

第一期 其ノ年七月一日ヨリ同三十一日限

一月一日ヨリ六月三十日迄査定濟石數ニ係ル稅額

第二期 翌年一月一日ヨリ同三十一日

七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定濟石數ニ係ル稅額

第五條 混成酒ヲ製造スル者ハ收稅官吏ノ認許ヲ受クルニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第六條 第五條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 酒造稅法第二條、第七條、第八條、第十一條第十二條、第十八條、第十九條、第二十二條第一項第二十四條、第二十五條、第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十六條ハ混成酒ノ製造ニ適用ス

附則

第八條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

第九條 沖繩縣東京府下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス

尋テ八月勅令第二百八十八號ヲ以テ混成酒稅法施行規則ヲ制定セリ其全文左ノ如シ

勅令第二百八十八號（明治二十九年八月十七日）

混成酒稅法施行規則

第一條 混成酒ヲ製造スル者ハ毎年十二月三十一日迄ニ其ノ翌年中ニ製造スヘキ混成酒ノ酒類石數及製造方法ヲ地方長官ニ申告スヘシ

前項申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度申告スヘシ

第二條 地方長官ハ混成酒製造高ノ多少ニ從ヒ毎月一回以上時日ヲ定メ豫メ其ノ期間ノ混成酒製造高ヲ申告セシムヘシ

第三條 混成酒ノ製造用ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ他ヨリ其ノ製造場ニ移入スルモノハ移入ノ時其ノ製造場ニ在ルモノハ原料品ト定メタルトキ地方長官ニ申告スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ收稅官吏ハ其酒精又ハ飲料酒類ヲ檢査シ必要ト認ムヘキ場合ニハ封鎖ヲ附スルコトヲ得

第四條 混成酒ノ原料ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ前條ノ檢査ヲ受ケ且收稅官吏ノ承認ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 混成酒ヲ製造スル者酒造稅法ノ酒類其ノ他ノ飲料酒類ヲ製造場ニ移入シタルトキハ混成酒製造用ニアラサルモ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第六條 酒造稅法施行規則第一條第二條第三條第四條第六條第七條第八條第十九條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第二項第四十三條ノ規程ハ混成酒ヲ製造スル者ニモ適用ス

附則

第七條 明治二十九年十月一日以降同年十二月三十一日迄ノ間ニ混成酒ヲ製造セムトスル者ハ第一條ノ規程ニ準シ同年九月三十日迄ハ地方長官ニ申告スヘシ

然ルニ該法發布以後之ヲ其實績ニ徵スルニ同法第一條ノ定義ハ少シク狹キニ失シ事實混成酒ト同一ノ酒類ヲ製造スルモ混成酒ノ課稅ヲ受ケサル者ヲ生シタルヲ以テ明治三十一年十二月二十七日酒造稅法ノ改定ト共ニ之ニ改正ヲ施シ且ツ稅率ヲ高メテ酒造稅トノ權衡ヲ保タシメルコトヲ圖レリ之ニ關スル法律ノ全文ハ左ノ如シ

法律第二十五號（明治三十一年十二月二十七日）

明治二十九年法律第三十號混成酒稅法中左ノ通改正ス

第一條　此ノ法律ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一　酒精ト酒類ニ非ラサル物品トヲ混和シテ酒類トナシタルモノ

二　酒精ト酒類トヲ混和シ又ハ酒精ト酒類及其ノ他ノ物品トヲ混和シテ酒類トナシタルモノ

三　一種ノ酒類若ハ酒精ニ非ラサル物品トヲ混和シテ別種ノ酒類トナシタルモノ

四　二種以上ノ酒類ヲ混和シ又ハ二種以上ノ酒類ト酒精若ハ酒類ニ非ラサル物品トヲ混和シテ酒類トナシタルモノ

第二條　混成酒ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ一石金十三圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

但シ攝氏驗溫器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量二十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ增ス毎ニ本條ノ金額ニ一圓ヲ加フ

混成酒元用トシテ酒造稅法ニ掲クル酒類ヲ製造スル者ニハ該稅法ヲ適用ス

第三條　酒造稅法ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ得タル者政府ノ承認ヲ得テ製造場內ニ於テ其ノ製造ニ係ル酒類ニ原容量百分ノ一以內ノ燒酎ヲ混和スルトキハ其增加石數ノミ課稅ス

第七條中「第二十二條」ノ下「第一項」ノ三字ヲ削ル

第九條中「東京府管下小笠原島伊豆七島」ヲ削ル

附則

此ノ法律ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行ス

而シテ混成酒稅法ハ明治三十四年三月法律第八號酒精及酒精含有飲料稅法ノ實施ニ由リ明治三十四年十一月一日ヨリ廢止ニ歸セリ

混成酒稅收入額

年度	金額
明治三十年度	七三、七〇七、八七五円
同　三十一年度	二三七、三三六、九三七
同　三十二年度	六八、四三五、六二二
同　三十三年度	六九、七一一、一九四
同　三十四年度	四七、〇七六、〇二二

（備考）

明治二十九年法律第三十號混成酒稅法實施以前ニ於ケル蒸溜酒及再製酒ノ稅額ハ酒造稅ノ部ニ提出ス

第四款　酒精及酒精含有飲料稅

酒精及酒精含有飲料稅ハ明治三十四年三月法律第八號酒精及酒精含有飲料稅法ノ施行ニ始マル

是ヨリ曩キ酒精ニ關シテハ明治二十九年法律第二十一號酒造稅法中ニ於テ燒酎ト同シク一石ニ

付金十三圓ノ造石稅ヲ課シ更ニ原容量百分中酒精ノ容量五十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ增ス毎ニ金一圓ヲ加フルノ制ヲ採リ混成酒類ニ關シテハ明治二十九年法律第三十號混成酒稅法ニ依リ混成酒製造者ニ對シ一石金拾三圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課シ更ニ原容量百分中酒精容量二十ヲ超過スルモノハ百分ノ一ヲ增ス毎ニ金一圓ヲ加フルコトトセリ然ルニ明治三十四年ニ至リ歲入補塡ノ財源ヲ酒造稅ニ求ムルコトトナリ明治二十九年制定酒造稅法ヲ改正シ其稅率一石ニ付凡三圓ヲ增加スルコト、セルヲ以テ勢ヒ酒精及酒精ヲ含有スル飲料ノ稅率ヲ增加シ且ツ其取締ヲ嚴密ナラシムルノ必要ヲ生セリト雖モ酒精及酒精含有諸飲料ノ取締ハ從來最モ困難トスル所ニシテ奸者巧ニ脫稅ヲ爲シテ財源ヲ害スルモノ尠少ナラス是ニ於テ政府ハ酒造稅法ノ改正ニ伴ヒ酒造稅法中ヨリ酒精造石稅ニ關スル規定ヲ除キ又從來ノ混成酒稅法ヲ廢シ此二者ヲ合シテ一法律中ニ收メ酒精及酒精含有飲料稅法ヲ制定セリ同法ハ明治三十四年三月法律第八號ヲ以テ公布セル所ニシテ其規定ニ依レハ酒精及酒精含有飲料(清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、及葡萄實ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ヲ除ク)ヲ製造スル者ニ對シ純酒精ノ容量ヲ標準トシテ一石拾六圓以上ノ造石稅ヲ課シ其製造場設置ニ關シテハ政府ノ許可ヲ要スルモノトシ其取締ニ就テ幾多ノ嚴密ナル規定ヲ設ケタリ其法律卽左ノ如シ

法律第八號 (明治三十四年三月三十日)

酒精及酒精含有飲料稅法

第一條 酒精及酒精ヲ含有スル飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス

第二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量

一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス

第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス

第四條 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及葡萄實ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス

第五條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルモノハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條 造石稅ハ每月中ノ查定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ卽納トス

第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ逋脫セントスルノ所爲アリト認ムルトキハ政府ハ直ニ造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス此場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差押フルコトヲ得

第八條 同一製造場內ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ規定ニ依ラントスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ酒ヲ含有スル飲料ニ付製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 製造石數ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製成シタル時實測シテ之ヲ查定ス但前條ニ依リ檢

定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ此限リニ在ラス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料若クハ證憑物件ニ就キ製造石數ヲ査定シ造石稅ヲ課ス

第十條　第八條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ左ノ場合ニ於ケル其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石稅ヲ課ス

一　他人ニ讓渡サレタルトキ

一　公賣セラレタルトキ

三　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造用外ニ消費セラレタルトキ

第十一條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ災害ニ罹リ亡失シタルトキハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此限ニ在ラス

第十二條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其製造石數査定前ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十三條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ其ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條　免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十六條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其製造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レントシタルトキハ其造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條　第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料若ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐ハリ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十二條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但

シ刑法第七十五號第一項ノ場合ハ此限リニ在ラス

第二十三條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十四條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ製造ヲ廢止シタル者及ヒ其ノ相續人ハ造石稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

附　則

第二十五條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒精ニハ舊稅率ヲ適用ス

第二十六條　混成酒稅法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル混成酒ニハ仍該法ヲ適用ス

第二十七條　本法若ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ臺灣ニ施行スルマテハ臺灣ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其石數ニ應シ第二條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

右酒精及酒精含有稅法ノ制定ニ伴ヒ其施行細則ヲ變スルヲ以テ同年八月勅令第百六十五號ヲ以テ左ノ如ク之ヲ公布セリ

勅令第百六十五號（明治三十四年八月二十三日）

酒精及酒精含有飲料稅法施行規則

第一條　酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其住所氏名又ハ名稱ヲ記シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條　酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタルモノハ其ノ製造場每ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲナシタルトキハ所轄稅務署ハ其容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號、容量其他ノ必要ナル事項ヲ標記シ又ハ燈記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ
製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條　酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條　酒精又ハ酒精飲料製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ
酒精又ハ酒精含有飲料製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條　酒精又ハ酒精含有飲料稅法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飲料ハ製造場ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飲料ト區別シテ藏置スヘシ

第九條　酒精又ハ酒精含有飲料ノ原料廢棄亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製造業者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　酒精及酒精含有飲料稅法第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニアリテハ引取ノ日及其引取先
二　使用シタル原料ノ種類數量及其使用ノ日
三　製造シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類數量及其製成ノ日

四　他ニ引渡シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先
小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條　酒精又ハ酒精含有飲料販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一　引取リタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引取ノ日及引取先
二　販賣シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及賣渡先
小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條　收稅官吏ハ隨時酒精又ハ酒精含有飲料製造場又ハ販賣場ニ就キ酒精又ハ酒精含有飲料其原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ檢査スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ
一　醱酵液若ハ原料用酒精含有飲料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ
二　濾過、蒸溜又ハ調合ニ著手セムトスルトキ
三　原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
四　酒精又ハ酒精含有飲料ノ殘滓等ヲ製造場ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セムトスルトキ
五　自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

六 製造場外ヨリ製造場內ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ移入セムトスルトキ

第十六條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者製造場所在地ニ現住セサルトキハ酒精及酒精含有飲料稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 收稅官吏ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ漏洩スルコトヲ得ス

附則

第十八條 本令施行前酒造稅法又ハ混成酒稅法ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令第一條第一項及第三條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第十九條 本令施行前ヨリ引續キ酒精含有飲料ヲ製造スル者ニハ本令施行ノ際ニ限リ第四條第二項ヲ適用ス

尙ホ右稅法施行上ニ付內訓スル必要アリ明治三十四年九月第七百四十一號ヲ以テ左ノ訓令ヲ發セリ

酒精及酒精含有飲料稅法施行上取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條 酒精ヲ含有スル飲料ニシテ從來ノ慣例ニ依リ淸酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒ト稱スルモノ及葡萄實ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ヲ除クノ外ハ總テ酒精含有飲料トシテ本法ニ依リ取扱フヘキモノトス

第二條 酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ申請ヲ受クルトキハ其ノ製造スヘキモノノ種類名ヲ揭ケ免許ヲ爲スモノトス隨テ製造者ニ於テ製造スヘキモノノ種類ヲ變更セムトスルトキハ更

ニ其ノ製造免許ヲ申請セシムヘキモノトス

第三條 製造者ニ於テ製造場ヲ移轉セムトシ之レカ申告ヲ爲シタルトキハ移轉製ノ前造場所轄稅務署ハ之ヲ移轉先ノ製造場所轄稅務署ニ通報スルコトヲ要ス

第四條 酒精及酒精含有飲料稅法施行規則第三條ニ依リ製造者ヨリ提出スル目錄ニ記載スヘキ器具、器械ハ製造上主要ノモノニ限ルモノニシテ製造力ニ關係ヲ有セサルカ如キモノハ之ヲ記載セシムルニ及ハス

第五條 製造者ヨリ容器、器具、器械ノ目錄ヲ提出シ又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタル旨ノ申告アリタルトキハ成ルヘク速ニ檢定ヲ爲シ製造上ニ支障ヲ與ヘサルコトニ注意スヘシ

第六條 容器ノ容量、酒精又ハ酒精含有飲料ノ石數等ヲ測算スルハ酒造稅法ニ依ル酒類製造用容器容量測算方法ニ依ルモノトス但シ同方法ニ依リ難キ場合ニ於テハ實地ニ應シ適實ノ方法ニ依ルモノトス

第七條 製造石數ノ査定又ハ檢定ニ付テハ適當ナル時期ヲ考察シテ收稅官吏ヲ派遣シ其ノ機ヲ誤ラサルコトニ注意スヘシ

第八條 製造場、容器、器具、器械ノ異動ニ付テハ製造者之ヲ申告スヘキモノナルモ尙實際ニ於テ其ノ申告ナキモノナキヤ否ニ注意シ收稅官吏ヲシテ定時又ハ隨時ニ之レカ調査ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第九條 製造場內ニ現在スル酒精又ハ酒精含有飲料及其ノ原料ハ常ニ帳簿ノ現在高ト符合セ

サルコトナキヤ否ニ注意シ收稅官吏ヲシテ定時又ハ隨意ニ帳簿ト現在品トノ照合ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十條 製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施シ若ハ製造者ヲシテ或ル行爲ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受ケシムルハ全ク製造上ノ監督ヲ完クスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ成ルヘク製造者ノ業務ヲ妨ケサル範圍ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スコトニ注意スヘシ

第十一條 酒精及酒精含有飲料稅法施行規則第十五條第二號ニ依リ濾過、蒸溜又ハ調合著手ノ承認ヲ受ケシムルハ收稅官吏ヲシテ原料ノ數量ヲ知リ之ニ依テ査定ニ際シ其ノ石數ノ當否ヲ判斷スル資料ト爲サシメムトスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ承認ヲ與フルニ先ツテ收稅官吏ヲシテ其ノ原料ノ數量ヲ算定セシムルコトヲ要ス

第十二條 大製造場ニシテ多量ノ酒精含有飲料ヲ製造スル者ニ在テハ常ニ一人以上ノ收稅官吏ヲ製造場內ニ駐在セシメテ査定檢定又ハ承認等ノ事ニ當ラシメ製造者ニ不便ヲ與ヘサルコトヲ期スルヲ要ス

第十三條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ販賣スル者ニ對シ檢査ヲ爲スハ法令上差支ナシト雖元來直接製造ニ關係ナキ販賣者ニ對シ檢査ヲ爲スコトヲ許シタルハ全ク製造者ニ對スル監督ヲ完クスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ販賣者ニ對シ檢査ヲ爲スハ之ヲ爲スニアラサレハ製造者ノ監督ヲ完クスルコト能ハサルカ如キ必要アル場合ニ限ルコトヲ要ス

第十四條 檢査ヲ執行シ又ハ監督上ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

酒類酒精及酒料含有諸飲料課稅ニ關スル法律ノ改正ニ伴ヒ國內ニ於テ製造シタル此等ノ清酒類ヲ外國ニ輸出スル者ニ對スル稅金下戻ノ規定ヲ改ムルノ必要アルヲ以テ明治三十四年三月法律第十號ヲ以テ之ニ關スル制度ヲ改定シ同年八月勅令第百六十六號ヲ以テ其施行規則ヲ定メタリ

但シ事酒類全般ニ關スルヲ以テ其全文ハ酒造稅ノ部ニ揭ケタリ

又酒精課稅ニ關スル法律ノ改正ニ伴ヒ獨リ外國輸出ノ酒類ニ關スル戻稅ノミナラス內地ニ於テ醫藥用工業用ニ酒精ヲ使用シタルトキハ之カ保護奬勵ノ爲メニ稅金下戻ニ關スル法律ノ改正ヲ要シ明治三十四年三月法律第十一號ヲ以テ之カ戻稅法ヲ改正シ明治三十一年法律第二十七號ヲ廢止セリ今其全文ヲ揭クレハ左ノ如シ

法律第十一號（明治三十四年三月三十日）

醫藥用、工業用酒精戻稅法

第一條 造石稅若ハ輸入稅納付濟ノ酒精ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者ハ政府ノ承認ヲ得テ毎回一石以上ノ酒精ヲ使用スルトキニ限リ其ノ納付シタル造石稅若ハ輸入稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

使用後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 酒類又ハ其ノ他ノ飲料製造用ニ供スル酒精ハ前條ヲ適用セス

第三條 第一條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ造石稅又ハ輸入ノ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

附則

第四條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後造石稅又ハ輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ニ之ヲ適用ス

第五條　明治三十一年法律第二十七號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ造石稅又ハ輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ノ稅金下戻ニ關シテハ仍該法ヲ適用ス

前揭法律第十一號ノ制定ニ伴ヒ其施行ノ細則ヲ定ムルノ必要アルヲ以テ同年八月勅令第百六十七號ヲ以テ醫藥用工業用酒精戻稅法施行規則ヲ左ノ如ク公布セリ

勅令第百六十七號（明治三十四年八月二十三日）

醫藥用工業用酒精戻稅法施行規則

第一條　醫藥用工業用酒精戻稅法ニ依リ金額下附ノ請求ヲ爲サムトスル者酒精使用ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ使用スヘキ數量使用ノ目的ノ場所及日時ヲ定メ所轄稅務署ニ申請スヘシ

第二條　前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ハ酒精ノ使用前其ノ數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定シ使用ノ承認ヲ與フヘシ但シ申請ノ場所及時日ニ於テ其目的ニ從ヒ使用セスト認ムルトキハ其承認ヲ取消スコトヲ得

第三條　酒精ヲ醫藥用又ハ工業用ニ使用スルニ際シ作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ稅務署ニ申出テ其ノ數量及含有純酒精ノ容量ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分離シタル酒精ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ使用數量トス

第四條　醫藥用工業用酒精戻稅法ニ依リ金額ノ下附ヲ請求スル申請書ハ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第五條　醫藥用工業用酒精戻稅法ニ依リ金額下附ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　酒精ノ數量他ヨリ引取リタルモノニ在テハ引取ノ日及其ノ引取先

二　使用シタル酒精ノ數量使用ノ目的及使用ノ日

三　製品アルトキハ其ノ種類ニ數量及其ノ製造日

四　作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒精ノ容量

第六條　當該官吏ハ酒精ヲ醫藥用又ハ工業用ニ使用スル者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

而シテ明治三十四年十月本稅實施以後ノ收入額ハ左表ニ示ス所ノ如シ

酒精及酒精含有飲料稅收入額

年度	金額
明治三十四年度	六、九〇〇、九三五円
明治三十五年度	一二五、四七八、八五六

第五款　麥酒稅

麥酒ニ對シテ課稅スルノ制度ハ明治三十四度法律第十二號麥酒稅法ノ制定ニ始マル明治三十四年度歲計豫算編製ニ際シ歲入增加ノ必要上其財源ヲ租稅ニ求ムルコトトシ明治三十八年法律第

七號ヲ以テ酒造稅法ヲ改正シ其稅率ヲ增加シタルヲ以テ之カ權衡ヲ保ツタメ「從來無稅ナリシ麥酒ニ對シテ相當ノ課稅ヲ爲スノ必要アリ加之本邦ニ於ケル麥酒ノ製造ハ近時長足ノ進步ヲ爲シ其釀造額一箇年凡拾貳萬石ノ多キニ及ヘルヲ以テ之ニ課稅シテ以テ財源ニ充ツルニ足ルニ至レルヲ以テ政府ハ明治三十三年第十五期帝國議會ニ麥酒稅法案ヲ提出シ其協贊ヲ經テ明治三十四年三月法律第十二號ヲ以テ該稅法ヲ公布セリ右稅法ニ依レハ麥酒一石ニ付七圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課シ每月中査定石數ニ依リ課稅シ翌月中ニ一時ニ納付セシムルコトヽシ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行セリ其稅法左ノ如シ

法律第十二號（明治三十四年三月三十日）

麥酒稅法

第一條　麥酒（ビール）ニハ本法ニヨリ麥酒稅ヲ課ス

第二條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條　麥酒稅ハ麥酒一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス

第四條　麥酒稅ハ每月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ卽納トス

第五條　麥酒ヲ製造スル者麥酒稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトスルノ所爲アリト認ムルトキハ政府ハ直ニ麥酒稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得

第六條　麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數ヲ査定シ麥酒稅ヲ課ス

第七條　災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其麥酒稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此限リニ在ラス

第八條　麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、消費シ、又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十條　收入官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル麥酒其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及麥酒製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　免許ヲ受ケスシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十二條　麥酒ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其製造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條　麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒稅ノ免除ヲ得又ハ得ム

トシタルトキハ其申請ニ係ル總石數ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條　麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ依ル

第十八條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　麥酒ヲ製造スル者ノ代理人戶主家族同居者一雇人其ノ他ノ從業者シテ其業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十條　麥酒製造ヲ廢止シタル者及其ノ相續人ハ麥酒稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

附則

第廿一條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第廿二條　本法施行前ヨリ麥酒ノ製造ヲ爲ス者本法施行後十日以內ニ於テ製造一箇所每ニ政府ニ申告スルトキハ本法施行日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

次テ明治三十四年八月二十三日勅令第百六十八號ヲ其施行規則ヲ發布セリ左ノ如シ

麥酒稅法施行規則

第一條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條　麥酒ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其製造場每ニ地所建物ノ詳細ナル圖面製造用容器器具器械ノ目錄及麥酒製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ハ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　麥酒製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器器具器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ他ノ必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定法ニ非ラサレハ製造者ハ麥酒製造用容器器具器械使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　麥酒製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ休止後製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦

同シ

第六條 麥酒製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

麥酒製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 麥酒製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條 製造石數査定ハ濾過シタル時ニ於テス

第九條 麥酒釀造中醱酵液、廢棄、亡失其ノ他醱酵液ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 麥酒稅法第七條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 麥酒製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類數量他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二 使用シタル原料ノ種類數量、及其使用ノ日

三 製造シタル麥酒ノ數量及其製成ノ日

四 他ニ引渡シタル麥酒ノ數量、價額、引渡ノ日及引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四條引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條 麥酒販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル麥酒ノ數量、價額、引取ノ日及引取先

二 販賣シタル麥酒ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條 收稅官吏ハ隨時麥酒製造場又ハ販賣場ニ就キ麥酒、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 麥酒製造者ハ左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一 麥芽汁ヲ醱酵桶ニ入レムトスルトキ

二 醱酵液ヲ他容器ニ移替ヘムトスルトキ

三 麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ

四 麥酒ノ殘滓等ヲ用ヰ更ニ麥酒ヲ製造セムトスルトキ

五 麥酒ノ殘滓ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他ノ殘滓ト混合セムトスルトキ

六 自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

七 製造場外ヨリ製造場內ニ麥酒ヲ移入セムトスルトキ

第十六條 麥酒製造場所在地ニ現住セサルトキハ麥酒稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 收稅官吏ハ麥酒製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附則

第十八條　本令第四條第二項ハ本令施行ノ際ニ限リ麥酒稅法第二十二條ニ依リ麥酒ノ製造ヲ申告シタル者ニ之ヲ適用セス

前揭ノ如ク麥酒稅法ヲ發行シタルカ故ニ之カ施行上ニ於テ其取扱心得方ヲ內訓スルノ必要アリシカ故ニ明治三十四年九月內訓第七四三號ヲ以テ左ノ訓令ヲ發セリ

麥酒稅法施行上取扱方左之通心得ヘシ

第一條　麥酒製造者ニ於テ製造場ヲ移轉セムトシ之レカ申告ヲ爲シタルトキハ移轉前ノ製造場所轄稅務署ハ之ヲ移轉先ノ製造場所轄稅務署ニ通報スルコトヲ要ス

第二條　麥酒稅法施行規則第三條ニ依リ製造者ヨリ提出スル目錄ニ記載スヘキ器具器械ハ製造上主要ノモノニ限ルモノニシテ製造力ニ關係ヲ有セサルカ如キモノハ之ヲ記載スルニ及ハス

第三條　製造者ヨリ容器器具器械ノ目錄ヲ提出シ又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタル旨ノ申告アリタルトキハ成ルヘク速カニ檢定ヲ爲シ製造上ニ支障ヲ與ヘサルコトニ注意スヘシ

第四條　酸酵桶ノ容量又ハ酸酵桶中ニ在ル酸酵液ノ石數ヲ測算スルハ其ノ形體ニ應シ適實ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

第五條　罎詰又ハ樽詰麥酒ノ製造石數ヲ查定スルトキハ便宜同一形體ノ罎又ハ樽一個ニ付其ノ容量ヲ測リ之ヲ總數ニ乘シテ麥酒ノ製造石數ト爲スヘキモノトス

第六條　製造石數ノ查定ハ濾過シタル時ニ於テスヘキモノナリト雖濾過ノ後殺菌ノ爲メ火入スルモノニ在テハ火入後ニ於テ查定ヲ爲スモ妨ナシ

第七條　製造石數ノ查定ニ付テハ適當ナル時機ヲ考察シテ收稅官吏ヲ派遣シ其ノ機ヲ誤ラサルコトニ注意スヘシ

第八條　製造場、容器器具、器械ノ異動ニ付テハ製造者之ヲ申告スヘキモノナルモ尙實際ニ於テ其ノ申告ナキモノナキヤ否ニ注意シ收稅官吏ヲシテ定時又ハ隨時ニ之レカ調查ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第九條　製造場內ニ現在スル麥酒及其ノ原料品ハ常ニ帳簿ノ現在高ト符合セサルコトナキヤ否ニ注意シ收稅官吏ヲシテ定時又ハ隨時ニ帳簿ト現在品トノ照合ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十條　製造用容器、器具、器械ニ封印ヲ施シ若ハ製造者ヲシテ或ル行爲ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受ケシムルハ全ク製造上ノ監督ヲ完クスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ成ルヘク製造者ノ業務ヲ妨ケサル範圍ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スコトニ注意スヘシ

第十一條　麥酒稅法施行規則第十五條第三號ニ依リ麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ承認ヲ受ケシムルハ收稅官吏ヲシテ濾過前ニ於ケル麥酒ノ數量ヲ知リ之ニ依テ查定ニ際シ其ノ石數ノ當否ヲ判斷スル資料ト爲サシメムトスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ承認ヲ與フルニ先ツテ收稅官吏ヲシテ其ノ麥酒ノ數量ヲ算定セシムルコトヲ要ス

第十二條　大製造場ニシテ多量ノ麥酒ヲ製造スルモノニ在テハ常ニ一人以上ノ收稅官吏ヲ製造場內ニ駐在セシメテ查定、檢定又ハ承認等ノ事ニ當ラシメ製造者ニ不便ヲ與ヘサルコトヲ期スルヲ要ス

第十三條　麥酒ヲ販賣スル者ニ對シ檢査ヲ爲スハ法令上差支ナシト雖元來直接製造ニ關係ナキ販賣者ニ對シ檢査ヲ爲スコトヲ許シタルハ全ク製造者ニ對スル監督ヲ完クスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ販賣者ニ對シ檢査ヲ爲スハ之ヲ爲スニアサラレハ製造者ノ監督ヲ完クスルコト能ハサルカ如キ必要アル場合ニ限ルコトニ注意スルコトヲ要ス

第十四條　檢査ヲ執行シ又ハ監督上ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

右內訓ス

而シテ麥酒稅ニ關シテハ爾後變更ヲ見ス

麥酒稅收入額

年度	金額
明治三十四年度	九四・〇四〇円 三一〇
同　三十五年度	六三七・一二二 四六三

第六款　酒精營業稅

酒精ニ關シテハ維新以來未タ特別ニ課稅セシコト無ク明治十二年ニ至リ大藏省乙第十二號ヲ以テ酒精ニ藥品ヲ混和シタルモノ、課稅取扱方ヲ定メ酒精及再溜酒精ハ藥劑ト看做シ酒類稅ヲ課セサルコト、セリ然ルニ酒精ハ元ト燒酎ノ强度ナルモノナルヲ以テ酒造營業人ニ於テ名ヲ藥用ノ酒精ニ藉リ飲料ノ燒酎ヲ製スルモノアリ燒酎稅逋脫ノ弊害ヲ來スノ虞アルヲ以テ同年達乙第三十三號ヲ以テ酒類釀造人及同受賣人ハ酒精再溜酒精ヲ製造スルモ總テ酒類稅則ニ據リ燒酎稅ヲ納メシムヘキモノトセリ然ルニ明治十三年布告第四十號酒造稅則ノ改定ニ因リ右ノ規定消滅ニ歸シタルヲ以テ三十度以上ノモノハ酒造者ト雖モ無稅ニシテ蒸溜スルコトヲ得ルニ至レリ既ニ之ヲ酒類トセサルヲ以テ淸酒補助ノモノモ器具灌注ノ料モ舉テ藥劑タル無稅酒精ヲ用フルニ至リ稅則改正ノ精神ト背馳スルニ至レリ是ヲ以テ酒造營業ヲ爲スモノニシテ酒精等ヲ製スルモノヘハ相當ノ課稅ヲ爲ス必要アルヲ以テ明治十五年三月布告第十七號ヲ以テ酒造稅則第二條ヲ改正シ第二類蒸溜酒中ニ酒精及再溜酒精ヲ加ヘ燒酎ト同シク一石ニ付金三圓ノ割合ヲ以テ課稅スルコト、セリ而モ徵稅方法並ニ取締方ニ關シテハ何等特別ノ規定アラサリシナリ爾來酒造稅率愈々增加シ檢査ノ法益々嚴密ヲ加ヘ酒類ノ價格騰貴シタルニヨリ酒精ヲ淸酒ニ混和シ之ニ多量ノ割水ヲ爲シ廉價ヲ以テ販賣シ或ハ酒類製造ノ免許ヲ受ケスシテ酒精ニ藥品砂糖水等ヲ混和シテ各種ノ銘酒ヲ製造シ之ヲ店頭ニ於テ販賣シ造石稅ノ負擔ヲ免ルヽコトヲ圖ルノ弊漸ク流布シ外國輸入ノ酒精年ヲ逐フテ增加スルノ傾向ヲ來タシ爲メニ淸酒ノ增石高ニ影響ヲ及ホスコト尠カラス到底別途ニ之カ取締ヲ爲スニアラサレハ財源萎縮ノ憂ナキヲ保セサルヲ以テ明治二十六年四月二十日法律第十七號ヲ以テ特ニ酒精營業稅法ヲ設ケ從來酒造稅則ニ依ル造石稅ノ外ニ更ニ酒精ノ營業ニ課稅スルノ制ヲ設ケ酒精營業ヲ爲サントスル者ハ一定ノ課稅金ヲ供託シテ營業免許ヲ受ケシメ營業者又ハ營業者ヲ經由セスシテ買取消費スル者ハ一石ニ付金二十五圓ノ割合ヲ以テ課稅シ醫藥又ハ工業用ニ供スルモノハ營業稅ヲ免除スル旨ヲ定メタリ

法律第十七號（明治二十六年四月二十日）

酒精營業稅法

第一條　酒精（アルコール）又ハ他物ト混和シタル酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ左ノ二種トス

甲種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ買入レ之ヲ自用者ニ非サル者ニ販賣スル者

乙種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ甲種營業人ヲ經由セスシテ買入レ之ヲ自用者ニ販賣スル者

第二條　本法ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ先ツ管廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　營業ノ免許ヲ受クル者ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ保證金トシテ十圓以上千圓以下ヲ現金又ハ國債證券ヲ以テ供託スヘシ

第四條　本法ノ稅金ヲ滯納シタルトキハ保證金ノ一部又ハ全部ヲ以テ稅金ニ充ツ仍不足スルトキハ明治二十二年法律第三十二號國稅滯納處分法ニ據テ處分スヘシ

第五條　免許ヲ受ケタル者ハ左ノ算程ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ

甲種營業人

酒精（アルコール）一石ニ付金二十五圓ノ割合

乙種營業人

酒精（アルコール）一石ニ付金二十五圓ノ割合

營業人ヲ經由セスシテ第一條ノ物品ヲ買取リ消費スル者ハ本條ニ準シテ納稅スヘシ

第六條　營業稅ハ翌年一月三十一日限之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其際營業稅ヲ納ムヘシ

前項ノ期限內ト雖モ營業高第三條ノ保證金高ニ超過スルトキハ先ツ其稅金ヲ納メテ後之ヲ販賣スヘシ

第七條　第一條ノ物品ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者（造酒家ヲ除ク）ハ勅令ヲ以テ定ムル所ノ規定ニ從ヒ其營業稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第八條　營業者ハ帳簿ヲ調査シ第一條物品ノ出入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ主任官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第九條　主任官吏ハ正當ノ命令ニ依リ營業者ノ營業ニ關スル帳簿物品等ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十條　無免許ニテ營業シタル者ハ其現在酒精類及營業用ノ物品器械ヲ沒收シ營業稅三倍ノ罰金ニ處ス但已ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第十一條　帳簿ノ記載ヲ僞リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　帳簿ノ調製記載ヲ怠リタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限リニアラス

第十四條　本法ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

右酒精營業稅法第七條ニ於テ醫藥用工業用ニ使用スル酒精ハ飲用ニ供用スルモノト異ナリ却テ

之ヲ保護セサル可カラサル理由アルヲ以テ之ニ對シテハ特ニ其營業稅ヲ免除スルコトアルヘク併セテ其免除請求ノ手續ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムヘキ旨ヲ定メタリシカ同年五月三十日勅令第五十八號ヲ以テ之カ手續及罰則等ヲ定メタリ其全文左ノ如シ

勅令第五十八號（明治二十六年五月三十日）

第一條　酒精營業稅第七條ノ醫藥用トハ日本藥局方ニ據リ製藥用ニ供スルモノ又ハ醫術用ニ供スルモノヲ云ヒ工業用トハ工藝製作ニ供スルモノヲ云フ

第二條　醫藥用ノ爲メ酒精ヲ販賣又ハ使用スル者ニシテ營業稅ノ免除ヲ請ハント欲スルモノハ豫メ管廳ニ申出テ認許ヲ受クヘシ

第三條　前條ノ認許ヲ受ケタル者ハ醫藥用外ニ酒精ヲ販賣又ハ讓與スルコトヲ得ス

第四條　前二條ノ認許ヲ受ケタル者ハ醫師ノ證明書ヲ所持スル自用者醫師藥劑師藥種商及製藥者ノ外ニ酒精ヲ販賣又ハ讓與スルコトヲ得ス

第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受又ハ讓受ケタル醫師若クハ藥劑師藥種商及製藥者ニ於テ其酒精ヲ自用者ニ賣渡又ハ讓渡シ得ルハ其自ラ診療スル患者若クハ醫師ノ證明書ヲ有スル者ナル場合ニ限ル

第五條　第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受又ハ讓受ケタル醫師藥劑師藥種商及製藥者ハ其酒精ヲ醫藥用外ニ使用スルコトヲ得ス

第六條　第二條ノ認許ヲ受ケタル者醫藥用ノ爲メ酒精ヲ販賣スルトキハ其都度量數代價及買受人住所職業氏名（醫師ノ證明書ヲ所持スル自用者ニ販賣シタル場合ハ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ毎一ケ月分ノ月計ヲ附記シ左ノ書類ト共ニ翌月五日限リ管廳ニ差出シ帳簿ニ免稅ノ檢印ヲ受クヘシ其使用又ハ讓與ニ係ルモノモ亦之ニ準スヘシ

一　醫師ノ證明書又ハ買受人若クハ讓受人ニ於テ量數年月日住所職業及氏名ヲ記載シ捺印シタル注文書物品領收書等

第七條　第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師藥劑師藥種商及製藥者ハ其都度量數代價及賣渡人若クハ讓渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ

前項ノ酒精ヲ販賣スルトキハ其都度量數代價及買受人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ醫師ノ證明書（醫師ノ場合ニ於テハ處方書）ヲ添ヘ置クヘシ其使用又ハ讓與ニ係ルモノモ亦之ニ準スヘシ

前各項ノ帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第八條　工業用酒精ニ營業稅ノ免除ヲ請ハント欲スル者ハ販賣若クハ使用以前ニ管廳ニ其量數ヲ屆出ツヘシ此場合ニ於テハ當該官吏ハ百分ノ八乃至十ノ割合ヲ以テ願人ノ望ニ從ヒ木精（メチールアルコール）若クハ石油ヲ混和スヘシ但其物品ノ費用ハ願人之ヲ負擔スヘシ

第九條　第三條第四條第五條ヲ犯シタル者及第六條第七條ノ帳簿ヲ詐リタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

更ニ同年六月二日ニ至リ大藏省令第十號ヲ以テ酒精營業稅法施行細則ヲ定メ以テ稅法ノ取扱方ヲ明ニセリ其全文左ノ如シ

第一條　酒精營業ノ免許ヲ受ケントスルモノハ一ケ年販賣見込石量ヲ記載シタル願書ヲ管廳

ニ差出シ營業場一ケ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

營業場ハ倉庫建物ノ棟數ニ拘ハラス總テ一區域ヲ以テ一ケ所トス其區域外ニシテ營業物品ヲ藏置スルニ止マル場所ハ許可ヲ受ケ營業場ノ附屬トナスコトヲ得

第二條　前條ノ願書ニハ稅法第三條ノ制限內ニ於テ一ケ年販賣見込高ノ稅金ト同額ナル現金又ハ國債證券ノ供託受領證ヲ添フヘシ

但明治二十六年勅令第五十八號第二條ノ認許ヲ受ケントスル者ハ之ヲ要セス

營業免許後販賣見込石量ヲ增加セントスルトキハ其都度申出テ稅法第三條ノ最高額ヲ限度シ保證金ヲ追補スルコトヲ得

營業免許後販賣見込石量ヲ減少セントスルトキハ其都度申出テ、稅法第三條ノ最低價ヲ限度シ保證金ヲ減少スルコトヲ得

第三條　免許鑑札ヲ受クル者ハ鑑札料金二十錢ヲ納ムヘシ第十條ノ場合ニ於テモ亦同シ鑑札料ハ明治二十五年大藏省令第三號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第四條　稅法第三條保證ニ充ツル國債證券ノ種類及價格ノ割合左ノ如シ

一　有利國債證書

一　大藏省證券

國債證書ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ大藏省證券ハ其券面ノ金額ニ依ル

第五條　營業者ハ酒精營業免許ト書シタル標札ニ免許鑑札番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第六條　免許ヲ受ケタル者ハ營業開始後七日以內ニ其營業場ニ使用スル諸器械容器類ノ目錄並ニ地所諸建物ノ圖面ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ但異動ヲ生シタルトハ其時々屆出ツヘシ

第七條　營業者ハ稅法第八條ニ基キ營業ノ種類ニ從ヒ左ノ帳簿ヲ調製シ其使用前所轄間稅分署ニ差出シ其檢定ヲ受ク可シ

一　酒精製造帳又ハ買入帳

一　酒精賣上帳

一　製造原料品買入及遣拂帳

稅法第五條第二項ニ該當スル者ハ酒精買入帳及使用帳ヲ調製スヘシ

第八條　十六條ノ帳簿及左ノ帳簿書類ハ附込濟又ハ受授ノ翌年ヨリ三年ヨリ少カラサル期間保存スヘシ

一　營業ニ關スル金錢物品判取帳

一　營業ニ關スル送狀仕切書及受取書

第九條　營業者ハ毎年其販賣酒精ノ石數又稅法第五條第二項ニ該當スル者ハ其消費高ヲ翌年一月七日限リ管廳ニ屆出ツヘシ但營業者廢業ノ時ハ其際之ヲ屆出ツヘシ

稅法第六條第二項ノ場合ニ於テハ販賣前其超過スヘキ見込石量ヲ屆出ツヘシ

營業稅額ハ前各項ノ屆出ニ依リ地方長官之ヲ査定ス

第十條　營業場ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ヘ申出テ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

他ノ管轄地ヘ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ヘ申出テ添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

鑑札ノ遺失毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出テ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第十一條 代替リノトキ又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出テ免許鑑札ニ變更ノ記入ヲ請フヘシ

第十二條 營業者及稅法第五條第二項ニ該當スル者ニシテ酒精ヲ買入ルヽトキハ着荷後三日以內ニ所轄間稅分署ニ屆出テ左ニ揭クル書類ノ一若クハ其他取引上證憑トナルヘキ書類ニ當該官吏ノ檢印ヲ受クヘシ

一 荷物送狀

一 仕切書

一 代金領收書

第十三條 稅法第五條第二項ニ該當スル者住所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ其旨ヲ所轄間稅分署ニ屆出ツヘシ

第十四條 天災其他ノ事故ニ依リ酒精ノ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ所轄間稅分署ニ屆出テ檢査ヲ受ク可シ

第十五條 營業者廢業スルトキハ管廳ニ申出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第十六條 第十二條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十三條第十四條第十五條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

越テ明治三十一年二月十九日ニ至リ大藏省令第一號ヲ以テ酒精營業稅法施行細則中ニ改正ヲ加ヘ保證金額ノ範圍ヲ廣メ書類送達ノ便法ヲ設ケ併セテ酒精買入ニ付テノ屆出方ヲ示シタリ該省令ノ全文左ノ如シ

大藏省令第一號（明治三十一年二月十九日）

明治二十六年大藏省令第十號酒精營業稅法施行細則中左ノ通改正ス

第一條 第一項中「販賣見込石量ヲ記載シタル願書」トアル下ニ「及保證金共託受領證」ノ九字ヲ挿入ス

第二條 左ノ通改ム

保證金額ハ稅務管理局長之ヲ指定ス

一旦指定シタル保證金額ニシテ相當ヲ失スルニ至リタリト認ムルトキハ其指定金額ヲ變更スヘシ

徵稅ニ因リ保證金額ニ缺減ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ補充スヘシ

第五條 左ノ通改ム

稅法執行ニ關スル書類ハ營業場ニ送達スルモノトス但シ營業者ノ不在等送達シ能ハサル事情アルトキハ其趣旨ヲ三日間官報若クハ新聞紙ニ公告シテ送達ニ代フルコトアルヘシ

第十二條 左ノ通改ム

營業者及稅法第五條第二項ニ該當スル者酒精ヲ買入レタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ具シ所轄

稅務署ニ屆出ツヘシ但買入ニ係ル酒精他ノ管轄地內ニ現在スルトキハ其酒精ノ發送前更ニ酒精現在地ノ所轄稅務署ニ屆出ツヘシ

一　賣渡人ノ住所氏名

二　買入酒精ノ數量及其現在地

第十六條中「第五條」ノ三字ヲ刪除ス

抑モ酒造稅法ヲ完全ニ施行セントセハ酒精取締ノ制度ヲ完全ナラシメサルヘカラス然ルニ明治二十五年ノ頃酒精ヲ精酒ニ混用シテ一種ノ混成酒ヲ造リ納稅ヲ免ルヽノ弊ヲ生シタルヲ以テ明治二十六年酒精營業稅法ノ制定ヲ見ルニ至レリト雖モ酒精取締ニ關シテハ更ニ外國ヨリ輸入セラルルモノニ對シ關稅ヲ增徵シテ內國產ト權衡ヲ得セシムルニ非サレハ其効ヲ完フスル能ハス是ニ於テ姑息ノ改正ヲ爲サスシテ行政上及フヘキ丈ケノ取締ヲ施シ以テ關稅定率法改正ノ期ヲ俟テリ

斯クテ改正條約ハ明治三十二年七月ヨリ實施セラルルコトトナリ外國人ト雖モ等シク國定稅法ヲ遵守スルニ至リ明治三十二年法律十八號ヲ以テ關稅定率法ヲ改正シ酒精從價稅四割ヲ增加シテ二十五割ト爲シ之ヲ同年八月十五日ヨリ實施スルニ至リタルヲ以テ從來ノ酒精營業稅法ハ茲ニ之ヲ廢止シ輸入酒精ニ對シテハ關稅ヲ以テ充分ノ取締ヲ付シ內國產ノ酒精ニ對シテハ酒造稅法ノ規定ニ依リ製造ニ對シ取締ヲ爲スヲ便トシ明治三十一年十二月法律第二十六號ヲ以テ三十二年八月十五日以後酒精營業稅ヲ廢止セリ

酒精營業稅收入額

年度	金額
明治二十六年度	二〇七五円四〇〇
同　二十七年度	七〇七九七三三
同　二十八年度	一〇〇三三八八四
同　二十九年度	九六四五九六二
同　三十年度	一五三三一二〇四
同　三十一年度	一九七一九六九七
同　三十二年度	九二四二五五〇

第七款　沖繩縣酒類出港稅

沖繩縣ニ於ケル租稅制度ハ舊琉球藩廢止ノ後モ主トシテ從來ノ舊慣ニ依レルヲ以テ酒稅ニ關シテモ亦內地一般ノ制度ト異ナルモノアリ元來該地ノ特產タル燒酎ニ關シテハ古來燒酎稅ヲ課スルノ制アリ其課稅ノ方法ハ造石高ニ拘ラス米粟燒酎釀造スル者一戶ニ付一箇月銅錢百貫文(此金二圓)黍燒酎釀造スルモノ一戶ニ付一箇月銅錢一貫八百七十五文(此金三錢八厘)ヲ徵シ新ニ營業スルモノハ翌月ヨリ收稅シ廢業スル者ハ其月ヨリ免稅スルノ制度ナリ而シテ明治十二年舊藩引繼ノ際ニ於テハ營業者百二十餘人ニシテ年稅額金二千五百八十餘圓ナリシカ爾來民心漸ク進歩スルニ從ヒ狡猾ノ奬自カラ生シ明治十七年ニ至リテハ表面上營業者僅ニ六十四人ニシテ年稅金千六百十圓ニ過キサルニ至レリ然ルニ實際ノ狀況ヲ調査スルニ同縣首里近傍金城村外三箇村ニ於

テ現實製造ニ從事セルモノ二百餘人ノ多キヲ見ル而シテ其製出ニ係ル燒酎ハ同縣下島民ニ依テ消費セラルヽモノヽ外內地ニ向テ輸出セラルヽモノ極メテ巨額ニ上レリ蓋シ內地酒造稅率ノ增加ニ伴ヒ九州地方ノ奸商等ハ酒造稅法ノ施行サレサル該地ニ走リテ或ハ島民ノ名ヲ借リテ該地ニ於テ盛ニ酒類ヲ製造シテ之ヲ內地ニ輸出シ巧ニ法網ヲ潛リテ巨利ヲ貪リ爲メニ內地ノ正業者ヲ害スルコト頗ル甚シキモノアリ是ニ於テ右ノ弊害ヲ防止スル必要アルモ遽ニ內地同樣ノ稅法ヲ該地ニ施行セントスレハ該地營業者ハ從來薄稅ニ慣ルヽヲ以テ重稅ノ負擔ニ堪ヘサル者アルノミナラス該地ハ酒類ヲ釀造スルニ玄米ヲ輸入スルト製造酒類輸出ノ爲メ多額ノ運漕費ヲ要シ原價既ニ內地製ニ超ユルヲ以テ若シ其稅率內地ト均一ナルトキハ却テ該地特產ヲ廢棄スルノ虞ナキヲ保シ難キヲ以テ暫ク事實ヲ斟酌シ特ニ酒類ノ出港ニ相當ノ稅ヲ課シ內地酒類ノ價値ト畧ホ其權衡ヲ得セシメ以テ奬害ヲ根絕セシムルノ方法ヲ採リ明治十七年九月大藏省ヨリ案ヲ具シテ太政官ニ稟申スル所アリ右酒類出港稅則案ハ直ニ公布ニ至ラサリシカ明治二十一年內地酒造稅取締ヲ嚴密ナラシメタルト同時ニ同年三月二十一日沖繩縣酒類出港稅則ヲ公布セリ同法ノ規定ニ依レハ同縣那覇港ニ船改所ヲ置キ酒類ヲ他府縣ヘ輸出スル者ニ對シ酒類一石ニ付出港稅トシテ金三圓ヲ課スルコトヽセリ蓋シ船改所ヲ那覇ニ設ケタルハ該地酒類ノ釀造ハ主トシテ首里那覇附近ノ地ニ於テシ貨物ノ出入ハ那覇ノ一港ニ由ル實況ナルヲ以テナリ沖繩縣酒類出港稅則ノ全文左ノ如シ

勅令第十二號（明治二十一年三月二十一日）

沖繩縣酒類出港稅則

第一條　沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣ヘ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類壹石ニ付金三圓ヲ賦課ス

第二條　出港稅ヲ徵收スル爲メ那覇港ニ船改所ヲ設置ス

第三條　荷主ハ酒類ヲ他府縣ヘ輸出スルトキ出港稅ヲ船改所ニ納メ船積免狀竝領收證ヲ受ケ船積スヘシ

第四條　船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ屆出ヘシ那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出港スルトキハ其地方役所ニ屆出ヘシ

第五條　沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ檢査スルコトアルヘシ

但其官吏ハ主任官タルノ證憑ヲ檢査スヘシ

第六條　出港稅ヲ納メス酒類ヲ他府縣ヘ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第七條　第四條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　主任官吏ノ檢査ヲ拒ム者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　此稅則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條　前條々ノ場合ニ於テ家屋人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乘組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條　此稅則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス

沖繩縣酒類出港稅則ノ制定ニ伴ヒ其施行細則ヲ左ノ如ク定メ輸出屆出檢査稅金算出方竝ニ出港

差止ニ關スル規定ヲ設ケタリ

大藏省令第七號（明治二十一年七月七日）

本年三月勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則施行細則左ノ通相定ム

沖繩縣酒類出港稅施行細則

第一條　酒類ヲ他府縣ヘ輸出スル者少クトモ出港二十四時間以前ニ左ノ項目ヲ記載シタル書面ニ稅金相添ヘ那覇船改所ヘ申出其酒類ノ檢査ヲ請ヒ船積免狀及稅金領收證ヲ受クヘシ

一　酒類ノ種目及石數

一　出港稅額

一　容器ノ種類及箇數

一　荷主ノ族籍住所姓名

一　船名及船長姓名

一　出港地名

第二條　船改所ハ酒類ヲ檢査スルニ當リ前條ノ書面ニ照シ石數不相當ト認ムルトキハ每容器ヲ開キ實量スルコトアルヘシ

第三條　第一條ノ場合ニ於テ稅金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ桝量ヲ合計シ合位ニ金貝ハ厘位ニ止メ切捨ツルモノトス

第四條　主任官船舶ノ檢査ヲ爲シ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ

第五條　出港差止中其酒類ヲ出港セントシタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

明治二十九年法律第二十八號ヲ以テ酒造稅法ヲ改正シ從來ノ酒稅制度ヲ變更シ其稅率ヲ高メ第一種ハ一石ニ付七圓第二種ハ六圓第三種ハ八圓ト爲セルヲ以テ其權衡ヲ得ルタメ沖繩縣酒類出港稅率ヲ高ムルノ必要アリ卽チ明治二十九年三月二十七日法律第三十一號ヲ以テ同稅則中左ノ如ク改正セリ

法律第三十一號（明治二十九年三月二十七日）

明治二十一年勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス

第一條　沖繩縣ニ於テ製造シテ他ノ地方ニ輸出スル酒類ニハ出港稅ヲ課ス其酒類及稅率左ノ如シ

第一種	清酒、味淋、白酒	一石ニ付	金六圓
第二種	濁酒	一石ニ付	金五圓
第三種	燒酎、酒精	一石ニ付	金七圓

附則

此法則ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

斯クテ內地ノ酒造稅法ハ明治三十一年法律第二十三號酒造稅法改正ニ關スル法律ヲ以テ稅率ヲ高メ第一種酒類ハ一石ニ付金拾三圓第二種酒類ハ同拾三圓ニ增稅シ尙ホ酒類含有量ニ準シ稅率ヲ增加スルコトヽセルヲ以テ之カ權衡ヲ得セシムル爲メ沖繩縣酒類出港稅率ヲ增加スルノ必要アリ是ニ於テ明治三十一年二月法律第二十八號ヲ以テ從來ノ規定ヲ改正シ其稅率ヲ左ノ如ク改

正シタリ

法律第二十八號（明治二十九年三月二十七日）

明治二十一年勅令第十三號沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス

第一條 沖繩縣內ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ニ移出スルトキハ其石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ出港稅ヲ課ス

第一種	清酒、濁酒、白酒、味淋	一石	金十二圓
第二種	燒酎、酒精	一石	金十三圓
第三種	混成酒	一石	金十三圓

攝氏檢溫器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量第一種第三種ニ在テハ二十第二種ニ在テハ五十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ增ス每ニ前項ノ金額ニ一圓ヲ加フ

附則

此法律ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行ス

明治三十四年ニ至リ法律第七號ヲ以テ更ニ酒造稅法中改正ヲ加ヘ、大ニ稅率ヲ高メ各酒凡ソ一石ニ付三圓ノ增稅ヲ爲スコトトセルヲ以テ之ト權衡ヲ得ル爲メ沖繩縣酒類出港稅率ヲ高ムルノ必要アリ明治三十四年三月三十日法律第九號ヲ以テ同稅則中左ノ如ク改正ヲ加ヘタリ

法律第九號（明治三十四年三月三十日）

沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス

第一條 沖繩縣內ニ於テ製造シタル清酒、濁酒、白酒、味淋、又ハ燒酎ヲ帝國內ノ地ノ地方ヘ移出スルトキハ其石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ出港稅ヲ課ス

第一種	清酒、濁酒、白酒、味淋	一石ニ付	金十五圓
第二種	燒酎	一石ニ付	金十六圓

攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中純酒精ノ容量第一種ニ在リチハ二十第二種ニ在リテハ四十五ヲ超ユルモノハ前項ノ割合ニ依ラス一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ酒類ノ石數ニ應シ出港稅ヲ課ス

前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス

第六條 中「三倍ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス」ヲ「五倍ノ罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ酒類ハ之ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵ス

第七條 中「五圓」ヲ「十圓」ニ「五十圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第八條 中「二圓」ヲ「三圓」ニ「二十圓」ヲ「三十圓」ニ改ム

附則

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖繩縣酒類出港稅ニ關シテハ爾後別段ノ變更ヲ生セス

沖繩縣酒類出港稅收入額

年度	金額
明治二十一年度	二、一〇九円五一四
同 二十二年度	一一、〇九二七四六
同 二十三年度	一四、九〇〇三八二
同 二十四年度	一四、八一三六一〇
同 三十五年度	一二、三七九九二六
同 二十六年度	一七、八三三五二四
同 二十七年度	二五、一八五九〇六
同 二十八年度	一九、八四七五七一
同 二十九年度	三五、一九八八七二
同 三十年度	五六、八三一一五九
同 三十一年度	七二、六一五六六三
同 三十二年度	八一、五七一九五三
同 三十三年度	一五六、八三三五六七
同 三十四年度	一一七、四九六四一六
同 三十五年度	一八五、九五五四二〇

第七節 醡麹營業稅

醡麹營業稅ハ明治六年ニ初マル是ヨリ先キ明治二年各藩知事任命ノ際ニ當リ酒造ニ關スル取締ハ都テ其管轄限リ適宜決行ノ權限ヲ賦與シタリシカ當時陸羽ニ於テハ醡麹營業者ニ清濁酒ト同一ノ免許鑑札ヲ附與シ清酒造稅ノ半額ヲ賦課スルノ例規ナリキ爾後租稅法規ノ全國一途ニ歸スルニ及ヒ右陸羽地方ニ行ハルヽ慣制ヲ以テ最モ當時ニ適當ナルモノト認メ明治六年四月大藏省達第六十七號ヲ以テ各府縣ニ令シ右課稅法ニ據リ醡麹營業稅ヲ徵收セシム該達ノ全文ハ左ノ如シ

大藏省達第六十七號（明治六年四月二十四日）

陸羽邊僻邑ニ於テ防寒ノ爲メ自飲ノ濁酒五升又ハ一斗位醸造致シ候ニハ酒醡ヨリ醸成候テハ容易ニ無之ニ付醡麹屋ト唱ヒ酒醡ノミ醸造營業ノ者多ク有之右ノ者ヘハ清濁酒同樣免許鑑札相渡稅金ノ儀ハ清酒造ノ半額收稅致シ全自飲濁酒聊醸造候者ハ免稅致シ有之就テハ各府縣トモ右醡麹營業ノ者有之候ハヽ同樣免許鑑札可相渡ニ付可申立尤甘酒又ハ麹ノミ營業ノ者ハ追テ一致ノ稅則御確定迄申立ニ不及此段相達候事

越テ八年酒類稅則ノ制定布告アルヤ濁酒稅ノ廢止ニ伴ヒ本稅モ亦廢止ニ歸セリ

明治十年十二月更ニ濁酒ニ課稅スルコトヽナリタリト雖モ醡麹ノ營業ハ依然免稅タリシカ自家用料酒ヲ製造スルモノ年ヲ逐フテ多キヲ加ヘ爲メニ營業酒ノ販路ヲ障害スルコト少カラス因テ濁酒醸造ノ根源タル醡麹ノ製造者ニ課稅シ以テ間接ニ自家醸造者ニ負擔セシムルノ必要ヲ生シ

明治十三年九月二十七日布告第四十一號ヲ以テ初メテ稍完全ナル醇麹營業稅則ヲ定メタリ其全文左ノ如シ

布告第四十一號（明治十三年九月二十七日）

醇麹營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

醇麹營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醇麹（醸造酒類ヲ製造と）ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醇麹營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ屆出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數幷ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醇麹賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス、

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醇麹ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

斯クテ該稅則ハ同年十月一日以降實施セラルヽコトヽナリタルヲ以テ十一月二十四日大藏省達乙第四十號ヲ以テ醇麹營業稅則取扱心得書ヲ定メタリ其全文左ノ如シ

大藏省達乙第四十號（明治十三年十一月二十四日）

本年九月第四十一號ヲ以テ醇麹營業稅則御布告相成候ニ付右取扱心得書別紙之通相定候條此旨相達候事

醇麹營業稅則取扱心得書

第一款 營業免許

第一項 免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ租稅局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ

第二項 免許鑑札雛形及ヒ其記載方ハ第一號圖式ノ如シ

第三項 酒造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシ

第四項 免許鑑札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フ者アルトキハ最初授與シ

タル鑑札ヲ差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印第五號雛形ノ如シヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但鑑札裏面餘白盡キタルトキハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五項　免許證印ハ左ノ雛形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ

但其證印方郡區長ヘ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之ヲ調製シ相渡スヘシ

明治何年一期
膏麹營業免許ノ證

細輪廓　角切　字體楷書
印肉朱　寸法竪巾曲尺一寸四分
横巾曲尺四分

第六項　稅則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルトキハ雙方連署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳（賣渡讓渡人所在ノ官廳）ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳（讓受人所在ノ官廳）ヘノ添翰（該期免許稅納濟且免許鑑札ヲ取置キタル旨明記スヘシ）ヲ作リ之ヲ下渡シ乙管廳ニ於テハ甲管廳ノ添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

但製造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管廳ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第七項　廢業ノ者ハ其屆出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第八項　廢業並書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號ニ據リ不取締無之樣消却スヘシ

第九項　稅則第八條戸外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

（雛形略）

第十項　稅則第五條賣上帳簿差出シタルトキハ其記載ノ石數及ヒ購求者居處姓名等精覈ニ檢査ヲ送ゲ檢印ノ上下渡スヘシ而シテ該帳簿ハ營業中之ヲ保存セシムヘシ

第十一項　營業取締ノ爲メ便宜ニ主任官出張シ之ヲ點檢スヘシ

第二款　申牒期限

第十二項　稅則第四條販賣見込ノ石數ハ毎一期分第二號雛形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ其期十一月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

但本文屆出ノ後其增減ハ三箇月毎ニ取纏メ製表ノ上翌月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第十三項　親規營業人員ハ三箇月毎ニ取纏メ第三號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌月十五日限リ差立租稅局ヘ送付スヘシ

第十四項　免許鑑札受拂ハ毎一期分第四號雛形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第十五項　返納鑑札消却ノ分ハ第五號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌期十月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第十六項　營業稅ハ毎一期分第六號雛形ニ倣ヒ稅表ヲ調製シ翌期十月三十日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第十七項　販賣シタル石數ハ毎一期分第七號雛形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ翌期十一月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

（雜形略）

尋テ明治十五年十月十二日大藏省達第三十七號ヲ以テ右取扱心得書第十三項ノ內新規營業人員トアルヲ「營麹製造場ノ員數」又人員表トアルヲ「報告表」ニ改ム蓋シ本稅ハ製造場每ニ免許鑑札ヲ附與スルモノナルヲ以テナリ然ルニ從來營麹營業者ノ資格ニ制限ナカリシカハ營麹營業人ニシテ酒造酢造ノ營業ヲ兼テ竊ニ多量ノ酒類ヲ製造シテ販賣スルモノアリ或ハ酒類ノ受賣業ヲ兼テ自家密造ノ酒類ヲ販賣シ或ハ營麹受賣ヲ兼テ多量ノ營麹ヲ製造スルモノアリ此ノ惡弊延テ全國ニ傳播スルノ虞アリタリシヲ以テ同年十二月二十七日布告第六十二號ヲ以テ營業稅則ヲ左ノ如ク追加シ以テ之カ監督ヲ嚴ニセリ

布告第六十二號（明治十五年十二月二十七日）

明治十三年九月第四十一號布告營麹營業稅則左ノ通追加ス

第五條二項

營麹及ヒ仕込諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第十二條

營麹營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣營麹受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類（營麹ヲ除ク）ヲ製造スルヲ許サス

第十三條

第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條

營麹營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ總テ其營業者ヲ處罰ス

右改正以來明治二十八年マテ毫モ沿革ノ記スヘキモノナシ二十九年營業稅法ノ制定セラレ自家用酒稅ノ增稅セラレタルニヨリ特ニ本法ヲ設クルノ必要ナキニ至リ同年三月法律第二十八號ヲ以テ之ヲ廢止セリ

營麹營業稅

年度	金額
明治十三年	六六、五五〇円〇〇〇
同十四年	五六、七九六、四〇〇
同十五年	四七、二〇〇、四〇〇
同十六年	三二、一〇〇、〇〇〇
同十七年	二八、五一〇、〇〇〇
同十八年	二七、四一〇、〇〇〇
同十九年	二五、三六〇、〇〇〇

同二十年	二六、一二二	〇〇〇
同二十一年	二七、二三四	〇〇〇
同二十二年	二八、三二二	〇〇〇
同二十三年	三〇、二一〇	〇〇〇
同二十四年	三一、六九八	〇〇〇
同二十五年	三二、六四八	〇〇〇
同二十六年	三一、八六〇	〇〇〇
同二十七年	三二、一一〇	〇〇〇
同二十八年	三〇、六八六	〇〇〇

(備考)

本表ハ明治十三年布告第四十一號醪麴營業稅實施後ノ收入額ヲ掲ク明治八年以前ニ於ケル收入額ハ酒類稅收入額中ニ包含セルヲ以テ玆ニ之ヲ示ス能ハス

第八節 醬油稅

第一款 醬油造石稅

第一項 醬油造石稅ノ第一期

醬油製造ハ舊幕府ノ時代ニ於テハ清酒濁酒ト併セテ之ヲ三造ト稱シ家株ナルモノアリテ各地其ノ醸造家ヲ限定シ稅金ハ冥加金ノ名ヲ以テ之ヲ徵收シ其課稅方法等ハ總テ酒稅ニ附帶シテ之カ規定ヲ設ケタリシカ明治維新ノ後ニ至リシモ當初ハ仍ホ舊ニ依リ酒造ト共ニ冥加金ノ名ヲ以テ之ニ課稅セリ而シテ明治元年七月二十七日民政裁判所ハ關東諸縣ニ達示シ爾來醬油製造ニ關シ免許鑑札ヲ受ケシムルコトヽ爲セリ蓋シ製造者私利ニ惑ヒ年ノ豐凶ヲ察セスシテ猥ニ製造スルハ國害ヲ醸スニ依リ年々之カ造石高ヲ取糺サントノ主旨ニ出ルナリ尋テ八月二十日會計局達ヲ以テ醬油一時冥加金(鑑札下付冥加)百石ニ付キ金七兩ト定メ大總代(醬油造人組合)ヨリ取纏メ之ヲ上納セシムルコトヽシ又同年十一月二十七日會計官達ヲ以テ同年々冥加金百石ニ付キ金參兩ト定メ尙ホ其ノ收納方ニ付テハ十二月三日會計官達ヲ以テ年々十月限リ大總代ヨリ取纏メ會計官ニ上納スヘキモノト爲セリ明治二年七月大藏省達ヲ以テ更ニ醬油稅ニ關シテ稍詳密ナル規定ヲ設ケ其監督ヲ嚴ニセリ其規定左ノ如シ

明治二年大藏省達

今般關八州竝伊豆國御領私領社寺頭共酒造濁酒造醬油造免許鑑札相渡候間最寄知縣事ニテ進退ノ筈ニ付取締差圖可請事

但桶尺員數相改其所役人竝村役人組合大小總代立合燒印据可申事

一 年々冥加金取集上納竝造方ノ儀ニ付都テ願筋等爲相任候總代大總代ハ是迄ノ通寄場村々

組合親村ニテ觸元相心得右寄場村々內ニテ酒造濁酒兩造ニテ一ト組合醬油造一ト組合ト造定造人共ニテ人撰イタシ組合限一同ノ連印ヲ以總代名前取極可申出候事

但大小組ニ寄人別ニ應シ總代人數取調可申立代リ合候節モ前仝樣其組合限造人連印ニテ名前申立藩縣添翰ヲ以可差出候尤大小總代共權威ヶ間敷儀且願筋等ニテ出府其外組合ヨリ過分失脚料爲出候儀於相聞ハ急度咎可申付事

一 過造隱造清酒ニ紛敷濁酒造致候モノ組合村々限遂穿鑿疑敷モノ於有之ハ早々最寄知縣事ヱ可申出候若隱シ置他ノ組合ヨリ名差於相顯ハ當人ハ勿論其組合一同ノ落度ニ候間村役人ニ至迄嚴重ノ咎可申付事

右三ヶ條ノ趣並御一新ニテ被仰出候御觸ノ趣堅可相守モノ也

右ノ趣並鑑札株高桶造藏間數三造賣前直段共家內見安キ所張出紙致置可申事

斯ノ如ク明治維新以降幾度カ醬油稅ニ關シテ布達スル所アリタリト雖モ常ニ關東地方ニ限レルモノニシテ絕ヘテ仝國一般ニ布令スルコトナカリキ隨テ醬油造株鑑札下付及冥加金上納方等東西兩京ニ於テ區々ニ亘リタルノミナラス藩々ニヨリテハ無鑑札ニテ製造ヲ許シタルモノアリ是ニ於テ仝國一定ノ制度ヲ確立スルノ必要ヲ認メ同年十二月三日民部省布達ヲ以テ仝國府藩縣醬油造株鑑札渡方ヲ令達シ醬油造株鑑札冥加百石ニ付金五圓醬油造年々冥加百石ニ付金參圓ト爲シ無鑑札ノ製造ヲ禁止セリ該達ノ仝文左ノ如シ

民部省布達（明治二年十二月三日）

府藩縣

御國內酒造並濁酒造醬油造共株鑑札渡方並冥加上納等東京西京區々ノ規則ニ有之而已ナラス藩々ニ依リ候テハ無鑑札ニテ自造イタシ候向モ有之哉ニ相聞御體裁ニモ拘リ候儀ニ付今般御國內一途ノ法則左ノ通御確定相成候ニ付自今無鑑札ニテ製造一切停止被仰付候間府藩縣ニ於テ管轄所造高並造人名前共早々取調通商司ヘ來午六月限リ可申立尙又冥加上納ノ儀ハ例年十一月限リ同司ヘ相納可申事

但別紙國割ノ通可相心得事

（中略）

一 醬油稅株鑑札冥加金百石ニ付金五兩ツヽ上納ノ事

一 同斷年々冥加高百石ニ付金三兩ツヽ上納ノ事

右之趣小前末々迄無遺漏可觸示候事

畿內

山城 大和 河內 和泉 攝津

南海道

紀伊 淡路 阿波 讃岐 伊豫 土佐

山陰道

丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見 隱岐

山陽道

播磨 美作 備前 備中 備後 安藝 周防 長門

西海道
筑前 筑後 豐前 豐後 肥前 肥後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬
右三十八箇國ハ大阪出張通商司ヘ可申立事
東海道
伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江 駿河 甲斐 伊豆 相模 武藏 安房 上總
下總 常陸
東山道
近江 美濃 飛驒 信濃 上野 下野 磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後
北海道
若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 佐渡
右三十五箇國ハ東京通商司ヘ可申立事

全國一途ノ法規ハ斯ノ如クニシテ立チタリト雖モ是レ唯稅法ノ大體ヲ定メタルニ止マリ其鑑札下附ノ方法及取締法ノ如キハ各地相異リ其弊害甚タ尠シトセサルヲ以テ茲ニ國內稅法統一ノ目的ヲ以テ明治四年七月太政官布告ヲ以テ新ニ清酒濁酒ト共ニ醬油鑑札收與並收稅方法規則ヲ制定シ從來ノ醬油造株鑑札ヲ廢止シテ更ニ免許鑑札ヲ下附シ其新ニ免許鑑札ヲ受クル者ハ免許料金一兩一分燒失流失盜難等ノ爲メ再渡ヲ受クル者ハ免許料ノ半額又其鑑札ヲ賣買スル者ハ證印稅トシテ賣價百分ノ二(十兩ニ付永二百文)ヲ納メシメ別ニ免許稅及醸造稅ヲ定メ免許稅ハ造石數ノ多少ヲ問ハス稼人一人ニ付每年金三分醸造稅ハ醬油代金ノ五厘(百兩ニ付二分)トス尙無免許醸造及過醸者ニ科スヘキ制裁ヲ定メタルヲ以テ醬油稅法是ニ至テ漸ク備ハル該規則ノ全文左ノ如シ

太政官布告 (明治四年七月)

今般清濁酒其外銘酒類竝ニ醬油醸造御定稅則御改正被仰出從前ノ株鑑札都テ廢止致シ更ニ免許鑑札大藏省租稅司ヨリ引替可相渡間是迄渡シ置候鑑札ハ不殘府縣管轄廳ニ於テ取纏當未年十月限リ同省ヘ可差出事

但鑑札一札每ニ造人國郡村名書小切ニ認メ且其管轄廳印ヲ押シ鑑札相添可差出事

一 是迄分ケ株ト唱ヘ一株ヲ二所或ハ三所ヘ分ケ候者有之趣右ハ自今禁止候事

一 右分ケ株ヲ以テ醸酒致シ居候モノ今般改テ相願候ハヽ新規鑑札下ケ渡候間願人姓名書相添前仝樣可差出候事

一 向後新規稼致シ度望者ハ其管轄廳ヘ願出次第姓名其外前仝樣取調可差出事

一 右免許鑑札所持ノ者以來石數ノ定限無之醸造ノ手續ハ其年造込凡積石數銘々ノ力ニ應シ造主ヨリ八月晦日限リ右申立各管轄廳ニ於テ其年柄勘辨ノ上醸造石數差定造高免許鑑札相渡シ置總體取纏石數名前等巨細認分ケ十月中大藏省租稅司ヘ可相屆事

(醸造石高帳)

但當未年ハ免許鑑札引換以前ノ儀ニ付從前ノ株鑑札ヲ以テ造込石數可爲申上事

一 造高免許ノ鑑札年々稼人ヘ下ケ渡方ハ各管轄廳ニ於テ造込石數聞屆候節別紙雛形ノ通認メ相渡可申事

一 免許料造高免許稅其外郡テ各管轄廳ニ於テ綿密ニ簿冊ニ記入シ稼人幾箇免許料何程造込石數何程造高稅何程ト各造人名間明細ニ認澤候調書右收稅金相添年々十二月限リ府縣共直ニ大藏省ヘ相納可申事（醸造稅內澤堤醸造稅ヒ納稅）

一 管內若シ濫造ノ者有之候ハハ別紙規則ニ從ヒ科料可申付尤モ右手續ハ調書ヲ以テ其節可相屆事

右ノ趣管內無遺漏可相觸事

辛未七月

民部省
大藏省

清酒濁酒醬油鑑札收與並ニ收稅方法規則

第一則

一 新規免許鑑札願受候モノハ爲免許料（中略）醬油ハ金壹兩一分宛可相納（中略）ヘキ事

但古鑑札引替ノ分ハ免許料ニ不及候事

一 免許鑑札ハ來申年ヨリ毎年八月其管轄廳ニ於テ相改メ可申萬一燒失流失或ハ盜難等ニテ失ヒ候者有之候節ハ事實取糺シ手續書ヲ以テ其段租稅司ヘ申立更ニ鑑札相下可申事

但燒失等ニテ更ニ鑑札相下ケ候ヘハ新規願受ケ候節ノ免許料ノ手高上納可致候事

一 造高ノ多少ニ不拘（中略）稼人一箇ニ付（中略）醬油ト金三分ツヽ當未年ハ十月來申年ヨリ毎年八月鑑札改ノ節免許稅トシテ可相納候事

（中略）

一 造方休業致シ候者モ當未年ハ十月來申年ヨリ毎年八月鑑札改メヲ受可申其節御定則ノ免許稅可相納事

一 休業致シ候者免許鑑札返納相願候ヘハ免許ニ不及候事

第二則

一 免許鑑札賣買致シ度者ハ双方村町役人トモ連印ヲ以テ其管轄廳ヘ願出不相當無之候ハヽ其廳ニ於テ別紙雜形ノ通繼紙證文致シ免許可致事

但買請人國郡村名前書相添管轄廳ヨリ租稅司ヘ可相屆事

一 右鑑札賣買ノ節證印稅トシテ賣代金百分ノ二（但十兩ニ付永二百文）相納可申事

第三則

一 毎年八月免許鑑札改ノ節其年ノ造高申立造高免許ノ鑑札可相願事

但當未年ハ免許鑑札引替以前ニ付從前ノ株鑑札ヲ以テ可申立來申年以來ハ今年渡置候造高免許鑑札ヘ其年ノ造高ヲ別紙雜形ノ通小切ニ認糊付致可差出事

附昨年ノ造高免許鑑札燒失等ノ節ハ別段書面ヲ以テ可願出事

一 右ノ如ク當年造込願高認添候昨年ノ造高免許鑑札ハ八月限リ差出候ヘハ各管轄廳ニ於テ其年柄ヲ察シ國內ノ總造高ニ見比ヘ詮議ノ上相定メ九月限リ別紙雜形ノ通造高免許鑑札可相渡事

但本文鑑札ハ其管轄廳ニ於テ製造致シ候儀ト可心得候事

第四則

一 清酒ハ造高改トシテ時宜見計管轄廳ヨリ巡見造高相改可申事
但醤油ノ儀ハ五拾石以上造ヨリハ出役ノ上可相改事
（中略）

一 清酒並ニ銘酒類味淋白酒等生酒代金ノ五分（但百兩付五兩）ニ其所前年ノ酒價平均ヲ以テ爲醸造税
毎年八月造高免許鑑札相願候節納金高爲書出十月中可相納事
（中略）

一 醤油ハ前同斷ノ五厘（但金百兩ニ付二分）右同樣ノ振合ヲ以テ可相納事

第六則

一 免許鑑札無之自己ノ利益ヲ計リ商賣ノ爲メ密醸致シ候者於相顯ハ都テ其品取上ケ（中略）醤油ハ造高百石ニ付金二十五兩（一石ニ付金壹分）ノ割ヲ以科料可申付事

一 其年ノ造高免許鑑札不願請自儘ニ醸造致シ候モノ於相顯ハ其醸造品ハ勿論兼テ相渡シ置候免許鑑札ヲモ取上ケ且爲科料（中略）醤油ハ造高百石ニ付金拾兩（一石ニ付永百文）ノ割ヲ以テ取立可申事

一 過造致シ候者ハ其過造ノ分ヲ取上ケ（中略）醤油ハ造石百石ニ付金二十五兩（一石ニ付金壹分）ノ割ヲ以科料可申付事
但取上候諸品並ニ醸造ノ分共入札拂可申付事

第七則

一 右樣取締相立候ニ付テハ向後規則ニ背キ候取計有之候者ハ都テ定則ノ科料金可申付若シ

又村町役人等ニテ醸造人ノ賴ニ依リ不正筋取計候カ又ハ不正筋ト乍存見遁候事共有之於相顯ハ相當ノ咎可申付事

一 稼人共不正筋有之候ヲ見付訴出候者ヘハ其品ニ從ヒ相當ノ賞譽可有之事

一 科料金並ニ取上品拂代總高百兩迄ハ五分通（但百一兩ナレハ百兩迄ノ五分ト一兩ノ三分トノ合七兩永三十文ノ割）取扱候者又ハ訴出候者ヘ褒美並ニ爲手當被下候ニ付管轄廳ニ於テ相當ニ配給可致候事

右ノ通規則相定候間各管轄廳ニ於テ成規ニ照準シ取締可致且收税及ヒ科料金等ノ儀年々精細ニ調譯簿冊ニ記載シ其年十二月中府縣共大藏省ハ可相納候事

後幾モナク十月十四日大藏省達ヲ以テ右ノ規則第五則中ニ左ノ如ク增補セリ蓋シ前記第五則ノ意義稍〻明瞭ヲ缺キタルヲ以テナリ

一 清酒代金五分ノ税其所前年ノ酒價平均ト有之候者前年醸造イタシ候生酒ノ税ヲ當年取立候儀ニ有之卽チ當未年免許ヲ請醸造イタシ候五分ノ税ハ來申年八月前全樣ノ手續ニテ取立候事

但酒價平均ノ儀ハ前九月ヨリ翌年二月迄ノ平均ト可心得且其最寄相場相立候市町ニ於テ二箇所或ハ三箇所ノ相場平均可致儀ニ付兼テ其市町相定置可申事

一 生酒トハ卽チ醸成ノ上全ク賣出シ候升高ヲ以石數何程ト取調候儀ニ有之候事
譬ヘハ米高百石造込候ヘハ生酒何ニ當ル哉ハ其管轄廳ヨリ造高改トシテ時宜見計巡見ノ節巨細相分可申事

右ノ手續ニ付當未年ハ規則ノ通免許税ノミ取立候儀ト可相心得事

但清酒其外味淋白濁酒並ニ醤油等總テ右ニ準候事

明治六年一月十九日ノ開拓使伺ニ對シ二月八日太政官指令ヲ以テ右規則中收税ニ係ル分ハ特ニ北海道ニ限リ當分便宜ノ處置ニ任スルコトヽ爲セリ蓋シ北海道ノ地タル諸事草創内地ト同視スヘカラサルモノアルヲ以テナリ尋テ同年十二月十二日大藏省達第百七十四號ヲ以テ規則中鑑札下付及税金上納期等ヲ左ノ如ク改正セリ

毎年

府縣廳ニ於テ免許鑑札改並造高免許鑑札下渡期月

十月中

新規免許料

造高免許税

十月三十一日限府縣廳ヘ收入

十一月三十日限當省ヘ上納

但右期限後新規免許候者免許料並造高免許税其年末ニ取纏上納致スヘシ尤上納帳内譯帳差出候後免許候者ハ翌年ヘ組込候儀ト可相心得事

清酒其外醸造諸税内譯上納帳

清酒其外醸造石高帳

十二月二十五日限リ當省ヘ差出

但右期限後新規免許候者ノ醸造高並增減等有之候ハヽ其時々可屆出事

清酒其外平均相場期月

十月一日ヨリ六月三十日マテ九ヶ月間平均相場

八月三十一日限リ當省ヘ右相場書差出

醸造税

四月三十日限前年平均相場ノ比例ヲ以醸造高之内凡平方府縣廳ヘ收入取計六月三十日迄ニ當省ヘ上納殘金ノ儀ハ七月ニ至リ平均相場確定決算ノ上收入取掛リ九月三十日限リ當省ヘ皆濟上納可致事

尋テ明治七年一月九日太政官布告第二號ヲ以テ規則中ニ左ノ如ク追加シ免許鑑札造高免許鑑札ノ貸借ヲ禁シ之カ制裁ヲ定メタリ

明治四年辛未七月布告酒造取締規則左ノ通追加候條此旨布告候事

一　免許鑑札並ニ造高免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受醸造候者有之相顯ルヽニ於テハ規則第六則密醸ノ廉ヲ以テ處分シ造高免許鑑札ハ同則第二條自儘醸造ノ廉ヲ以處分可致貸渡候者ハ免許料五倍ノ科料金造高免許鑑札ノ別ナク可申付事

以上述フル所ノ如ク醤油税ハ維新以來清酒濁酒ノ二税ト相並テ課徴セラレタリシカ明治八年ニ至リ醤油ハ人民日用必需品ニシテ奢侈品ニアラサルヲ以テ之ニ課税スルハ不條理ナリトノ議起リ遂ニ二月二十日太政官布告第二十六號ヲ以テ醤油鑑札收支並收税方法規則ハ同年九月三十日

限リ之ヲ廢止セリ

第二項　醬油造石稅ノ第二期

醬油稅ハ明治八年ヲ以テ一旦廢止セラレタリシカ明治十八年ニ至リ軍備擴張ノ爲メ新財源ヲ求ムルノ必要ヲ生シ遂ニ一旦惡稅ナリトシテ廢止シタル醬油稅ヲ再興スルノ止ムヲ得サルニ至レリ乃チ同年五月八日太政官布告第十號ヲ以テ醬油稅則ヲ制定シ醬油ノ製造ヲ營業トスル者ハ製造場一箇所每ニ免許鑑札ヲ受ケシメ製造場一箇所ニ付營業稅一箇年金五圓製造高一石ニ付造石稅一箇年金壹圓トシ自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一人ニ付一箇年ノ製造一斗五升ノ割合ヲ超ユルヲ得サラシメタリ而シテ本稅則ハ同年七月一日以降之ヲ實施シ東京府管轄伊豆七島小笠原島沖繩縣函館縣札幌縣根室縣ニハ當分之ヲ施行セサルモノトセリ稅則ノ全文ハ左ノ如シ

布告第十號（明治十八年五月八日）

醬油稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

醬油稅則

第一條　凡ソ醬油（溜リナ併稱ス）ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所每ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　免許ヲ受ケタル者ハ左ノ通營業稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅　製造場一箇所ニ付　一箇年金五圓

造石稅　製造高一石ニ付　金一圓

第三條　免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セントキハ管廳ニ屆出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第四條　醬油製造人廢業スルトキハ管廳ニ屆出免許鑑札ヲ還納スヘシ

第五條　免許鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第七條　造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期　五月三十一日限

一月一日ヨリ四月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第二期　九月三十日限

五月一日ヨリ八月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第三期　翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月檢査濟石數ニ係ル稅額

第八條　醬油ハ製成ノ後五日以內ニ管廳ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

第九條　廢業ノ際未製成ノ醬油ヲ所持スル者ハ其節管廳ニ屆出檢査ヲ受ケ其石數ニ就キ納稅

スヘシ但之ヲ同業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上ニ於テ製造スル者其一箇所以上ヲ廢シ尙ホ存スル所ノ製造場ニ之ヲ移ス者ハ其旨屆出製成ノ上其製成者ニ於テ第八條ニ從ヒ檢査ヲ受クヘシ

第十條　檢査未濟ノ醬油ト檢査既濟ノ醬油トヲ混和スル者ハ其混和ノ日ヨリ五日以內ニ其旨管廳ニ屆出更ニ總石數ヲ以テ檢査ヲ受ケ納稅スヘシ

第十一條　檢査未濟ノ醬油其造石稅納期內ニ非常ノ損害ニ罹リテ廢業ニ屬シ若クハ腐敗シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免許ヲ請フコトヲ得

第十二條　外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ニ於テ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他ノ證憑ト爲ルヘキ書類ニ在留領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ當初輸出ノ稅關ニ差出シ其造石稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請フコトヲ得但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ再輸入シタルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十三條　醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油仕込帳

醬油賣上帳

第十四條　醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

第十五條　醬油搾リ器械ニハ主任官ノ封緘ヲ受ケ置使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出更ニ封緘ヲ請フヘシ

第十六條　醬油製造人ハ每年一月三十一日迄ニ其年製造見込ノ石數並ニ其製造方法ヲ管廳ニ屆出ヘシ新ニ開業セシ者ハ免許ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日以內ニ之ヲ屆出ヘシ但見込石數ノ增減並ニ製造方法ノ變換ハ其時々屆出ヘシ

第十七條　醬油製造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械ハ營業免許ヲ受ケタルトキ直ニ之ヲ管廳ニ屆出ヘシ但增減ハ其時々屆出ヘシ

第十八條　醬油製造人ハ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メ製造場ヲ貸スコトヲ許サス

第十九條　醬油製造人ハ自家用料ニ充ル醬油ト雖モ此規則ニ從ヒ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第二十條　醬油卸賣又ハ小賣ヲ以テ營業トスル者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第二十一條　醬油營業人ニ非スシテ自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一人ニ付一箇年一斗五升ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條　醬油製造人ノ醬油仕込高並ニ仕込ニ屬スル豆麥其他ノ原品及ヒ營業ニ關スル諸帳簿ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第二十三條　主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第二十四條　第一條ニ違ヒ免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ醬油及ヒ製造機械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第二十條ニ違ヒ卸賣人小賣ニ於テ醬油ヲ製造シタル者亦本條ニ據リ處分ス

第二十五條　醬油ヲ隱蔽シタル者ハ製成ト未製成トニ拘ラス其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス但檢査既濟ノ醬油ト檢査未濟ノ醬油トヲ混和シテ隱蔽シタル者ハ其總石數ニ就テ論ス

第二十六條　第八條第九條第十條ノ檢査ヲ受ケスシテ醬油ヲ賣捌貸渡讓渡又ハ自用シタル者ハ其造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍ホ其代金ヲ追徵ス

第二十七條　第十八條ニ違ヒ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ製造場ヲ貸シタル者又ハ第二十一條ノ制限ヲ超ヘテ醬油ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及ヒ容器ヲ沒收ス

第二十八條　第五條ニ違ヒ免許鑑札ヲ賣買貸借及ヒ讓受讓渡シタル者第十三條ニ違ヒ帳簿ヲ調製セス若クハ帳簿ノ登記ヲ詐リタル者第十四條ニ違ヒ檢査ヲ受ケスシテ容器ヲ使用シタル者又ハ第十五條ニ違ヒ開封ヲ成シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第三條第四條第八條第九條第十條第十五條但書第十六條又ハ第十七條ノ屆出ヲ怠リタル者ハ一圓以上九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條　醬油製造人ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

尋テ同月十六日大藏省達第二十二號ヲ以テ醬油稅則取扱心得ヲ定メ以テ其取扱方ヲ明ニセリ其全文ハ左ノ如シ

大藏省達第二十二號（明治十八年五月十六日）

本年五月第十號ヲ以テ醬油稅則公布相成候ニ付右稅則取扱心得書別冊之通相定ム

第一項　免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ收稅長ヨリ主稅官長ニ宛テ之ヲ請求スヘシ

第二項　免許鑑札記載方ハ第一號雛形ニ倣フヘシ

第三項　製造場ハ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止ルモノハ製造場ノ附屬トスルコトヲ得ヘシ

第四項　二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出シメ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出シムヘシ但免許鑑札面ニハ誰外何人ト記シ又ハ頭取ノ名ヲ記載ス可シ

第五項　營業者不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ其代人ハ營業熟知ノモノヲ選定シテ委任狀ヲ附與セシメ其人名ヲ屆出シムヘシ但幼少其他事故アリテ代人ヲ置クトキハ本項ニ依リ後見人ヨリ委任狀ヲ附與セシムヘシ

第六項　製造場ヲ他管下ニ移轉スル者ハ免許鑑札ヲ添ヘテ所在管廳ニ出願セシメ所在管廳ハ移轉管廳ヘノ添翰ヲ作リ之ヲ下渡シ移轉管廳ハ其添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

第七項　稅則第十七條ノ屆書ニハ諸建物ノ構造繪圖面調書及諸器械ノ員數目錄ヲ添ヘシムヘシ但賣買讓與貸借新規修繕破毀等ノ增減モ亦同シ

第二款 諸器械調査

第八項 稅則第十四條醬油製造用桶類ノ新製又ハ修繕ヲ屆出ルトキハ其時々主任官員出張シテ番號ヲ掲記シ且ツ左ニ掲クル所ノ丈量法及算則ニ據リ詳密ニ調査ヲ遂ケ左ノ雛形ニ倣ヒ木札ヲ製シ管廳ノ烙印ヲ施シテ桶ノ前面ニ釘付スヘシ

但桶面ニ掲載スヘキ番號ハ木札ヲ釘付スヘキ右側ノ上部ニ記スヘシ

	竪	七	寸	横	八	寸
番號桶ト同番號ヲ用ユヘシ						
口徑						
胴徑						
底徑						
深サ						
石數						
調査ノ年號月日						
調査人官姓名						

木札ノ寸方ハ桶ノ大小ニ從テ增減スルモ妨ナシ

口徑（口頭コリ三寸下リタル箇所）胴徑（口底徑ノ中央）底徑（底板面ノ箇所）ハ孰レモ內側ニテ縱横⊕圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム其桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト底徑ノ和ヲ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス）乘シ之ヲ二ニテ除シ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

第九項 甕類容量ハ總テ桶類ニ準シ之ヲ査定スヘシ

之ヲ査定ス可シ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ヲ以テ

但番號石數等ハ木札ニ記載シ之ヲ正面ニ附シ置カシムヘシ

第十項 桶甕類ノ番號ハ倉庫ノ數ニ拘ハラス總テ製造場一箇所每ニ起號シ其總數ニ應シテ順次ヲ定ムヘシ

但桶甕ノ外諸器械ハ番號ヲ附スルニ及ハスト雖官廳ノ烙印ヲ捺シ得ルモノハ之ニ烙印スヘシ

第十一項 粕桶水桶等ノ類ニシテ全ク醬油ヲ容レサル分ハ丈量ニ及ハスト雖番號ヲ記載シ之ニ烙印スヘシ

但製造場內ニ於テ醬油ヲ容ルヽ桶甕類ハ都テ丈量ノ調査ヲ受ケシムヘシ

第十二項　調査濟ノ桶甕類賣買讓與同業者ニ係ルモノハ主任官員出張ノ上其番號ヲ書換其非營業者ニ係ルモノ及破解ニ屬スルモノハ桶面ノ木札ヲ除却ス但一時借受ケタルモノハ假番號ヲ記載スヘシ

第三款　器械封緘

第十三項　稅則第十五條器械ノ封緘ハ官廳ニ於テ豫メ一定ノ方法ヲ相立テ搾リ器械ハ槽ノ桶口並男柱ノ孔ヘ封緘ヲ爲スヘシ

第十四項　前項封緘用紙ハ管廳ノ印章ヲ捺シタルモノヲ用ヒ且封緘ノ都度其請書ヲ差出サシムヘシ

第十五項　搾リ器械ノ開封ヲ請フトキハ醪成熟ノ形狀ト其量數ノ多寡トヲ檢査シ開披ノ日數ヲ豫定シテ許可スヘシ

第四款　造石檢査

第十六項　造石檢査ヲ爲スヘキ醬油ハ桶甕トモ口頭ヨリ三寸ヲ減シ容レ置カシメ每桶甕トモ記載ノ石數ニ據リ查定スヘシ

第十七項　前項記載ノ石數ニ充タサルモノハ其現在入實ノ石數ニ據リ左ノ算則ヲ以テ調査スヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス（此口徑ヲ求ムルニハ口徑ヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ口徑トス）

假定ノ口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト胴徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ胴徑以上ノ入實深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺度ヲ一位トス之ニ準ス）ヲ乘シ其得ル石數ヘ胴徑以下ノ石數ヲ合算ス可シ

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス（此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胴徑ニ滿サルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ヲ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス）

假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十八項　醬油醪熟成ノ節ハ前以テ其旨申出シメ之レカ檢査ヲ爲スヘシ

第十九項　稅則第八條醬油製成トハ搾リ上ケタルモノヲ謂フ溜リハ醪石數ニ據リ製成ノ分合ヲ定メ其石數ヲ檢査スヘシ

第二十項　製造中他ヨリ醬油ヲ買入ルヽモノハ時々其石數ヲ屆出サセ時宜ニヨリ之ヲ檢査スヘシ

第二十一項　稅則第十一條非常ノ損害ニ罹リタル醬油ハ水火震災並腐敗等人爲ヲ以テ防禦スヘカラサルモノニ限ルモノトス造石稅ノ免除ヲ請フモノハ其實況ヲ詳記シタル書面ヲ差出サシメ直チニ主任官員出張シ詳密ニ檢査ヲ遂ケ徵ヲ生シタルモノハ徵漉ノ爲メ減シタル石數其他損害ニ罹リ手入等ヲ爲シタルカ爲メ減却シタルモノハ其石數ニ就キ造石稅ヲ免除ス

可シ

第二十二項　醬油製成以前非常ノ損害ニ罹リ又ハ廢棄シ若クハ腐敗シタルトキハ其實況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ屆出シメ直チニ主任官員出張シテ詳密ニ檢査ヲ爲スヘシ

第二十三項　造石稅納期以前廢業セントスル者ノ檢査濟石數ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納セシムヘシ

第二十四項　營業者ハ製造場一箇所每ニ第十三號雛形ニ倣ヒ標札ヲ調製シ其年製造見込ノ石數ヲ書載シテ戶外ニ掲出セシムヘシ但其石數ヲ增減シタルトキハ其時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更正セシムヘシ

第五款　申牒期限

第二十五項　左ニ掲クル諸表ハ此期限ニ從テ其地ヲ差立主稅局ヘ送付スヘシ

第二號書式

一　醬油見込石高及製造場營業人ノ數報告表　每月調製

翌月十五日限

第三號書式

一　醬油檢査濟石高報告表　每月調製

翌月十五日限

第四號書式

一　醬油見込石高及原質品目報告表

前半期分　七月三十日
後半期分　一月三十一日限

第五號書式

一　醬油製造營業稅表

仝　仝

第六號書式

一　醬油造石稅表

每年調製　翌年一月三十一日限

第七號書式

一　醬油製造營業免許鑑札受拂計算表

仝　仝

第八號書式

一　醬油犯則事由報告表

仝　仝

第九號書式

一　醬油製造石高區分表

仝　仝

第十號書式

一　醬油現在石高表

仝　仝

第十一號書式

一　醬油垂分合表

仝　仝

第十二號書式

一　醬油卸小賣及自家用料製造人員表

毎年調製　翌年一月三十一日限

第六款　自家用料醬油

第二十六項　稅則第二十一條自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ノ數ハ豫テ取調置クヘシ

第二十七項　醬油卸問屋又ハ仲買ヲ總稱ス小賣ヲ營業トスル者ハ其旨管廳ニ屆出シムヘシ

第二十八項　自家用料ノ醬油ハ時宜ニヨリ實地檢査ヲ爲シ其他不取締之レナキ樣取計フヘシ

尋テ同年七月六日大藏省達第十四號ヲ以テ稅則第十二條ニ定タル輸出醬油造石稅下戻手續ヲ左ノ如ク定メタリ

布達第十四號（明治十八年七月九日）

本年五月第十號布告醬油稅則第十二條ニ據リ外國ニ輸出スル醬油ニ對シ造石稅金下戻ノ手續左ノ通相定ム

第一項　外國輸出ニ係ル醬油ノ稅金下戻ヲ請ハントスルトキハ甲號書式願書二通ヲ輸出港稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ經テ檢査濟ノ證明書ヲ受クヘシ

第二項　造石稅ノ下戻ヲ請フニハ乙號書式ノ願書ニ輸入港在留領事ノ檢印ヲ受ケタル陸揚免狀若ハ其他ノ書類（領事不在ノ港ニ於テハ該港稅關ノ通關證明書若クハ其陸揚セシ證憑トナルヘキ書類）及當初輸出港稅關ノ證明書ヲ添ヘ該稅關ヘ差出スヘシ

第三項　外國ニ輸出シ造石稅金ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ更ニ輸出スルトキハ丙號書式ノ屆書ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

尋テ同年九月十九日大藏省達第六十七號ヲ以テ醬油醪貯藏並ニ賣渡ニ關スル取扱心得ヲ左ノ如ク定メタリ

大藏省達第六十七號（明治十八年九月十九日）

醬油醪ノミ貯藏場所等ノ件自今左ノ通リ相心得ヘシ

一　醬油醪ノミ貯藏スル場所ハ製造場區域ト雖モ稅則取扱心得書第三項但書ニ準據ス可シ

一　營業中都合ニ依リ醬油醪ヲ營業者ニ賣渡スハ差支ナシ

但本文ノ場合ニ於テハ賣渡人ヨリ其趣屆出シテ檢査員ノ證明書ヲ添付シ更ニ買受人ヨリ其他ノ檢査員ニ申出檢査ヲ受ケシムヘシ

越ヘテ翌十九年五月二十九日大藏省訓令第二十號ヲ以テ醬油稅則取扱心得第十九項ヲ左ノ如ク改正シ醬油稅則第八條ニ依リ檢査ヲ施スヘキ醬油製成ノ範圍ヲ明ニセリ

大藏省訓令（明治十九年五月二十九日）

明治十年五月當省第二十二號達醬油稅則取扱心得書第十九項左ノ通更正ス

第十九項　稅則第八條醬油製成トハ搾リ上ケタルトキ又ハ火入ヲ要スルモノハ其火入ヲ爲シ

タルトキ及搾リ上ケタル醬油ヘ番水鹽水等ヲ混和シ火入ヲ爲シタルトキヲ謂フ溜リハ醪石數ニ據リ製成ノ分合ヲ定メ其石數ヲ檢査ス可シ

然ルニ右醬油稅則第八條ニ定ムル所ノ醬油製成後ニ於ケル査定ハ製造者其煩ニ堪ヘスト爲シ全國製造者ノ多數ハ製成前ニ於ケル醪ノ査定ヲ望ミ醬油稅則改正ノ建白ヲ爲ス者頗ル多シ是ニ於テカ政府亦此ニ顧ル所アリテ之カ改正ヲ爲シ併セテ自家用料醬油釀造高ノ制限等二三ノ修正ヲ加ヘ明治二十一年六月十六日勅令第四十七號ヲ以テ更メテ醬油稅則ヲ定メタリ其全文左ノ如シ

醬油稅則

第一條　醬油溜ハ稱スル併製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所每ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條　醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅　製造場一箇所ニ付一箇年　金五圓

造石稅　醬油ハ諸味一石ニ付　金一圓
　　溜ハ製成　一石ニ付　金一圓

第三條　營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ全七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條　造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期　五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第二期　九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第三期　翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定石數ニ係ル稅額

第五條　醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以內ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定濟ノ醬油ト査定未濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條　醬油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ム可シ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條　免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條　醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ屆出タル後ニ非サレハ製石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戾ヲ請求スルコトヲ得其下戾ノ步合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戾ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油カ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶ス可シ

第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及ヒ容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消廢シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家族雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條　北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條　此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以內ニ管廳ニ屆出ヘシ

斯クテ新稅則ハ此年九月一日以降實施スルコトヽナリタルヲ以テ八月三日大藏省令第九號ニヨリ醬油稅則施行細則ヲ左ノ如ク定メタリ

大藏省令第九號（明治二十一年八月三日）

本年六月勅令第四十七號醬油稅則施行細則左ノ通相定ム

醬油稅則施行細則

第一條　稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止ルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條　二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條　免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以內ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租　檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第四條　第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ增減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租稅檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第五條　醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租稅檢査員派出所ニ屆出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ屆出ヘシ

新タニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以內ニ前項ノ屆出ヲ爲スヘシ

第六條　醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第七條　醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ

第八條　醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

前項ノ容器ハ左ニ揭クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受クヘシ

但容器ニハ番號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス

丈量法

口徑（口頭コリ三寸下リタル箇所）胴徑（口底徑ノ中央）底徑（底板面箇所）孰レモ內側ニテ縱橫⊕圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ二ヲ以テ之ヲ除ス深サハ其桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ヲ以テ之ヲ除ス

但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト底徑ノ和ヘ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス ヲ乘シ二ヲ以テ之ヲ除シ其容量ヲ得

容器中甕類其他異樣ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第九條　石數査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿タサル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定スヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ容積ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下準之 ヲ乘シ其得ル石數ヲ容積帳簿記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヲ假定ノ口徑ニ滿タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十條　醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出鑑札ヲ返納スヘシ

第十一條　改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日內ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一　代替書替ハ　六十日間

一　其他ノ書替再渡ハ　十日間

第十二條　製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受ケ二十日以內之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條　稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條　稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢棄石數等ヲ詳記シ所管租稅檢査員派出所ニ屆出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　造石數査定未滿ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租稅檢査派出所ニ屆出ヘシ

第十六條　醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油麹製造帳
醬油仕入帳
醬油賣揚帳

第十七條 稅則及ヒ此細則ニ揭クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名、名稱、石數、箇數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證書ヲ受クヘシ

第十九條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ稅關ニ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油造石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管內ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名、石數、箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十二條 稅則及此細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ金壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 此細則ニ關スル帳簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

越ヘテ明治二十七年六月八日大藏省令第十號ヲ以テ右稅則施行細則第二條ヲ削除セリ蓋シ明治二十三年法律第三十二號商法第六十八條ニ於テ官廳ノ許可ヲ要スル營業ヲ爲サントスル會社ハ其許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ設立スルヲ得サル旨ヲ規定シ則チ會社設立前發起人ニ於テ營業ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルニ至リタルヲ以テ最早此條項ヲ存スル必要ヲ認メサルニ至レルニ由ルナリ然ルニ明治二十九年ニ至テ營業稅法ノ制定アリタルニ由リ課稅ノ重複ヲ避ケンカ爲メ同年四月六日法律第六十四號ヲ以テ醬油稅則中營業稅ニ關スル事項ヲ删除シ明治三十一年一月一日以降之ヲ實施スルコトヽ爲セリ尋テ又從來ノ醬油製造用容器容量測算ニ關スルノ規定ハ頗ル繁雜ニ涉リ時間ヲ徒費シ檢査ノ敏活ヲ缺クノミナラス適用上往々ニシテ錯誤ヲ生スルノ奬アルヲ認メ同年十一月四日大藏省令第十四號ヲ以テ醬油稅則施行細則第八條ニ改正ヲ加ヘ其第九條ヲ削除シ同時ニ大藏省內訓第二〇四二號ヲ以テ更ニ簡易ナル測算法ヲ示シ以テ其測定ノ精確ト敏活トヲ期セリ其改正條文及新測算法ハ左ノ如シ

大藏省令第十四號（明治二十九年十一月四日）

明治二十一年大藏省令第九號醬油稅則施行細則中左ノ通改正ス

第八條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前之ヲ檢定スヘシ

前項ノ容器ヲ檢定シタルトキハ之ニ其番號容量其他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

第九條 刪除ス

大藏大臣內訓（明治二十九年十一月一日）

醬油製造用容器容量及端石數測算方ノ儀ハ自今左ノ方法ニ據リ取扱從前測算濟ニ係ル容器ノ容量ハ漸次改算ノ手續ヲナスヘシ但造石數檢査若クハ檢定ノトキ改算未濟ノ容器端石數算出ニ就テハ仍此測算方ニ據ルコトヲ得

醬油製造用容器測算法

一 測度方法

口徑（口頭ヨリ三寸下リタル箇所）胴徑（口底徑ノ中央）底徑（底板面ノ箇所）何レモ內測リニテ縱橫⊕圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其ノ容器ノ前後左右中心等何レモ底面ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ム

但尺度ハ何レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止ム

一 全量算測

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト底徑ノ和ヘ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、二〇二ヲ乘シ其全量ヲ得

一 端石算測

入實水面胴徑以下ニアルトキハ其水面ヲ底徑ト假定ス（此假底徑ヲ求ムルニハ口徑ト胴徑ノ差ヲ二倍シ全深ニテ除シ空深ヲ乘シ差分ヲ得之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス但差分ハ分位ニ止ム假口徑ヲ求ムル場合モ亦全シ）

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空深及〇、四〇四ヲ乘シ得ル數ヲ檢定容器全量ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル但石數ハ合位ニ止ム胴徑以下ノ場合モ亦同シ

入實水面胴徑以下ニアルトキハ其ノ水面ヲ口徑ト假定ス（此假口徑ヲ求ムルニハ胴徑ト底徑ノ差ヲ二倍シ全深ニテ除シ入實深ヲ乘シ差分ヲ得之ヲ口徑ニ和シ假定ノ口徑トス）

假定ノ口徑ト底徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ胴徑以下ノ入實深サ及〇、四〇四ヲ乘シ其石數ヲ得ル

本測算方法ニ據リ容量ヲ得難シト認ムル容器ハ便宜ノ方法ヲ以テ測算スルヲ得

元來醬油ハ日用必須ノ消費品ニシテ其消費ハ貧富ノ程度ニ比例スルモノニアラス故ニ財政ノ許ス限リハ斯ノ如キ物品ニハ課稅セサルヲ可トスヘク特ニ其增稅ハ之ヲ避クルヲ以テ得策トスヘシト雖モ所謂戰後ノ經營ト共ニ國費ノ膨大ヲ來タシ明治二十九年以降諸種ノ新財源ヲ追求シタリシニ拘ラス三十二年度以降ノ財政ヲ經畫スルニ付歲計上尙數百萬圓ノ不足ヲ生スルニ至リタルヲ以テ政府ハ地租ノ定率ヲ百分ノ四ニ改メ之ニ依テ歲入ヲ增加セントシタルモ帝國議會ハ之ヲ減少シタルヲ以テ勢ヒ他ニ財源ヲ求メテ之ヲ補充セサルヘカラサルカ故ニ已ムヲ得ス醬油造石稅壹圓ヲ貳圓ニ改ムルノ案ヲ十三議會ニ提出セシニ議會ニ於テハ自家用料醬油ニモ造石稅ヲ課スルノ件等ヲ修正シタル結果三十二年二月二十五日法律第二十五號ヲ以テ醬油稅則ニ改正ヲ

加ヘ醬油造石稅一石ニ付キ金貳圓トシ從來無稅タリシ自家用料醬油ノ製造モ亦一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石ヲ超ユルモノハ造石稅一石ニ付キ金一圓ヲ課シ醬油請賣人、料理店、飲食店、旅人宿營業者及以上ノ營業者ト同居スル者ノ自家用料醬油製造ハ一石以上ト雖モ尙ホ同率ノ稅金ヲ課スルモノトシ併セテ從來ノ規定ニ存スル不備ノ點ヲ修正シ且ツ從來北海道ニ本法ヲ施行セサリシ該地ニモ亦本稅則ヲ施行スルコトヽ爲セリ今左ニ法律ノ全文ヲ揭ケン

法律第二十五號（明治三十二年二月二十五日）

醬油稅則中左ノ通改正ス

第一條　醬油（溜ヲ併稱ス）ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

自家用料ノミノ醬油ヲ製造スル者ニシテ一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石以下ニ止マルモノハ前項ノ免許ヲ受クルヲ要セス但左ニ記載スル者ハ此限ニ在ラス

一　醬油請賣人

二　料理店、飲食店、旅人宿營業者

三　前二號ノ者ト同居スル者

第二條　醬油製造人ハ左ノ造石稅ヲ納ムヘシ但自家用料ノミノ醬油ヲ製造スルモノハ半額トス

造石稅　醬油ハ諸味一石ニ付　金二圓

溜ハ製成一石ニ付　金二圓

第三條　第一條第二項ニ該當スル者ハ前條ノ造石稅ヲ課セス

第四條　造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其際之ヲ納ムヘシ

第一期　七月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額

第二期　十一月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第三期　翌年三月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額

第七條　醬油ヲ原料トシテ醬油ヲ製造スルトキハ原料醬油ニハ造石稅ヲ課セス

第十五條　第一條第二項ニ該當スル者ハ政府ニ申告スヘシ

第十九條　第一條第二項ニ該當セサル者ニシテ免許ヲ受ケス醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其造石稅ニ應シ第二條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十條中「罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス」トアルヲ「罰金ニ處ス」ニ改ム

第二十一條　第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十六條ヲ犯シタル者第十五條ノ申告ヲ爲サヽル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十六條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其總石數ニ第二條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十二條中「第七條ヲ犯シタル者」ヲ削ル

第二十三條　第一條第二項ニ該當スル者一石ヲ超エテ諸味ヲ仕込ミ又ハ溜ヲ製成シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其總石數ニ第二條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十八條　中「北海道」ヲ削ル

附則

此法律ハ明治三十二年三月一日ヨリ施行シ同日以後ノ査定ニ係ル醬油ニハ其製造著手ノ時期ニ拘ラス此法律ヲ適用ス

此法律施行ノ際醬油製造營業ノ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ此法律ニ依テ製造ヲ免許シタルモノト看做ス

此法律施行ノ際自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ明治三十二年三月二十日マテニ其現在諸味石高ヲ記載シ政府ニ申告スヘシ但明治三十二年ニ限リ第一條第二項ノ制限石數ハ此法律施行後ニ於テ仕込ムモノヽミヲ計算ス

醬油稅則ハ右ノ如キ大改正ヲ受ケタルヲ以テ其施行細則モ亦勢ヒ改定セサルヘカラス是ニ於テカ同年三月六日勅令第四十六號ヲ以テ更メテ醬油稅則施行規則ヲ定メ同月八日大藏省令第四號ヲ以テ醬油稅則細則及同稅則ノ施行ニ關シ從來府縣ニ於テ發シタル命令ハ新施行規則施行ノ日ヨリ廢止シタリ新施行規則ノ全文ハ左ノ如シ

勅令第四十六號（明治三十二年三月六日）

醬油稅則施行規則

第一條　醬油稅則第一條第二項ニ該當スル者ヲ除ク外醬油ヲ製造セムトスル者ハ其ノ製造場及居所氏名ヲ記シ稅務管理局長ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ自家用ノミノ醬油ヲ製造セムトスル者ハ其旨ヲ附記スヘシ

醬油製造場ヲ移轉セムトスルトキハ稅務管理局長ニ申請シテ其ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　醬油稅則第一條第二項ニ該當スル者ハ其ノ居所氏名ヲ記シ稅務管理局長ニ申告スヘシ其ノ醬油製造ヲ廢止シ又ハ居所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

第三條　醬油製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條　醬油製造人ハ其製造場每ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝醬油製造用容器ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ稅務管理局長ニ提出スヘシ前項ノ容器ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ申告スヘシ醬油製造人ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　醬油製造人ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ容器ニ關シ同條第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務管理局長ハ其ノ容器ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニ非サレハ醬油製造人ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

稅務管理局長容器ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ番號其他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スヘシ

第六條　醬油製造人ハ每年見込仕込石數見込査定石數及製造方法ヲ記シ前年十二月中ニ稅務

管理局長ニ申告スヘシ但シ前年ノ製造方法ニ依ルモノハ其旨ヲ申告シ別ニ製造方法ヲ記載スルコトヲ要セス

新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ

前二項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ之ヲ申告スヘシ

第七條　醬油製造人ノ相續人其ノ製造ヲ繼續セムトスルトキハ稅務管理局長ニ申出テ繼續ノ免許ヲ受クヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外醬油製造ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ醬油製造ノ免許ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ前製造人ハ醬油稅則第一條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第八條　醬油ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第九條　醬油ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル醬油ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ醬油又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第十條　醬油ヲ醬油製造ノ原料ニ供セムトスルトキハ醬油ハ製成前溜ハ製成ノ際其ノ石數ノ査定ヲ受クヘシ

前項ニ依リ檢査ヲ受ケタル醬油ヲ製造場外ニ移サムトスルトキハ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第十一條　前條第一項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用シ若ハ前條第一項ノ申告ヲ爲サスシテ其ノ製造場外ニ移シタルトキハ檢定石數ニ依リ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十二條　醬油製造人ハ左ノ場合ニ於テ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一　自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器ヲ製造場外ニ移サムトスルトキ

二　原料用醬油ヲ使用セムトスルトキ

三　諸味又ハ原料用醬油ノ容器ヲ變更セムトスルトキ

第十三條　造石數査定未濟ノ醬油漏溢其ノ他ノ事故ニ依リ減量又ハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第十四條　醬油稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハントスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務管理局長ニ申請スヘシ

第十五條　前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務管理局長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄ヲ認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

第十六條　外國ニ輸出シタル醬油ノ造石稅下戻ヲ請求セムトスル者ハ輸出港稅關ノ檢査濟證明書並輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其ノ他ノ證憑書類ヲ當初ノ輸出港稅關ニ提出スヘシ

第十七條　醬油ヲ製成シタル後其ノ諸味造石數ノ算出ヲ要スルトキハ所轄稅務署管內ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均步合ニ依ル但シ輸出醬油ノ造石稅下戻ノ場合ニ於テハ全國ニ於ケル前半年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均步合ニ依ル

第十八條　溜粕ハ其ノ製成シタル溜ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

第十九條　醬油製造人ハ毎年一月三十一日限リ前年中ニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數

ヲ稅務管理局長ニ申告スヘシ

醬油製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ年一月一日ヨリ廢止ノ日ニ至ルマテニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ其際申告スヘシ

第二十條　醬油製造人ハ醬油製造用原料品ノ受拂醬油ノ仕込製成出入消費ニ關シ詳細ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第二十一條　本令ニ於テ醬油製造人ト稱スルハ醬油製造ノ免許ヲ受ケタルモノヲ謂フ而シテ自家用醬油ニ關シテハ明治三十三年法律第四十三號自家用醬油稅法ノ制定アリタリト雖モ醬油稅則ハ之カ爲メ何等ノ變改ヲ生スルニ至ラス

醬油稅收入額

年度	營業稅	造石稅	合計
明治十八年度	六九、六八七円五〇〇	五七〇、四九一円八六八	六四〇、一七九円三六八
同　十九年度	六三、八〇六九一〇	一、一二四、六〇五八七〇	一、一八八、四一二七八〇
同　二十年度	五七、一二〇〇〇〇	一、一九五、六〇一四三一	一、二五二、七二一四三一
同　二十一年度	五五、四三三〇〇〇	一、三〇四、五五一〇〇〇	一、三五九、九八四〇〇〇
同　二十二年度	五四、四六八〇〇〇	一、二三三、六一〇〇〇〇	一、二八八、〇七八〇〇〇
同　二十三年度	五二、五二二五〇〇	一、一五八、〇二九八二二	一、二一〇、五五二三二二
同　二十四年度	五一、九四五〇〇〇	一、二〇二、一六〇九六九	一、二五四、一〇五九六九
同　二十五年度	五二、一二八七五〇	一、二二四、八八二二九五	一、二七八、〇一一〇四五
同　二十六年度	五三、一〇〇〇〇〇	一、二七九、六九二九二七	一、三三二、七九二九二七
同　二十七年度	五三、〇五五〇〇〇	一、三二九、八二四二四二	一、三八二、八七九二四二
同　二十八年度	五二、五三五〇〇〇	一、四一〇、五三七九七二	一、四六三、〇七二九七二
同　二十九年度	三六、五八七五〇〇	一、五〇七、四三四〇九六	一、五三四、〇二一五九六
同　三十年度	〇	一、五三二、一〇〇七四九	一、五三二、一〇〇七四九
同　三十一年度	〇	一、五三五、五四二八二六	一、五三五、五四二八二六
同　三十二年度	〇	二、四五三、三九二三八八	二、四五三、三九三三八八
同　三十三年度	〇	三、一三三、二五〇二六五	三、一三三、二五〇二六五
同　三十四年度	〇	三、四三九、一五七四六二	三、四三九、一五七四六二
同　三十五年度	〇	三、五三〇、一八五八〇五	三、五三〇、一八五八〇五

（備考）

明治八年以前ニ於ケル醬油稅收入額ハ運上冥加諸雜稅中ニ包含スルヲ以テ之レヲ掲出スルヲ得ス、

第二款　自家用醬油稅

自家用料ノ醬油製造ニ關シテハ明治十八年布告第十號醬油稅則中ニ始メテ規定ヲ設ケ醬油卸小

賣營業者ハ其製造ヲ禁止シ醬油製造人ニシテ自家用醬油ヲ製造スル者ハ一般稅則ニ從ヒ造石稅ヲ徵シ獨リ醬油營業人ニ非スシテ自家用料醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一人ニ付一箇年一斗五升ノ割合ヲ超過スルヲ得サル旨ヲ定メタリ斯クテ明治二十一年勅令第四十七號ヲ以テ醬油稅則ノ改正セラルルヤ從來醬油營業者ニ非サル者ノ自家用醬油製造額制限ニ關スル規定ヲ廢シ之ニ更フルニ自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得サル旨ノ明文ヲ設ケタリ尋テ明治三十二年法律第二十五號ヲ以テ醬油稅則ノ改定セラルヽニ及ヒ自家用醬油製造ニ關スル從來ノ制度ヲ一新シ自家用料ノミノ醬油ヲ製造スル者ニシテ一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其以下ニ止マルモノハ製造免許ヲ要セス政府ニ申告シテ之ヲ製造スルヲ許スト雖モ醬油ハ諸味一石ニ付金一圓溜ハ製成一石ニ付金一圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課スルコトヽセリ是ニ於テ自家用醬油ノ製造ニ對シ新ニ造石稅ヲ課スルノ制ヲ見ルニ至レルナリ

然ルニ明治三十三年第十四期帝國議會ニ於テ衆議院ヨリ自家用醬油稅法案ヲ提出シ議會ノ協賛ヲ經テ明治三十三年三月法律第四十三號ヲ以テ其公布ヲ見ルニ至レリ蓋シ自家用醬油製造ニ關シテ前述シタル如ク明治二十一年勅令第四十七號醬油稅則中ニ規定スル所アリト雖モ檢査其他取締手續等殆ト營業者ト異ナル無ク官民共ニ其煩ニ堪ヘサルノミナラス其收入稅額僅ニ一萬七千餘圓ニシテ却テ徵稅費ヲ要スルモノ多キヲ以テ此弊ヲ除ク爲メ之ヲ獨立ノ法律ト爲シ單易ノ方法ヲ以テ徵稅ノ目的ヲ達セントスルニアリ卽其規定ニ依レハ自家用醬油一箇年五石以下ヲ製造セントスル者ハ政府ノ免許ヲ受ケシメ製造高ニヨリ其種類ヲ四種ニ分チ定額稅ヲ課シ其取締規定ヲ極メテ簡易ナラシメタリ而シテ此法律ニ依リ自家用醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ醬油稅則ノ規定ヲ適用セサルコトヽシタルヲ以テ自家用醬油稅ニ關シテハ醬油稅則及自家用醬油稅法ノ二法並ヒ行ハルヽニ至リ製造者ハ其適用ヲ受クヘキ法律ヲ選擇スルヲ得ルコトヽナレリ自家用醬油稅法ノ全文左ノ如シ

法律第四十三號（明治三十三年三月九日）

自家用醬油稅法

第一條　自家用醬油（溜ヲ併稱ス）一箇年五石以下ヲ製造セントスル者ハ本法ニ依リ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

前項ニ依リ免許ヲ受ケタル製造高ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ同年內ニ於テハ製造高ノ變更ヲ許可セス

第二條　自家用醬油製造免許ハ一家一人ニ限ル

第三條　自家用醬油製造人ハ其ノ製造見積高ニ依リ毎年左ノ製造稅ヲ納ムヘシ

第一種　二石未滿　金一圓
第二種　三石未滿　金二圓
第三種　四石未滿　金三圓
第四種　五石以下　金四圓

第四條　製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年三月ヲ以テ納期トス但シ納期後免許ヲ受クルトキハ卽納トス

第五條　自家用醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ各自ノ居宅域內ニ限リ之ヲ製造スルモノトス

第六條　當該官吏ハ自家用醬油製造者ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第七條　自家用醬油製造者其ノ製造シタル醬油ヲ販賣シ又ハ其居宅域外ニ於テ自家用醬油ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　自家用醬油製造者免許制限ヲ超過シテ醬油ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ醬油稅則第二條ノ造石稅ヲ要ス

前項ノ造石稅ハ卽時之ヲ徵收ス

第九條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第十條　自家用醬油製造者ノ家族、雇人等ニシテ其製造ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十一條　左ニ記載シタル者ニハ本法ヲ適用セス

一　自家用醬油製造者ニシテ一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石以下ニ止マルモノ

二　醬油製造營業人、醬油請賣人

三　料理店、飲食店、旅人宿營業者

四　前三號ノ者ニ同居スル者

本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者前項第二號以下ニ該當スルニ至リタルトキハ本法ニ依ル免許ヲ以テ醬油稅則ニ依ル免許ト看做シ以後製造ニ係ル醬油ニハ同稅則ヲ適用ス但シ其ノ年ノ製造稅ハ之ヲ免除セス

第十二條　本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ醬油稅則ヲ適用セス

附則

第十三條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ノ明治三十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日マテノ間ニ製造シタル醬油ニシテ醬油稅則ニ依リ査定ヲ受ケタル者ニ關シテハ其造石稅ヲ免除ス

第十五條　沖繩縣東京府管下小笠原島、伊豆七島ニハ當分本法ヲ施行セス

自家用醬油稅法ノ制定ニ伴ヒ明治三十三年三月勅令第六十七號ヲ以テ自家用醬油稅法施行規則ヲ公布シ製造免許出願製造廢止其他申告ニ關スル規定ヲ設ケタリ卽左ノ如シ

勅令第六十七號（明治三十三年三月廿四日）

自家用醬油稅法施行規則

第一條　自家用醬油稅法第一條ニ依リ自家用トシテ醬油ノ製造免許ヲ受ケントスル者ハ其居所、氏名、自家用醬油稅法第三條ノ種別及醬油製造方法ヲ記シ稅務管理局長ニ申請スヘシ

第二條　自家用醬油稅法第三條ノ種別ヲ變更セントスルトキハ前年中ニ變更ノ申請書ヲ稅務管理局長ニ差出スヘシ

第三條　自家用醬油製造者其ノ居所、氏名、又ハ製造方法ヲ變更シタルトキハ直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第四條　自家用醬油稅法ニ依リ免許ヲ受ケタル者同法第十一條第二號以下ニ該當スルニ至リタルトキハ其旨直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第五條　自家用醬油ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其旨稅務管理局長ニ申請スヘシ

自家用醬油製造者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人又ハ財產管理人ヨリ其ノ旨稅務管理局長ニ申告スヘシ

而シテ明治三十三年度ヨリ本稅實施後ノ實收額ハ左表ニ示ス所ノ如シ

自家用醬油稅收入額

年度	金額
明治三十三年度	二〇、六〇四円〇五〇
同　三十四年度	二四、八六八〇〇〇
同　三十五年度	二五、〇四三五九〇

第九節　煙草稅

第一款　煙草稅ノ第一期

維新以前ニ在リテハ煙草ニ對スル一定ノ稅則ヲ存セス所在適宜ヲ以テ或ハ冥加金ト稱シ或ハ運上銀ト稱シテ之カ課稅ヲ爲セルモノアルニ過キサリシナリ明治維新ノ世トナルニ及ヒテモ各地舊制ヲ因襲シ未タ全國畫一ノ制度ヲ見ルニ至ラス其之アルハ實ニ明治九年以降ノ事ニ屬ス抑々煙草ハ課稅物件トシテ頗ル恰好ナルモノナルヲ以テ之カ租稅制度ヲ確立スルハ將來膨脹スヘキ國家歲計ノ財源タル上ニ緊要ナルヲ認メタルト又一ハ之ニヨリテ以テ各府縣人民ノ負擔ヲ均一ニセントノ主意ヨリシテ明治六年ノ頃煙草稅則制定ノ議盛ニ行ハレ明治八年二月ニ至リ太政官布告第二十五號ヲ以テ從來舊慣ニ依リ徵收シ來レル諸種ノ雜稅ヲ廢止スルト同時ニ布告第二十八號ヲ以テ煙草稅新設ノ旨ヲ公布シ同年十月布告第百五十號ヲ以テ煙草稅則ヲ公布セラレ同九年一月一日以降施行セラルヽコトヽナレリ今其概要ヲ述フレハ煙草稅ヲ分テ煙草營業稅及製造煙草印紙稅ノ二種トナシ前者ハ煙草營業者ニ對シ卸賣營業稅一箇年拾圓小賣營業稅一箇年五圓ノ定額稅ヲ賦課スルモノニシテ後者ハ製造刻煙草ニ對シテ價格ニ比例シ課稅シ印紙貼用法ニ依リ徵稅スルコトヽセリ布告全文左ノ如シ

布告第二十八號（明治八年二月二十日）

煙草ノ儀來ル明治九年一月一日ヨリ課稅可致候條此旨布告候事

但稅則ノ儀ハ追テ可及布告候事

布告第百五十號（明治八年十月四日）

煙草課稅ノ儀本年二月第二十八號ヲ以テ布告ニ及ヒ置候處右稅則別紙ノ通相定來明治九年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

煙草稅則

第一則　煙草營業稅

第一條　煙草賣買營業ノ者ハ其管廳ヘ申出營業鑑札ヲ受ケ年々左ノ通稅納致スヘキ事

但煙草耕作人ニシテ自作ノ煙草ヲ煙草賣買營業人ヘ賣渡ス而已ニテ煙草ヲ請賣セサル者並ニ葉煙草ノ儘取扱者ハ此限ニ非ス

煙草卸賣營業稅　一箇年　金拾圓

煙草小賣營業稅　同　金五圓

但卸賣トハ煙草商人ヘ賣渡スヲ云フ又小賣トハ自用（自己ノ所用ニ供シ賣用ニ致サヽルモノ）ノ人ヘ賣渡スヲ云フ

第二條　卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣營業鑑札願出受クルニ及ハスト雖モ小賣營業鑑札ヲ受ケ卸賣ヲ兼候儀ハ不相成候事

第三條　最初營業鑑札下渡候節爲手數料金二拾錢相納ムヘキ事

第四條　營業鑑札ヲ受ケタル煙草商人ヘハ仕入鑑札其管廳ヨリ相渡候條煙草買入ノ節ハ必ス相携ヘ可申右鑑札料ハ一枚ニ付金拾錢ツヽ相納ムヘキ事

但仕入鑑札一戸一枚ニ限リ候儀ニ無之素ヨリ買入ノ節必携ノ品ニ付何枚ニテモ入用丈願ニ依テ相渡スヘキ事

第五條　營業稅上納ノ儀ハ年ニ兩度ニ區別シ半ケ年分宛區戸長ヘ取集メ其管廳ヘ可相納事

但其年前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ其管廳ヘ可相納候事

第六條　新營業免許ノ者六月以後ハ半年分營業免許ノ節直ニ營業稅相納廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

但廢業ノ者ハ其節直ニ營業鑑札仕入鑑札トモ返納致スヘキ事

第七條　營業鑑札若シ水火盜難過誤等ニテ失却候節ハ其旨管廳ヘ屆出新規鑑札申受ヘキ事

但爲手數料金貳拾錢相納ムヘキ事

第八條　營業鑑札仕入鑑札ハ貸借決シテ不相成候事

但改名代換轉居ノ節ハ其旨管廳ヘ申立候ハヽ鑑札引換可相渡尤前條手數料二十錢相納ムヘキ事

第九條　卸賣營業ノ者ハ煙草卸賣所ト書記シ又小賣營業ノ者ハ煙草小賣所ト書記シタル看板ヘ免許鑑札ノ番號書加ヘ戸外ニ揭クヘキ事

但卸賣小賣ヲ兼候者ハ煙草卸小賣所ト書記シ看板ヲ揭クヘキ事

第二則　製造煙草印稅

第一條　製造煙草ハ（玉作箱詰紙包東作疊ノ紙等）各種ノ大小斤目ニ不拘自用ノ人ヘ賣渡ス節ハ總テ其代價ニ從ヒ煙草印紙貼用ノ上賣出スヘキ事

但葉煙草ハ總テ印紙相用ユルニ及ハサル事

第二條　製造煙草印紙種類並定價左ノ通候事

長印紙（二十五切全紙一枚）　定價二錢五厘

印紙　同　五厘

印紙　同　壹錢

印紙　同　五錢

印紙　同　拾錢

第三條　製造煙草印稅割合左ノ如シ

煙草代價五錢未滿	印稅一厘但印紙
同五錢以上十錢未滿	同　五厘
同十錢以上二十錢未滿	同　壹錢
同二十錢以上三十錢未滿	同　二錢
同三十錢以上四十錢未滿	同　三錢

右以上總テ之ニ準シ印稅增加スヘシ

第四條　煙草印稅貼用方畧圖ノ如ク貼用致スヘキ事

第五條　煙草印紙ハ煙草印紙賣捌所ト大書シ官ノ燒印アル看板ヲ揭クル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止ノ事

第六條　仕入鑑札所持ノ煙草商人ヘ賣渡ス製造煙草ニ限リ印紙貼用ニ及ハス其仕入鑑札ヲ證トシテ賣渡スヘシ尤鑑札所持致ササル者ヘハ無印紙ノ製造煙草決シテ賣渡不相成事

第三則　賞罰例

第一條　卸賣營業鑑札ヲ受ケス營業致候者ハ一ヶ年營業稅ノ七倍科料可申付事

第二條　卸賣營業鑑札借受營業致候者ハ前條同樣ノ科料申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一ヶ年營業稅ノ五倍科料可申付事

第三條　小賣營業鑑札ヲ受ケス營業致候者ハ一ヶ年營業稅ノ五倍科料可申付事

第四條　小賣營業鑑札ヲ借受營業致候者ハ前條同樣ノ科料申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一箇年營業稅ノ三倍科料可申付事

第五條　仕入鑑札所持致サスシテ無印紙製造煙草ヲ買受候歟又ハ右所持致ササル者ヘ無印紙製造煙草賣渡スモノハ各脫稅高ノ二十倍宛科料可申付事

第六條　仕入鑑札借受候者並貸渡候者ハ其鑑札取上ケ枚數ニ應シ鑑札料ノ十倍宛科料可申付事

第七條　煙草印紙ヲ用ユヘキ製造煙草ニ印紙ヲ貼用セス自用ノ人ヘ賣出ス者ハ脫稅高ノ二十倍科料可申付事

第八條　煙草印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ減稅高ノ十倍科料可申付事

第九條　官許印紙賣捌所ノ外ニ於テ煙草印紙賣捌致ス者ハ其品取上ケ既ニ賣捌タル印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ印紙代五十倍科料可申付事

第十條　一旦相用ヒタル煙草印紙ヲ剝取リ再用スル者或ハ之ヲ賣買スル者ハ六十圓以下ノ科料可申付事

第十一條　煙草印紙ヲ贋造スル者又ハ贋造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ科料可申付事

第十二條　前數條ニ揭クル處ノ犯則人ヲ見屆ケ訴出ル者アルトキハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其科料金ノ半高相與候事

（圖略）

右煙草稅則ノ制定ニ伴ヒ同年十月大藏省達乙第百四十一號ヲ以テ同法施行ニ關スル細則ヲ定メ之ヲ公布セリ卽チ左ノ如シ

大藏省達乙第百四十一號（明治八年十月二十八日）

今般第百五十號ヲ以煙草稅則御發令相成候ニ付テハ煙草印紙並卸賣營業免許鑑札ハ凡積ヲ以租稅寮ニ受取方可申出候事

一 煙草仕入鑑札ハ第一號圖ノ如ク各廳ニ於テ木札ヲ製シ相渡シ可申候事

但本文鑑札失却スル歟又ハ改名代換等ニテ引換願出候ハハ更ニ鑑札相渡シ定期ノ鑑札料金拾錢收入致スヘキ事

一 煙草印紙賣捌所ハ各管內ニ於テ一町又ハ一區等ニ壹ヶ所或ハ貳ヶ所適宜取設ヶ尤身元慥ナル者相選ミ賣捌方可申付若シ望入無之場所ハ區戶長ノ中ヘ申付印紙買取方差支無之樣取計可申事

一 印紙代金後納ノ賣捌人ハ水火盜難其他何樣ノ引負出來候共印紙代金相違ナク辨償スヘキ旨慥ナル證人爲相立戶長連印ノ證書取置可申事

但卽金納ノ賣捌人ト雖モ戶長奧印アル受書取置可申且非常ノ災害ニ罹リ印紙ヲ損失シ其事情慣察スヘキモノハ其時々具狀處分ヲ乞フヘキ事

一 賣捌人ノ中印紙代金卽納ノモノハ申立ニ任セ印紙下ヶ渡シ同後納ノモノハ一個一度ニ代金三百圓ヲ限リ印紙下渡スヘキ事

一 前同斷印紙代金卽納ノモノハ印紙賣捌金高十分ノ一同後納ノモノハ同金高百分ノ四手數料トシテ支給スヘキ事

一 賣捌人廢業ノ節ニ限リ賣捌殘ノ印紙ハ返納聞屆不苦尤卽金納ノ者ハ返納印紙代金全額返戻致シ最前支給ノ手數料ハ返上セル印紙相當更ニ返納可爲致事

但印紙摺損シ又ハ染付等有之モノハ返納不相成候事

一 賣捌所ノ看板ハ第二號圖ノ如ク相製シ可下渡事

一 賣捌人ノ支給スヘキ印紙賣捌手數料ハ豫備金ヨリ繰換其都度支給シ追テ別途受取方可申出事

一 賣捌人ヨリ相納候煙草印紙稅並營業稅手數料等ハ每月月末取纏メ其日ヨリ日數十五日以內ニ該地ヲ差立租稅寮ヱ相納年々六月十二月ヲ限リ第三號雛形ノ計算表ニ揭ケ一七月十五日限リ該地ヲ差立租稅寮ヘ可差出事

一 營業鑑札元拂ハ年々六月十二月ヲ限リ第四號雛形ノ計算表ニ揭ケ一七月十五日限該地ヲ差立租稅寮ヘ可差出事

但廢業並ニ引換ノ舊鑑札ハ本文計算表ニ添ヱ租稅寮ヘ返納可致事

右煙草稅則ノ規定ニ依レハ葉煙草ニハ印紙稅ヲ課セサルコトヽナシタリシカ是レ畢竟其海外輸出ヲ妨ケサラントスルニ出テタルカ如シ而シテ此稅則ハ後幾許モナク同年十一月十日太政官布告第百六十五號ヲ以テ第一則第一條中ニ改正ヲ加ヘ左ノ如ク之ヲ公布セリ

布告第百六十五號（明治八年十一月十日）

本年第百五十號布告煙草稅則第一則第一條中並ニ葉煙草ノ儘取扱ヒ候者ノ十二字ヲ刪除シ同

則第八條但書左ノ通改正候條此旨布告候事

但改名代換轉居等ノ節ハ其旨管廳ヘ申立候ハヽ鑑札引換可相渡手數料トシテ營業鑑札ハ金貳拾錢仕入鑑札ハ金拾錢相納ムヘキ事

蓋シ其第一則第一條中ニ改正ヲ行ヒタル所以ハ一方ニハ製造煙草ヲ取扱フ小商人ハ營業稅ノミナラス印紙稅ヲモ課徵セラルヽニ他方ニ於テハ葉煙草ノ儘取扱フ問屋ノ如キ巨商ニシテ尙ホ營業稅ヲモ賦課セラレサルカ如キハ彼是權衡ヲ失スルヲ以テナリ而シテ其第八條但書ヲ改正シタル所以ハ從來ノ規定ニヨレハ營業鑑札仕入鑑札共ニ手數料トシテ貳拾錢ヲ徵スルモノヽ如シト雖モ元來仕入鑑札ノ下渡ハ其手數料トシテ金拾錢ツヽヲ徵スルモノニシテ本條ノ場合モ亦之ヲ拾錢ト爲スヲ以テ適宜ト認ムヘキヲ以テナリ尋テ造煙草印紙ノ樣式ヲ定メ同月二十八日第二百五號布告ヲ以テ煙草稅則第二則第四條ヲ改メテ「煙草印紙貼用方略圖ノ如ク賣主ニ於テ印紙貼用シ其全面ノ中心ヨリ端ニ掛ケ實印或ハ仕切印ヲ押スヘシ」ト爲シ尙ホ其略圖ヲモ改正セリ是レ印紙稅ヲ施行スル以上ハ固ヨリ當然ノ處置ナリトス

明治九年四月布告ヲ以テ煙草稅則第一則第十條及第三則第十三條ヲ追加シテ出賣鑑札ヲ創定セリ蓋シ從來規定スル處ノ仕入鑑札ハ葉煙草並ニ製造煙草仕入ノ際之ヲ携帶シ又營業免許鑑札ハ居商ニ於テ免許ノ證明ヲ爲スモノニシテ行商ノ場合ニ於ケル免許ノ證明ヲ缺キ取締上不都合勘カラサルヲ以テナリ而シテ其追加ノ條規ハ左ノ如シ

布告第五十九號（明治九年四月二十六日）

明治八年十月第百五十號布告煙草稅則第一則並ニ第三則ヘ左ノ通追加候條此旨布告候事

第一則 煙草營業稅

第十條 營業鑑札ヲ受タル煙草商人ヘハ出賣ノ爲メ願ニ任セ出賣鑑札其管廳ヨリ相渡候條出賣ノ節ハ必ス相携ヘ可申右鑑札料ハ一枚ニ付金拾錢ツヽ相納ムヘシ尤右營業商人一名一枚ニ不限何枚ニテモ可相渡事

但遺失其外改名代換轉居ノ節ハ鑑札引換相渡候條手數料トシテ更ニ金拾錢相納ムヘシ

第三則 賞罰例

第十三條 出賣鑑札ノ貸借ハ不相成借受並貸渡シタル者ハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑札料十倍ノ科料申付ヘシ右鑑札ヲ所持セスシテ出賣ヲ爲ス者ハ鑑札二十倍ノ科料可申付事

然ルニ從來ノ規定ニヨレハ印紙ハ煙草賣渡ノ時ニ貼用スヘキ例ナリシカ之レ畢竟消費者ヲシテ成ルヘク直接ニ之ヲ負擔セシメ營業者ニハ單ニ貼用ノ勞ヲ取ラシムルノ主意ニ出テタルモノナルヘシト雖モ小賣營業者カ消費者ニ賣渡ヲ爲スノ瞬間ニ此ノ如キ手數ヲ厭フハ勿論無印紙販賣ノ發覺スル患ナキヲ以テ印紙ヲ貼用スルモノ甚タ稀ニシテ且ツ需要者モ直ニ代價ニ影響アルヲ察シ無印紙ノ煙草ヲ求ムルノ情切ナルニ至リシヲ以テ小賣業者ハ印紙貼用ノ有無ニ依リテ煙草ノ代價ヲ高低スルモノアルニ至レリ是ニ於テカ明治十年二月三日布告第十四號ヲ以テ煙草印紙貼用方ニ關スル規則ヲ發布シテ賣渡前豫メ印紙ヲ貼用セシメ臨時官吏ヲ派シ以テ厳ニ之カ實行ヲ監視スルコトヽ爲セリ其條規ハ左ノ如シ

布告第十四號（明治十年二月三日）

一 製造煙草ノ儀ハ自用ノ人ヘ賣渡ス節印紙貼用可致成規ニ有之候處爾來自用人ノ購求ニ宛

テ候製造煙草ハ前以テ印紙貼用致シ可申尤臨時官員派出調査候儀可有之事

一 證券印稅規則中賣買品ニ關スル證書類ハ諸帳簿調査ノ振合ニ準シ官員巡回調査候儀可有之事

同月七日第十五號布告ヲ以テ煙草稅則ヲ改正シ第一則第一條但書中「煙草賣買營業人ニ」ノ八字ヲ刪除セリ蓋シ自用ノ徒ヲシテ煙草耕作人ニ就キ葉煙草ヲ購求スルノ便宜ヲ得セシムルニ在リ然ルニ又煙草ノ卸小賣兼業者ニシテ往々卸賣ニ供スルノ辭柄ニヨリ無印紙ノ儘製造煙草ヲ店頭ニ展示スル者アリテ實地調査ノ際卸賣品ト小賣品ノ區別ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ同年十二月七日大藏省達甲第三十四號ヲ以テ印紙貼用方ヲ達示シ兼業者ト雖モ店頭ニ展示スル製造煙草ニハ總テ印紙ヲ貼用スヘキモノト爲セリ

第二款 煙草稅ノ第二期

前款述フル處ノ如ク明治八年十月布告第百五十號煙草稅則ハ明治九年一月以降實施セラレ爾來幾度カ布告又ハ達示ヲ發シテ印紙稅ノ逃稅ヲ防キタリシト雖モ遂ニ其目的ヲ達スルコト能ハスシテ實施以來明治十五年ニ至ル七年間ノ煙草稅歲入平均貳拾四五萬圓內營業稅約貳拾萬圓ヲ控除スレハ印紙稅ハ實ニ僅々四五萬圓ニ過キス營業者ハ逐年增加ノ傾ヲ有スルニ拘ラス其稅額ハ動モスレハ却テ減退ノ虞ナキニアラス是レ畢竟營業稅ハ鑑札ヲ以テ免許ノ證ト爲セシヲ以テ毫モ脫稅ノ患ナキニ拘ハラス印紙稅ニアリテハ盛ニ逃脫ノ行ハレタルコトヲ證明スルモノナリ是ニ於テカ明治十五年ニ至リ大ニ印紙稅賦課ノ方法ヲ講究シ一旦省議煙草證書用紙ヲ發行シ直買人ヲシテ煙草買入ノ節該受取證書用紙ニ其買入煙草ノ量目ニ從ヒ煙草印紙ヲ貼用シ之ヲ賣渡人ニ授與セシメ以テ印紙稅ヲ徵收スルノ制ヲ採ルニ決定シタリシト雖モ其實行頗ル困難ナルモノアルヲ以テ之ヲ廢棄シ更ニ刻煙草ヲ製造スルトキハ印紙ヲ貼用セシメ不貼用ノ製造煙草ハ一切取引ヲ禁スルコトヽシ以テ其貼用方ノ取締ヲ一層嚴密ニ爲シタリ且ツ當時恰モ歲入增加ノ必要アリタルヲ以テ一方ニ印稅逃脫ヲ防クト共ニ更ニ稅率ヲ增加シテ國家歲入上ノ必要ニ應セントシ稅則ヲ改正セリ是レ卽チ明治十五年十二月二十七日第六十三號布告ノ煙草稅則ニシテ此稅則ハ翌明治十六年七月一日ヨリ實施セラルヽコトヽナレリ其全文ハ左ノ如シ

布告第六十三號（明治十五年十二月二十七日）

明治八年十月第百五十號布告煙草稅則別紙ノ通改定シ來十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年二月第十四號布告第一項ハ廢止ス

煙草稅則

第一章 煙草營業

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

煙草仲買人

煙草小賣人

第二條 刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者ヲ煙草製造人トス但賃銀ヲ受ケテ他ノ製造人ノ煙草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條　未製造ノ煙草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者ヘ賣渡シ及製造煙草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者ヘ賣渡ス者ヲ煙草仲買人トス

第四條　製造煙草ヲ自用者ヘ賣捌ク者ヲ煙草小賣人トス

第二章　營業鑑札

第五條　煙草營業者ハ管轄廳ヘ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但製造仲賣人及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受クヘシ

第六條　煙草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶ス可シ

第七條　煙草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料	壹枚ニ付	金貳拾錢
煙草仕入鑑札料	壹枚ニ付	金拾錢
煙草出賣鑑札料	壹枚ニ付	金拾錢

第八條　鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ之ヲ管轄廳ニ屆出其再渡又ハ書換ヲ請フ可シ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

第九條　營業人廢業スルトキハ管轄廳ヘ屆出鑑札還納スヘシ

第十條　鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三章　營業稅

第十一條　煙草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ

但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ

煙草製造營業稅	壹箇年	金拾五圓
煙草仲買營業稅	壹箇年	金拾五圓
煙草小賣營業稅	壹箇年	金五圓

第十二條　煙草營業稅ハ年年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ム可シ

第四章　印稅

第十三條　煙草製造人刻煙草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又箱詰ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用フ可シ

量目	印稅（卸賣定價百匁ニ付二十五錢未滿ノ分）	同（卸賣定價百匁ニ付二十五錢以上五十錢未滿ノ分）	同（卸賣定價百匁ニ付五十以上ノ分）
五匁	二厘	三厘	四厘
十匁	四厘	六厘	八厘
十五匁	六厘	九厘	一錢貳厘
二十匁	八厘	一錢二厘	一錢六厘
三十匁	一錢二厘	一錢八厘	二錢四厘
五十匁	二錢	三錢	四錢
百匁	四錢	六錢	八錢

第十四條　刻煙草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ヘカケ

製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印スヘシ

第十五條 刻煙草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以テ結束スヘシ

第十六條 刻煙草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第十七條 外國ヘ輸出スル煙草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戾稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下附ス可シ

第十八條 煙草印紙ノ種類價格左ノ如シ

印紙帶印紙	黑色	一枚	二厘
同	淡赭色	同	三厘
同	黃色	同	四厘
同	赭色	同	六厘
同	萠黃色	同	八厘
同	淡青色	同	九厘
同	茶褐色	同	一錢二厘
同	淡紅色	同	一錢六厘
同	桔梗色	同	一錢八厘
同	橙黃色	同	二錢
同	老綠色	同	二錢四厘
同	濃青色	同	三錢
同	黃綠色	同	四錢
同	紫色	同	六錢
同	赤色	同	八錢

第十九條 煙草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條 印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章 雜則

第二十一條 刻煙草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

第二十二條 煙草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條 煙草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

煙草製造人
煙草製造帳
煙草仲買人
煙草買入帳 煙草賣渡帳
煙草小賣人

煙草買入帳

第二十四條 煙草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス每ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條 印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條 煙草營業者ハ煙草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條 煙草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ煙草買入高賣捌高製造高並印紙買入高及六月三十日ノ煙草並印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ屆出ツ可シ

第二十八條 印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高並買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ屆出ツ可シ

第二十九條 煙草營業者ハ營業ノ標札ヲ戸外ニ掲出ス可シ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條 印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 未製造ノ煙草ハ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ又同シ

第六章 檢査

第三十二條 煙草營業者ノ帳簿及其所持ノ煙草ハ主任官隨時之ヲ檢査ス可シ

第三十三條 檢査官吏ハ檢査ノ時官ノ印章ヲ携帶シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章 罰則

第三十四條 營業鑑札ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲ス者ハ營業稅逋脫ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ煙草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十五條 煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徵ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脫稅ヲ謀リ若クハ脫稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ屆書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ買受タル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十八條 第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ尙ホ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十九條 管轄廳ノ許可ヲ得スシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 未製造ノ煙草ヲ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第十三條ノ煙草裝置區分ニ違フ者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯

罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第四十二條　鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　煙草自用者ニシテ未製造ノ煙草又ハ無印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條　第八條第九條第二十七條第二十八條ノ屆出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條　第八條第九條第二十七條第二十八條ノ屆出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條　第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條　煙草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

斯クテ明治十六年四月大藏省達第二十號ヲ以テ煙草稅則取扱心得書ヲ公布シ免許鑑札並ニ煙草印紙取扱ニ關スル細則ヲ定メタリ左ノ如シ

大藏省達第二十號（明治十六年四月十七日）

客歲十二月第六十三號布告ヲ以テ煙草稅則改定相成候ニ付取扱心得方別紙ノ通相定候條此旨相達候事

煙草稅則取扱心得書

第一項　煙草營業免許鑑札幷煙草印紙ハ其員數ヲ見積リ租稅局ヨリ之ヲ受取ルヘシ

但煙草印紙ノ受拂ハ總テ證劵印紙ノ例ニ準スヘシ

第二項　煙草仕入鑑札出賣鑑札煙草印紙買入鑑札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ府縣廳ニ於テ調製シテ之ヲ下渡ス可シ

（雛形略）

第三項　稅則第三十二條煙草稅檢査手續ハ府縣廳ニ於テ相定メ大藏省ヘ屆出可シ

但改正變更等ハ其時時本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第四項　稅則第三十三條檢査官吏ノ携帶スヘキ印章ハ左ノ雛形ニ倣ヒ府縣廳ニ於テ調製ス可シ

（雛形略）

第五項　左ノ諸表ハ別紙雛形ニ照準每半期之ヲ調製シ各翌月二十五日限差立租稅局ヘ送付スヘシ

煙草營業稅表

煙草印紙稅表

煙草印紙受拂計算表

煙草營業稅鑑札受拂計算表

煙草仕入出賣印紙買入鑑札下渡高計算表

（雜形略）

煙草稅則ノ改定ニ伴ヒ明治十六年五月太政官布達第十六號ヲ以テ煙草印紙ノ樣式ヲ定メ同年六月四日布達第十八號ヲ以テ稅則心得方左ノ如ク達示セリ

太政官布達第十八號（明治十六年六月四日）

明治十五年十二月第六十三號布告煙草稅則本年七月一日ヨリ施行候ニ付左ノ通心得ヘシ

煙草仲買人小賣人ニシテ稅則施行前ヨリ製造煙草ヲ所持スル者ハ本年限リ其所持人ニ於テ稅則第十三條ニ據リ印紙ヲ貼用スルヲ得但此場合ニ於テハ所持人ハ稅則第二十一條ノ製造人ニ準シ自己ノ氏名住所ヲ附記スヘシ

稅則施行前既ニ裝置セル製造煙草ハ本年限リ其裝置ノ儘賣捌コトヲ得尤稅則第十三條ニ照シ不足ニ係ル印紙ハ增加貼用スヘシ

印紙ハ舊長印紙及ヒ拾錢印紙ヲ除クノ外當分新舊取交セ使用スヘシ

舊長印紙及ヒ拾錢印紙ハ印紙賣捌所ニ就テ引換ヲ乞フヘシ

蓋シ新法ニ於テハ印紙ハ總テ製造人ニ於テ貼用スヘキヲ以テ新法施行ヨリ仲買人小賣人ニ於テ買入所持スル分ハ一旦製造人ニ返戻シテ印紙ヲ貼用セシムヘキモノナリト雖モ或ハ取引上轉々數人ノ手ニ涉リテ製造人ノ分明ナラサルアリ或ハ製造人分明ナルモ土地遠隔等ニテ運送ノモノモ亦之ナキニアラサルヲ以テ明治十六年內ニ限リ其所持人ニ於テ印紙ヲ貼用シ得ルコトヽ爲シ又舊法ニヨリ裝置セシ煙草ハ此際新法ニヨリ改裝セサルヘカラスト雖モ此ノ如クンハ舊法ニヨリ貼用セシ印紙ハ皆無用ニ歸シ穩當ナラサルヲ以テ姑ク新舊稅率ヲ對比シ舊裝ノ儘不足ノ印紙ヲ增貼シテ販賣セシメ尙又舊法印紙ノ如キモ當分之カ併用ヲ許スコトヽ爲シタルナリ又同月第二十號布達ヲ以テ改定稅則取扱心得方ヲ示達セリ是レ稅則解釋ノ誤謬ヲ防キ併セテ稅則第二十條ニ所謂印紙貼用ノ細則ヲ定メタルモノニシテ其全文ハ左ノ如シ

太政官布達第二十號（明治十六年六月十一日）

明治十五年十二月第六十三號布告煙草稅則中左ノ通心得ヘシ

第一項　稅則第二條製造人ハ未製造ノ煙草ヲ耕作人又ハ仲買人ヨリ買入レ之ヲ製造シ仲買人又ハ小賣人ヘ賣渡スヲ云フ

第二項　稅則第三十一條煙草營業者トアルハ製造人仲買人ノミヲ云フ

第三項　稅則第二十條煙草印紙ノ貼用ハ雜形ノ通之ヲ貼用シ其價格及量目ヲ附記スヘシ帶印紙ハ結束ノ上兩端ニ餘紙アルモ之ヲ截斷スヘカラス

第四項　稅則第二十一條製造人ノ氏名住所ハ箱詰紙包ハ其見易キ箇所帶印紙ハ其印紙彩紋ノ側面ヘ記載スヘシ

第五項　稅則第十四條煙草印紙ノ消印ハ七分以上ノモノヲ用ヰ墨肉ヲ以テ押捺スヘシ

第六項　稅則第十七條ニ據リ輸出煙草ノ戾稅ヲ請フ者ハ第十三條ノ印稅區別ニ依リ裝置種類ヲ分チ箇數量目及ヒ印紙稅金額ヲ仕譯ケタル書面ヲ以テ其輸出港ノ稅關ヘ出願シ檢査ヲ受クヘシ

第七項　稅則第二十三條ノ帳簿ニハ左ノ件々ヲ記載スヘシ

製造人
煙草製造帳　年月日種類及定價其製造煙草何程何菜コリ買入レ何程ニ製造シ量日何數代價及賣渡ノ數等ヲ記スヘシ
仲買人
煙草買入帳　年月日種類價格量日及賣主ノ氏名住所ヲ記スヘシ但未製造煙草トハ製造煙草トハ帳簿若クハ記入日譯ヲ異ニスヘシ以下之ニ準ス
同
煙草賣渡帳　年月日種類價格量日及買主ノ氏名住所ヲ記スヘシ但書前ニ仝シ
小賣人
煙草買入帳　未製造品買入ノコトヲ除クノ外總テ買入ノ帳簿ト同シ

第八項　稅則第二十七條第二十八條ノ屆出ヲ爲ストキハ第二號雜形ニ倣ヒ之ヲ調製スヘシ

第九項　稅則第二十九條營業人ノ標札ハ第三號雜形ニ倣ヒ各自之ヲ調製スヘシ

第十項　煙草製造人ハ其製造所及ヒ器械ノ員數增減共其時々管轄廳ヘ屆出ヘシ但シ賃切リニ付スルモノハ其賃切人ノ氏名住所並使用スル器械ノ員數及增減共其時々管轄廳ヘ屆出ヘシ

第十一項　仲買人小賣人ニシテ裝置煙草ヲ五匁以下崩賣ニ爲ストキハ稅則第十五條ニ據リ結束スヘシ但此場合ニ於テハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏名住所ヲ附記スヘシ

然ルニ新法施行以前ニアリテハ製造煙草裝置ノ量目ハ營業者ノ適宜ニシテ印紙ノ貼用ハ價格ノ高低ニヨリ差等ヲ立ツヘキ成規ナルヲ以テ各地方ノ慣習ニ從ヒ數種ノ量目ニ裝置シテ販賣ヲ爲シタリシニ改正法ニ於テハ量目區別ヲ五匁十匁十五匁二十匁三十匁五十匁百匁ノ七段ニ限リタルヲ以テ多少ノ不便ナキ能ハス就中普通玉造ヲ爲スニハ八十匁ヲ以テ下玉トシ四十匁ヲ半玉ト指稱スルコト舊來ノ慣行ナリシニ改正稅則量目區別中之ニ適應スルノ量目ナキヲ以テ百匁五十匁ニ改裝セハ從來ノ慣習ニ違ヒ且ツ價格ニ影響シ隨テ販路ヲ狹縮セシムルノ嫌アルヲ以テ同年十二月十二日第四十一號布告ヲ以テ煙草稅則中左ノ如ク追加セリ

布告第四十一號（明治十六年十二月十二日）

明治十五年十二月第六十三號布告煙草稅則中左ノ通追加ス

第十三條

三十匁ノ次ヘ

四十匁　一錢六厘　二錢四厘　三錢二厘

五十匁ノ次ヘ

八十匁　三錢二厘　四錢八厘　六錢四厘

第十八條

同濃青色ノ次ヘ

同淡黑色　同三錢二厘

同黃綠色ノ次ヘ

同鬱栗色　同四錢八厘

同紫色ノ次ヘ

同朱色　同六錢四厘

尋テ同月二十八日布告第四十號ヲ以テ煙草印紙改正ニ伴フ印紙ノ樣式ヲ定メタリ

曩キニ同年六月第十八號布達ヲ以テ改定稅則施行前ヨリノ裝置ノ製造煙草ヲ所持スルモノハ明治十六年限舊裝置ノ儘賣捌クコトヲ得セシメタリシカ同年十二月二十五日第三十九號ヲ以テ更ニ之ヲ延期シ翌十七年六月三十日マテ賣捌クコトヲ得セシメ其後稅則ノ施行上外國人トノ關係ニ就テ疑義ヲ生シ東京府ヨリ三箇條ヲ擧テ伺出ツル所アリ大藏省ハ參事院ニ其指揮ヲ求メテ左ノ如ク指令ヲ與ヘタリ

東京府ヨリ大藏省ヘ伺（明治十六年八月二十五日）

第一條　稅則第三十一條未製造ノ煙草ハ煙草營業者ニ非ラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス云々トハ有之候ニ付テハ居留ノ外國人ヘモ販賣不相成義ト心得可然哉

第二條　未製造煙草ヲ耕作人仲買人ニ於テ外國ヘ輸出スルハ不苦儀候哉

第三條　未製造煙草ヲ製造仲買人ニ於テ（製造人ハ未製造及製造煙草仲買共）外國人ヨリ買入レ候分ハ該品ニ對スル輸入稅ハ已ニ納濟ト雖モ稅則ニ從ヒ印紙貼用爲致候儀ト相心得可然哉

右伺候條至急何分ノ御指揮相成度候也

大藏省ヨリ東京府ヘ指令（明治十七年四月十五日）

第一條　未製造煙草ヲ居留ノ外國人ヘ販賣スルハ稅則第三十一條ヲ以テ論スルノ限リニ在ラス

第二條　申出ノ通

第三條　輸入ノ煙草ハ印紙貼用ノ限ニ在ラス

蓋シ此指令ノ理由トスル處ハ之ヲ當時外務省ヨリ參事院ヘノ回答ニヨリテ案スルニ未製造ノ煙草ヲ直輸出シ或ハ直販賣スルヲ禁スルトキハ英國倫敦約定中ノ個條澳國條約第十三條及英國條約第十四條等ノ旨趣ニ牴觸シ又既ニ外國ニ於テ製造シタル煙草ハ之ニ課稅スヘカラサルハ勿論輸入ノ未製造煙草ヲ剻ミ販賣スルニ方リ我印紙ノ貼用ヲ要スルトスルモ亦英國條約第十六條及澳國條約第八條ノ旨趣ニ牴觸スルモノト解セルニ由ルナリ又以テ如何ニ當時名ヲ彼ニ借リテ種々ノ弊害ヲ生シタリシカ又如何ニ之ニヨリテ逋稅ノ奸詐ヲ釀成シタリシカ隨テ又如何ニ當時ノ不完全ナル條約カ我國課稅上ニ妨害ヲ與ヘタルヤヲ知ルヘシ同年六月十日大藏省達第三十九號ヲ以テ煙草稅則第六條ニ所謂雇人トハ雇主ノ家ニアルモノニ限ル旨ヲ達示セリ是レ從來單ニ雇人トアルノミニテ其資格ニ何等ノ制限ヲ付セサリシカ爲メ濫リニ雇人ノ名義ヲ假リテ煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ之ニヨリテ以テ脫稅ヲ謀ルノ徒少カラサリシカ故ナリ

斯クテ明治十八年六月三日大藏省達第二十七號ヲ以テ明治十六年大藏省達第二十號煙草稅則取扱心得書第四項ヲ刪除シ同月十六日煙草營業人廢業ノ際ノ取扱方ヲ訓示セリ卽左ノ如シ

大藏省訓示（明治十八年六月十六日）

煙草營業人廢業セントスル時ハ其所持ノ煙草ヲ廢業前ニ於テ悉皆賣捌クヘキハ勿論ノ處萬一不得已事故アリテ猝ニ廢業スル時ハ營業中ノ殘煙草ハ五十日以內相當ノ日限ヲ定メ左ノ區分限リ賣渡スヘキ旨其時時本人ヘ示達ニ及ヒ戶長與印ノ請書ヲ徵シ不取締無之樣取計フヘシ

一　廢業ノ製造人ハ未製造煙草ヲ仲買人ニ賣渡シ製造煙草ヲ仲買人小賣人ニ賣渡ス事

一　廢業ノ仲買人ハ未製造煙草ヲ製造人及ヒ仲買人ニ賣渡シ製造煙草ヲ製造人ニ賣戻スカ

又ハ仲買人小賣人ニ賣渡ス事

一 廢業ノ小賣人ハ製造煙草ヲ製造人仲買人ニ賣戻シ又ハ仲買人ニ賣渡ス事

第三款 煙草稅ノ第三期

前述明治十五年十二月改正ノ煙草稅則ハ當初收入ノ增殖ヲ計ルヲ以テ其目的ト爲シタリシモ爾來其實施上ニ徵スルトキハ該改正ハ毫モ其目的ヲ達スルコト能ハス煙草稅ノ收入ハ年ヲ逐フテ減退ノ傾向アリタリシナリ其此ノ如キ不結果ヲ生シタル所以ノ原因ハ要スルニ左ノ三者ニ歸スルカ如シ

一 稅率偏重ニシテ需要ノ多キ下等煙草ニ重カリシ爲メ勢ヒ營業者ヲシテ百方逃稅ノ方法ヲ講スルニ汲々タラシメタルコト

二 製造煙草包裹裝置ノ方式ヲ檢制スルノ法文ナキト帶印紙ノ性質用法共ニ緩漫ナリシヲ以テ其一度結束ニ供シタルモノヲ拔取ルコト自在ナルニ從テ再貼用脫稅ヲ肆マヽニスル者比々タリシコト

三 賃切人ノ名ヲ假リテ其實ハ製造人ノ資格ヲ侵奪シ加之無印紙煙草ノ販賣ヲ擅ニスル者頻々輩出セルコト

斯クテ不良ノ營業者ハ益〻逃稅ノ手段ヲ巧ニシ順良者ハ益〻檢束ノ煩苛ニ惱ミタリシカハ其極遂ニ順良者ヲ驅リテ不良者ノ群ニ入ラシムルノ傾向アルニ至レリ而シテ是等獘害ノ原ツク所ハ該稅則ノ不備ニ在ルヲ以テ到底之ヲ改正スルニアラサレハ當初ノ目的ニ違フコトアルノミナラス將來國家收入ノ一大要源ヲ涸渴セシムルニ至ルヘキヲ以テ玆ニ之カ改正ヲ斷行シ併セテ當時卷煙草ノ需要盛大トナリタルヲ以テ之ニ對シテモ亦印稅ヲ賦課スルコトヽ爲シ明治二十一年四月六日勅令第二十號ヲ以テ改正煙草稅則ヲ公布シ同年七月一日以降實施スルコトヽ爲セリ其全文ハ左ノ如シ

勅令第二十號（明治二十一年四月六日）

煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人

葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依賴ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依賴ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所每ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限內ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス

證約金　營業場一箇所每ニ　五拾圓以上五百圓以下

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條　煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家族雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條　鑑札ヲ受クル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料　一枚ニ付金二十錢

煙草仕入鑑札料　一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料　一枚ニ付金十錢

第六條　煙草營業者ハ左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅　營業場一箇所ニ付　一箇年金拾五圓

煙草仲買營業稅　營業場一箇所ニ付　一箇年金拾五圓

煙草小賣營業稅　營業場一箇所ニ付　一箇年金　五圓

第七條　煙草營業稅ハ每年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條　煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條　製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條　煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條　外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑トナルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戾ヲ請求スルコトヲ得

但印紙稅ノ下戾ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條　煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スルコトヲ得ス

第十三條　煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條　煙草仲買人ノ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條　何人ニテモ製造人ニ雇使セラルヽノ外人ノ依賴ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルヲ得ス

第十六條　煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スルコトヲ得ス

第十七條　煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條　煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條　何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條　鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條　煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條　煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第二十三條　營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ逋脫ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條　第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條　帳簿ノ記載ヲ僞リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條　第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條　第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條　第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條　煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條　此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消滅シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條　此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條　煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

第三十三條　煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十四條　此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第三十五條　沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條　此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以內ニ管廳ヘ屆出ヘシ

第三十七條　此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以內ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條　此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委托シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條　此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以內ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委托シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

右煙草稅則改定ニ伴ヒ同月二十六日省令第三號ヲ以テ煙草稅則施行細則ヲ發布セリ其全文ハ左ノ如シ

大藏省令第三號（明治二十一年四月二十六日）

今般勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

煙草稅則施行細則

第一條　稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルトキハ其時々管廳ニ屆出ヘシ

第二條　稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラス證約金額ヲ增減スルコトアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ樣式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條　煙草製造營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家族倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人弟子職工ノ數（職工ハ其住所トモ）ヲ其府縣ノ租稅檢查員派出所ニ屆出ヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ屆出ヘシ

第四條　稅則第二條但書及第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ揭クル者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス

一　公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

一　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條　稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ效ヲ失フモノトス

第六條　煙草營業者其營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場內ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ租稅檢查員派出所ニ屆出ヘシ

第七條　稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ其營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限ル

第八條　煙草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

黑色　一枚　二厘

淡赭色	一枚	三厘	
黃色	一枚	四厘	
赭色	一枚	六厘	
蒲黃色	一枚	八厘	
淡青色	一枚	一錢	
茶褐色	一枚	一錢二厘	
淡紅色	一枚	一錢六厘	
桔梗色	一枚	一錢八厘	
橙黃色	一枚	二錢	
老綠色	一枚	二錢四厘	
濃青色	一枚	三錢	
淡黑色	一枚	三錢二厘	
黃綠色	一枚	四錢	
嬌栗色	一枚	四錢八	
紫色	一枚	六錢	
朱色	一枚	六錢四厘	
赤色	一枚	八錢	

第九條　製造煙草ノ包裹每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻煙草每一包(函)ニ付

百匁入	
八十匁入	
六十匁入	
五十匁入	
四十匁入	
三十匁入	
二十匁入	
十五匁入	
十匁入	
五匁入	

卷煙草每一包(函)ニ付

二百本入	
百本入	
五十本入	
二十本入	
十本入	
六本入	

第十條　稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束每ニ各之ヲ紙袋入リ又ハ紙包入リトシ其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固著シテ貼用印紙ヲ破毀セサレ

ハ煙草ヲ取リ出スヲ得サル樣ニ密封スヘシ

製造煙草每個ノ最低定價氏名住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ包裹ノ表面ニ記入スヘシ

第十一條　煙草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得

第十二條　製造煙草每一個ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ四捨五入ノ例ニ依リ二厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條　毀損又ハ汚染セル印紙ハ其效ナキモノトス

第十四條　煙草營業者ハ既ニ用ヒタル煙草印紙又ハ其包裹ヲ所持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若クハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　煙草營業者ハ商品見本トシテ每種刻煙草五匁紙卷煙草十本葉卷煙草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切披キ之ヲ店頭ニ陳列スルコトヲ得

第十六條　稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黑肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條　煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ煙草稅則ニ從フヘシ

第十八條　煙草製造人仲買人ニシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リタルトキハ壹俵壹カマス又ハ壹束每ニ其葉ノ種類量目及ヒ買入レ又ハ預リタル番號年月日賣渡リ主ノ住所資格氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條　煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ屆出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取リ葉拵又ハ貨卷ノ爲ニ煙草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條　煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條　煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　葉煙草ノ種類番號荷造ノ區別箇數量目荷數荷受送主ノ氏名住所

一　製造煙草ノ種類包裹ノ區別箇數荷受送主ノ氏名住所

第二十二條　煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス每ニ之ヲ携帶シ印紙買捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

一　印紙賣渡ノ年月日

一　印紙ノ種類枚數

一　賣捌人ノ氏名住所

第二十三條　輸出製造煙草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類箇數定價印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦同シ

第二十四條　稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條　送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第二十六條　代替ノトキ苦クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管廳ニ屆出左ノ期日以內ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ム

ヘシ

一 代替書換ハ六十日間

一 其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ揭クル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 煙草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ屆出其製造器械ニハ當該官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第二十八條第三十一條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及第三條ノ屆出ヲ爲スヘシ

煙草稅則ノ改正ニ伴ヒ右ノ如ク其施行細則ノ制定ヲ見ルニ至リシカ同年四月更ニ大藏省訓令第二十二號ヲ以テ煙草稅則取扱方要領ヲ定メ稅務官吏ヲシテ遵守スル所アラシム

大藏省訓令第二十二號（明治二十一年四月二十七日）

煙草稅則改正ニ就キ其取扱方要領左ノ通心得ヘシ

煙草稅則取扱方要領

第一款 吸煙ノ用ニ供スル煙草類混和製ノ諸品トモ）ハ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘキモノトス

第二款 左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正稅則ノ精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス

一 葉煙草ノ取締卽チ檢證封印等ノ方法ヲ施スコト

一 收穫ノ調査ヲ施スコト

一 質抵當ニ係ル煙草ノ受授及ヒ廢業者所持ノ煙草賣捌方ニ就テ取締ヲ施スコト

一 煙草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施スコト

一 煙草製造器械ノ取締卽烙印等ノ方法ヲ施スコト

一 內國產製ニ非ル煙草ノ取引賣買貸借等ニ就テ取締方法ヲ施スコト

第三款 稅則第四條仕入出賣ノ免許鑑札ニハ各其受免許人ノ屬籍、氏名、年齡、免許ノ番號、及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ

第四款 製造煙草ノ包裹ニ各種ノ商標彩紋、裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ス但豫メ其見本ヲ租稅檢査員派出所ニ屆出置カシムヘシ

第五款 天災其他抗拒スヘカラサル事故ニ罹リ煙草營業者所持ノ煙草包裹及ヒ其給用印紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ當該官吏其事實ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ許スヘシ

但交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

尋テ同年九月二十六日大藏省令第十號ヲ以テ右施行細則第三條煙草製造ノ下ニ「又ハ煙草仲買」ノ六字ヲ追加セリ是レ該則第三條及第十九條ハ彼是相須テ其效用ヲ完フスルハ固ヨリ言フ迄モナク其要用ハ獨リ製造人ニノミ限リタルモノニアラスシテ仲買人ニモ亦必要缺クヘカラサルヲ以テナリ

斯クテ明治二十二年七月六日大藏省訓令第五十二號ヲ以テ煙草耕作人屆出及取纏方ヲ定メ煙草耕作人非耕作人ノ別ヲ明ニスルハ稅則上緊要ノ事ナルヲ以テ耕作人ノ屆出ハ各地方收稅部出張所ニ於テ之ヲ取纏メ稅則執行上ノ用ニ供シ屆出取纏方ハ各地ノ事情ニ應シ簡便ヲ量リ之ヲ施行スヘキ旨ヲ訓示セリ而シテ輸出ノ際稅金下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ再ヒ輸入セシ者ノ印紙貼用方及其他取扱方等ニ付何等ノ規定ナキヲ以テ二十三年五月開港場アル府縣ニ左ノ訓示ヲ爲セリ其全文左ノ如シ

大藏省訓令（明治二十三年五月十七日）

煙草稅則第十一條但書ノ場合ニ於テ取扱方左ノ通心得ヘシ

第一項　稅則第十一條但書ニ據リテ其金額ヲ納付シタル者ハ之ニ對スル稅關ノ證明書ニ右製造煙草ノ量目包數及ヒ價格目錄ヲ添ヘテ其地租稅檢査員派出所ニ屆出テ檢査ヲ受ケシムヘシ

第二項　前項製造煙草ノ包裹又ハ貼用印紙當初輸出ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタル時ノ形狀ヲ變更シタルモノナルトキハ右輸入主ニ於テ最寄製造人ニ委托シ之ヲ改裝シテ相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

第三項　前項改裝シタル煙草ニ對スル印紙ノ下付ヲ請求スルトキハ租稅檢査員ノ審明ヲ經テ之ヲ下付スヘシ

越テ明治二十四年三月五日大藏省令第二號ヲ以テ煙草稅則施行細則第十五條ヲ左ノ如ク改正セリ

第十五條　煙草營業者ハ商品見本トシテ每種刻煙草五匁紙卷煙草十本葉卷煙草五本ニ超ヘサル包裹ヲ切披キ之ヲ店頭ニ陳列シ又ハ出賣先ニ携帶スルコトヲ得

蓋シ從來專ラ店賣者ニ與ヘラレタル特典ヲ出賣人ニ擴充シ之ニ據リテ以テ其便益ヲ計ルノ主意ニ出テタルナリ然ルニ又施行細則第二十八條ニ依レハ煙草營業者廢業ノ際ハ其製造器械ニ封緘ヲ施スヘキ旨ヲ規定シタリト雖モ非營業者ノ器械ニ對シテ同一ノ規定ナキニヨリ此規則モ又格別ノ效用ヲ爲サヽルヲ以テ同年四月二十四日大藏省令第七號ヲ以テ該則第二十八條及第二十九條中「第二十八條」ノ五字ヲ删除セリ越テ明治二十六年二月十三日ニ至リ大藏省令第二號ヲ以テ煙草稅則施行細則第十條中ニ左ノ一項ヲ追加セリ

第十條第二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ追加ス

煙草營業人ニ於テ所持ノ製造煙草ヲ定價以上ニ賣捌カントスルトキハ原製造人ニ托シ定價ヲ改メ改定定價ニ相當スル印紙ヲ增貼セシム

右ノ改正ハ當時煙草不作ノ爲メ市價ニ著シキ騰貴ヲ來タシタルノ結果此ノ如キ規定ヲ設クルノ必要ニ接シタルニ由ルナリ而シテ同年十二月大藏省令第三十四號ヲ以テ煙草稅則施行細則中更ニ左ノ如ク改正追加セリ

大藏省令第三十四號（明治三十六年十二月一日）

明治二十一年四月當省令第三號煙草稅則施行細則中左ノ通改正追加ス但第十九條ノ改正ハ明治二十七年四月一日ヨリ實施ス

第六條左ノ通改正ス

煙草營業者不在其他事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ會社營業ノ場合ニ於テモ亦之ニ準ス

但代人ノ氏名住所ハ所轄收稅署ニ屆出ヘシ

第七條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但會社ニシテ其事務ニ從事スル役員又ハ常時雇人ヲ以テ仕入出賣ヲ爲ス場合ハ本條ノ限リニアラス

第十條第二項左ノ通リ改正ス

製造煙草ニハ普通ノ文字ヲ以テ每箇ノ（量目 本數）定價及製造人ノ氏名（會社ニ在テハ社名）營業場ヲ鮮明ニ其包裹ノ表面ニ記入スヘシ

第十九條但書中「又ハ賃卷」ノ四字ヲ削除ス

右省令改正追加ノ主意ハ要スルニ從來ノ會社組織ノ營業者ニ關スル規定ノ不備ヲ補ヒ其他製造年月日ノ記入ハ取締上格別利益ナキヲ以テ之レヲ廢止シ免許場外ニ於テハ一切賃卷製造ノ行爲ヲ許スヘカラストノ趣旨ヲ以テ賃卷ノ爲メ場外ニ出スヲ禁シタルナリ然ルニ此改正ノ結果製造家ニシテ此規則ニ從フトキハ更ニ工場ヲ新設シ職工ヲ募集セサル可カラサルモ如何セン人家稠

密ノ市府ニ於テハ適當ノ工場ヲ得ルコト頗ル困難ナルノミナラス夫ノ手內職ニ從事スル細民ハ些少ノ勞銀ヲ獲ンカ爲メニ外勤ノ費用ヲ要シ又多人數ト共ニ就職スルヲ厭フ者モ少カラスシテ營業者ハ職工ヲ得ルコト甚タ難ク或ハ爲メニ漸ク盛ナラントセル卷煙草ノ製造モ遂ニ萎靡衰頹ヲ招クコトナキヲ保セス斯クテハ國庫ノ收入上甚タ得策ニアラサルノミナラス一方ニ葉取葉拵ヲ不問ニ措キ獨リ賃卷ニ限リ禁止スルハ權衡ヲ得タルモノトイフヘカラス是ニ於テカ此三者ハ共ニ從來ノ如ク外住職工ヲシテ爲サシムルコトヲ許可シ同時ニ之ヨリ起ルヘキ弊害ヲ防クノ方法ヲ施設スルコトヽ爲シ明治二十七年三月大藏省令第五號ヲ以テ施行細則中左ノ如ク改正追加スル所アリタリ

大藏省令第五號（明治二十七年三月十三日）

明治二十一年當省令第三號煙草稅則施行細則中左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ實施ス

第十九條但書左ノ通リ改正ス

但第二十條ノ認許ヲ受ケタルモノハ此ノ限リニアラス

第二十條第二十一條ヲ左ノ通リ改正ス

第二十條　煙草營業者營業場外ニ於テ煙草葉取葉拵又ハ賃卷ヲ爲サシメントスルトキハ其仕事ノ種類及職工ノ住所氏名年齡ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ所轄稅務署ニ申出テ認許ヲ受クヘシ

前項認許ヲ受ケタルモノハ通帳ヲ製シ煙草營業者何某使用職工住所何某ト記シ之ヲ職工ニ渡シ置キ煙草ヲ授受スヘシ但通帳ハ使用前所轄收稅署ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ其附込濟又

ハ使用ヲ止メタルトキハ其時々消印ヲ受クヘシ

總テ煙草ヲ授受スルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ授受ノ證トシテ其時々受取人ニ於テ調印スヘシ

一　仕上ケ原料葉煙草又ハ貨卷原料煙草ノ量目及職工ノ受取リタル年月日

一　仕上ケ日限、仕上ノ種類、量目（貨卷煙草ハ原料刻煙草一斤又ハ百匁ニ付仕上何分卷何印何分卷何百本量目何程ト區別記載スヘシ）

一　紙卷煙草ニ用ユル卷紙口紙ノ數量

通帳ハ一箇月分月計ヲ附シ置キ當該官吏ノ求メアルトキハ之ヲ差出シ檢査ヲ受クヘシ

營業者ハ職工ニ於テ煙草ヲ滅失シタルトキハ、三日以內ニ其旨所轄稅務署ニ屆出ツヘシ

左ノ場合ニ於テハ五日以內ニ所轄收稅署ニ屆出ツヘシ

一　職工ニ異動アリタルトキ

一　通帳紛失シタルトキ

一　職工氏名ヲ變更シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキ

第二十一條　煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　葉煙草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷送受主ノ氏名、住所

一　製造煙草ノ種類、包裝ノ區別、箇數、荷送受主ノ氏名、住所

第二十九條中第二十條ノ下「第一項乃至第五項第二十一條第一項」ノ十六字第十八條ノ下「第二十條第六項」ノ七字及第二十一條ノ下「第二項」ノ三字ヲ追加ス

越テ明治二十九年三月二十七日法律第三十四號ヲ以テ煙草稅則第六條第七條ヲ删除シ同則第二十三條ヲ左ノ如ク改正シ明治三十年一月一日以降施行スルコトヽセリ

營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者亦同シ

蓋シ同年法律第三十三號ヲ以テ營業稅法ヲ公布シ三十年以降實施スルコトヽ爲リタルヲ以テ煙草營業稅ハ之ヲ一般營業稅法ノ規定ニ依ラシムルノ必要ヲ生シタルニ由ルナリ當時二十七八年戰役ノ後ヲ承ケ國家ノ經費頓ニ增加シタリシカハ政府新ニ營業稅法ヲ制定シ或ハ酒造稅則ニ改正ヲ施ス等頻ニ國庫ノ增收ヲ企圖スル所アリタリト雖モ未タ以テ國需ヲ充タスニ足ラサリシナリ然ルニ煙草ノ物タル各種課稅物件ノ中ニ在リテモ汎ク一般ニ嗜好スル所ニシテ其消費額モ亦頗ル巨大ナルヲ以テ之ヲ國家ノ專賣ト爲スニ於テハ是等國家急切ノ需要ニ應スルヲ得ルノミナラス又ハ現行印紙稅法ノ煩雜ナル檢束ヲ解キ營業者ニ少カラサル便宜ヲ與フヘキヲ察シ明治二十九年三月法律第二十五號ヲ以テ葉煙草專賣法ヲ公布シ明治三十一年一月一日ヨリ之ヲ施行スルコトヽ爲セリ

右ノ如ク葉煙草專賣法ノ實施ニ由リ煙草稅ハ當然國稅トシテ其存在ヲ失フニ至レリト雖モ同法第三十一條ニ於テハ特ニ之ニ關スル規定ヲ設ケ明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ハ專賣法實施ノ日ヨリ廢止スルモ煙草製造營業者ニ於テ專賣法施行前ヨリ持越タル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シテハ仍煙草稅則ヲ適用スル旨ヲ定メタリ是ニ於テカ明治三十一年一月一日以後ト

雖モ此等ノ煙草ニ對シテハ仍印紙ヲ貼用シテ納稅セシムルコトヽナレリト雖モ政府ハ此等ノ煙草ニ對スル特別ノ徵稅法ヲ採ルヲ便トシ煙草製造高ヲ豫定シ之ニ貼用スヘキ印紙ニ相當スル稅金ヲ納付スルヲ得ルコトヽシ明治三十年三月法律第四十號ヲ以テ左ノ如ク公布セリ

法律第四十號（明治三十年三月三十日）

第一條　明治二十九年法律第三十五號葉煙草專賣法第三十一條但書ノ場合ニ於テ煙草製造業者ハ煙草製造高ヲ豫定シ之ニ貼用スヘキ印紙ニ相當スル稅金ヲ納付スルコトヲ得其ノ製造高及定價計算方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ納金額ハ政府ノ認許ヲ得テ之ヲ分納スルコトヲ得但明治三十一年六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス前二項ニ依レル納稅濟ノ煙草ニ對シテハ明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用セス

附則

第二條　此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

右煙草稅現金納付ニ關スル法律ニ基キ同年十月勅令第三百四十號ヲ以テ其納付申請手續及現金納額算出標準等ヲ定メタリ卽左ノ如シ

勅令第三百四十號（明治三十年十月二日）

第一條　明治三十年法律第四十號ニ依リ煙草稅ヲ現金ニテ納付セムトスル者ハ葉煙草ノ量目及豫定製造量目豫定定價定額ヲ記載シタル申請書ヲ明治三十一年一月三十一日限リ所轄稅務署ニ提出スヘシ其ノ稅金ヲ分納セムトスルトキハ分納スヘキ時期及各期ノ納金額ヲ附記スヘシ

第二條　豫定製造量目ハ明治三十年六月ヨリ十二月ニ至ル各自ノ製造歩合ニ依リ之ヲ定ム豫定定價ハ明治三十年六月ヨリ十二月ニ至ル各自ノ製造總量目ニ對スル定價ノ歩合ニ依リ之ヲ定ム

煙草製造業ニシテ前二項ノ期間ニ製造ヲ爲サヽル者ノ豫定製造量目及豫定定價ハ同期間ニ於ケル所轄稅務署管內ノ煙草製造業者ノ平均歩合ニ依リ之ヲ定ム

煙草稅現金納付ニ關スル制度ハ營業者ニ於テ極メテ便利ナルヲ以テ此方法ニ依リテ納稅スルモノ頗ル多キヲ見タリ

煙草稅收入額

年度	印稅	營業稅	鑑札料	合計
明治八年度	—	—	—	二〇六、七四八・三九七
同九年度	三五、八六二・七七七	二〇八、二八五・九〇〇	〇	二四四、一四八・六七七
同十年度	四五、一〇二・六二〇	一八一、九七七・七七〇	〇	二二七、〇八〇・三九〇
同十一年度	七四、一四〇・四四六	二〇〇、三九二・三五一	〇	二七四、五三二・七九八
同十二年度	五五、四五一・二二六	二一四、一二四・〇三七	〇	二六九、五七五・二六三
同十三年度	六七、〇六五・三二八	二二五、八一五・七八六	〇	二九二、八八一・一一四
同十四年度	五〇、六四五・〇四〇	二二五、六八七・三二五	〇	二七六、三三二・三六五

同	十五年度	四九、八一二、六七一	二三一、〇三六、七三八	〇	二八〇、八四九、四〇九	
同	十六年度	一、七八九、二五三、六八三	三六四、九五七、三三九	〇	二、一五四、二一一、〇二二	
同	十七年度	九七三、一八九、三九八	三二一、一二六、一一一	〇	一、二九四、三一五、五〇九	
同	十八年度	六三六、九八八、四七二	二六八、二九八、四九一	〇	九〇五、〇八六、九六三	
同	十九年度	九七九、八四四、三〇三	二五〇、六七二、四八五	五、二九七、四〇〇	一、二三五、八一四、一八八	
同	二十年度	一、三一三、七六六、四五三	二七〇、八三七、〇六一	六、一四八、四〇〇	一、五九〇、七五一、九一四	
同	二十一年度	一、六一九、二八七、〇〇〇	二八〇、五三八、〇〇〇	七、五一七、〇〇〇	一、九〇七、三四二、〇〇〇	
同	二十二年度	一、六六六、七八八、〇〇〇	三〇八、〇三六、〇〇〇	六、七二二、四〇〇	一、九八一、五四六、〇〇〇	
同	二十三年度	一、四九三、二八五、〇五二	三一四、三四九、二三八	六、二七八、七〇〇	一、八一三、九一二、九九〇	
同	二十四年度	一、四七四、九八九、四四五	三一七、二二四、九三三	五、九二二、五〇〇	一、七九八、一三六、八七八	
同	二十五年度	一、八三三、九八三、八二四	三二七、六六五、三五六	五、八〇〇	二、一六一、六五四、九八〇	
同	二十六年度	二、二八四、一二五、三四七	三五六、二二五、四四四	〇	二、六四〇、三五〇、七九一	
同	二十七年度	二、三〇二、〇四二、八〇六	三七八、四二五、〇七三	〇	二、六八〇、四六七、八七九	
同	二十八年度	二、三五一、七三三、五四四	三八九、〇四〇、七四四	〇	二、七四〇、七七四、二八八	
同	二十九年度	二、七七〇、四三一、六五九	三〇七、一九八、三一四	〇	二、九七七、六二九、九七三	
同	三十年度	三、五七八、七二九、九八三 *一、三五六、四四二、八五九	〇	〇	四、九三五、一七二、八四二	
同	三十一年度	九〇八、九九三、五六一 *一、二一一、五六一、四五一	〇	〇	二、一二〇、五五五、〇一二	

（備考）

一 前表中＊印ヲ付スルハ明治三十年法律第四十號ニ依リ煙草稅則ニ依ラス現金ヲ以テ收納セシモノナリ

一 明治八年度ハ本稅收入額ノ細則不明ナルヲ以テ其合計額ノミヲ示ス

第十節 菓子稅

菓子稅ハ明治八年以前ニ在リテハ雜稅ノ名ノ下ニ菓子商菓子問屋菓子種商稅饅頭屋稅餡物商稅等諸種ノ租稅トナリテ存在シタリシモ此等ノ租稅ハ孰レモ舊來ノ慣習ニ依リタルモノニシテ其稅目稅率區々タリシノミナラス其收入モ亦極メテ僅少ナルモノニ過キサリシニヨリ明治八年二月布告第二十三號ヲ以テ政府ハ舊慣ニ依リ徵收セル雜稅總目凡一千五百餘種ヲ廢止シ之ヲ國庫ノ收入ヨリ放棄シ府縣ヲシテ適宜府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得セシメタリ尋テ十一年十二月布告第三十九號ノ公布ニヨリテ菓子稅ハ全ク營業稅ノ一トシテ地方ノ稅源ヲ組成スルコトヽナレリ斯クテ明治十八年ノ頃ニ至リ陸海軍備ノ擴張ハ愈財政上歲入增加ノ必要ヲ生シタルヲ以テ遂ニ新ニ菓子稅ヲ起スノ議ヲ決シ同年五月八日布告第十一號ヲ以テ菓子稅則ヲ制定セリ其規定ニ依レハ菓子ニ關スル營業稅製造稅ノ二トシ營業稅ヲ分テ製造營業稅、卸賣營業稅、小賣營業稅ノ三種トシ雇人ノ多少ヲ標準トシテ一定ノ稅ヲ課シ製造稅ハ菓子製造人ニ對シ賣上金高百分ノ五ノ比例稅ヲ課セリ菓子稅則ノ全文左ノ如シ

布告第十一號（明治十八年五月八日）

菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

菓子稅

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人 菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人 菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人 菓子ヲ需要人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ屆出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ屆出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年金拾圓

雇人二人以下アル者 一箇年金五圓

雇人ナキ者 一箇年金壹圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年金拾圓

雇人二人以下アル者 一箇年金五圓

雇人ナキ者 一箇年金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一箇年金七圓

雇人二人以下アル者 一箇年金參圓

雇人ナキ者　一箇年金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス

露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條　營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條　營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又ハ新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人增加シタルトキハ該期ノ增稅ヲ納ムヘシ

第十一條　菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期　一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ係ル分　其年八月三十一日限

第二期　七月一日ヨリ十二月三十一日迄賣上金高ニ係ル分　翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高三十圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條　菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ屆出ヘシ但增員アルトキハ其時々之ヲ屆出ヘシ

第十三條　菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ屆出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分　其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分　翌年一月十五日限

第十四條　菓子製造人ハ菓子並ニ其製造原品ノ賣買ヲ帳簿ニ記載シ置ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

第十五條　菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十六條　主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第十七條　第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第十八條　第十二條第十三條ノ屆書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第五條第六條第十二條第十三條ノ屆出ヲ怠リタル者及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條　菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

斯クテ菓子稅則ハ同年七月一日ヨリ實施セラルヽコトヽナレルヲ以テ同年五月大藏省達第二十四號ヲ以テ菓子稅則取扱心得書ヲ定メ同法施行ニ關スル細則ヲ定メタリ卽左ノ如シ

大藏省達第二十四號（明治十八年五月十六日）

本年五月第十一號布告ヲ以テ菓子稅則被定候ニ付取扱心得書別冊之通相定ム

菓子稅則取扱心得書

第一項

菓子營業免許鑑札用紙ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ收稅長ヨリ主稅官長ニ宛テ之ヲ請求スヘシ

第二項

免許鑑札面ノ記載方ハ第一號雛形ニ倣フヘシ

第三項

菓子仕入鑑札出賣鑑札ハ第二號雛形ニ倣ヒ管廳ニ於テ調製シ下渡スヘシ

第四項

免許鑑札台帳ハ第三號雛形ニ倣ヒ調製シ管廳ニ備ヘ置クヘシ

第五項

稅則第五條ニ依リ鑑札ヲ再渡若クハ書換ヲ爲スカ或ハ稅則第六條ノ廢業ヲ屆出ルトキハ臺帳ニ其事由ヲ記入シ又臺帳記載ノ廉ニ變更アルトキハ之ヲ訂正シ主任官吏之レニ檢印スヘシ

第六項

露店又ハ呼賣專業ノ者ニハ出賣鑑札ヲ下付スルノ限ニ在ラス

第七項

左ノ諸項ニ該ル者ハ免許鑑札ヲ下付スルノ限リニ在ラス

一　航行中船內ニ於テ船客ニ販賣スルモノ

一　料理屋又ハ旅籠屋茶店等ニ於テ茶菓子トシテ來客ニ出スモノ

第八項

甲管下ノ營業者ニシテ乙管下ニ移轉スル者ハ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳ニ出願セシメ甲管廳ハ左ノ諸項ヲ記シタル添翰ヲ作リ之ヲ下渡シ乙管廳ハ其添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

但シ乙管廳ニ於テ鑑札下渡濟ノ上ハ其旨ヲ甲管廳ニ通知スヘシ

一　營業ノ種類

一　雇人ノ員數

一　移轉前月迄ノ賣上高及納稅ノ濟否（製造人ナルトキハ）

第九項

營業者不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ此場合ニ於テハ委任狀寫ヲ添ヘ其人名ヲ屆出シムヘシ

第十項

製造人廢業ノ節ハ納期ニ拘ハラス製造稅ヲ完納セシムヘシ

第十一項